

立命館

父母教育後援会だより



A Magazine for Ritsumeikan University
Parents Association of Student Education Assistance

2012年度
冬号

2012 Winter Issue

CONTENTS

【特集】 海外留学のすべて

3 「海外留学」の障壁となる3大要素とは? 4 チャートで見る! 留学成長ストーリー 7 目標ある留学で、自分を超えていく 8 留学Q&A

10 親の心配、子どものホンネ。	40 父母教育後援会だより2012年度夏号 読者アンケートについて	50 奨学金制度について
12 学びと成長のモデル集	41 保健センター健康通信	52 禁煙の取組みについて
19 秋のオープンカレッジ	42 立命館のゼミナール訪問	54 学生イベント&スポーツ
34 アカデミック京都ウォッチング	46 施設紹介	
38 アカデミック講演会 in Kyoto	48 きょうのおひる	



特集

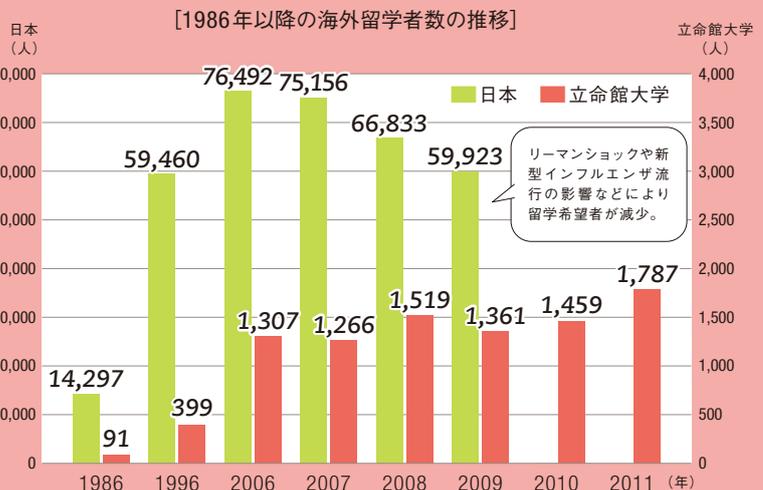
海外留学のすべて

Creating a Future Beyond Borders 自分を越える、未来をつくる。

近年、日本を取り巻く環境が大きく変化し、ボーダーレスな経済競争が激しさを増すなか、いわゆるグローバル人材が求められてきています。30年前から本学では、大学時代の海外経験がその後の学びや人生を豊かにするための契機ととらえ、国際教育や海外留学支援を多様な形で提供してきました。世界を知ること、自分自身と向き合う機会を一人でも多くの学生にもってほしいと考えています。そして、将来のなりたい自分像を描く中で留学を経験し、社会のなかで果たすべき役割や、今の自分にできることについて学生生活のなかで考え抜いてほしいと願っています。今回は、「自分」を含めた様々なボーダーを超える大きなきっかけとなり得る「海外留学」を特集します。

「留学いまむかし」

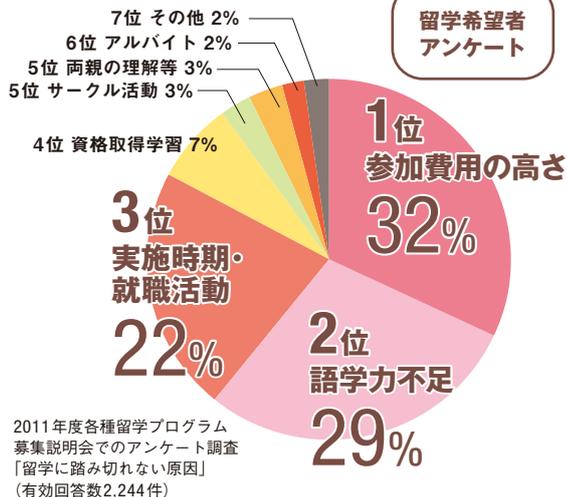
日本国内の海外留学人数は、2004年の82,945名をピークに減少傾向にあります。これは長引く経済不況や若者の内向き志向など、様々な要因が考えられます。立命館大学の海外留学派遣の歴史は1986年に始まります。当時は海外セミナー（現在の「異文化理解セミナー」）のみの、1プログラム・3コース・91名という小規模なものでしたが、15年後の2011年度には50プログラム・212コースを数え、全学で1,800名近い学生を海外に派遣するまでになりました。本学の留学プログラムの種類・規模、支援体制は、全国の大学の中でも大変充実したものとなりました。



※【日本の統計出典】OECD「Education at a Glance」、ユネスコ統計局、IIE「Open Doors」、中国教育部、台湾教育部等の統計を基にした、文部科学省による集計（平成24年1月発表分）

「海外留学」の障壁となる 3大要素とは?

本学では学生の2割近くが海外留学経験をしており、海外留学が稀な経験であるという印象は薄まりつつあります。とはいえ、その実現にむけてクリアすべきハードルは、留学プログラムの種類や時期によってそれぞれちがいます。各種アンケートから垣間見る、留学実現の障壁となる要因とその対策についてご紹介します。



1位 参加費用の高さ

留学費用はプログラムや地域、期間によっても異なりますが、ご父母のみなさまにとっては大変頭の痛い問題かと思えます。少しでも経済的な負担を軽減するため、本学では、留学プログラムへの派遣が決定した学生全員に、給付制の奨学金を支給しています。また、2012年度より、国際教育センターが実施する留学プログラム参加希望者で家計状況により参加が困難な方を対象とした経済支援制度もスタートしました。これらの制度を利用し、一人でも多くの学生に留学を実現して欲しいと考えています。

【費用の目安】 ※下記のほか、本学学費の納入が必要です。

短期プログラム (2-4週間)	中期プログラム (8-14週間)	長期プログラム (6-8ヶ月間)
アジア圏：20-30万円 欧米圏：30-60万円	70-120万円	100-230万円 ※交換留学は本学学費のみ + 渡航費・保険料・生活費等

- ・派遣決定者全員に給付：「立命館大学海外留学プログラム参加奨励奨学金」
- ・家計基準あり：「立命館大学海外留学プログラム経済支援奨学金」

P8
「留学Q&A」へ

2位 語学力不足

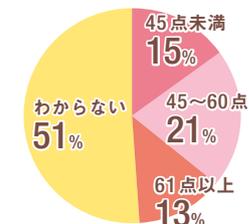
右の表は、英語圏への留学を目指す学生などが受験することの多い、英語の能力検定試験のひとつである「TOEFL iBT®」受験者のうち、アジア諸国・地域30か国の受験者の平均点を国・地域別に順位付けしたものです。なんと日本は30か国中28位という結果に。グローバルに活躍するためのツールである英語力の向上は、多くの日本人にとって大きな課題です。交換留学など、英語圏での学部正規レベルの留学には、一般的に80点以上が必要とされています。しかし、多くの学生が61点未満で、リーズナブルな交換留学を希望しながらなかなか実現できない実態がうかがえます。語学力の向上には時間がかかり、また試験対策の必要もあるため、早期からの計画的な準備が必要です。立命館大学では、大学で学ぶ外国語科目のほか、言語習得センター（CLA）で様々な課外講座を開講しており、語学力向上を目指す多くの学生が学んでいます。キャンパス内で学べるので放課後の時間を有効に使い、一般的な語学学校や専門学校等と比べ価格も安くなっています。英語だけでなく、フランス語やドイツ語、スペイン語、朝鮮語といった各種外国語の講座も開講されています。

ラムを多数実施しています。応募の際に語学要件が不要なプログラムもありますので、まずは語学力アップを目的とし、異文化体験を積むためにも、ご父母の積極的な支援をお願い致します。

【2011年TOEFL iBT®
アジア諸国・地域別平均点ランキング】

順位	国・地域名	平均点
1	シンガポール	99
2	インド	92
3	パキスタン	90
4	マレーシア	89
5	フィリピン	88
28	日本	69

【留学希望者の英語力の実態】



※「順位」は30カ国・地域、「平均点」は120点満点中
【出典】
Test and Score Data Summary for TOEFL iBT® R Tests and TOEFL® PBT Tests - January 2011–December 2011 Test Data by Educational Testing Service(ETS)

※2011年度各種留学プログラム募集説明会でのアンケート調査(有効回答数1,148件)
※点数はTOEFL iBT®(換算)を基準としています。

3位 実施時期・就職活動

ゼミでの研究・卒業論文の準備が本格化する3回生後半は、学業の他にも就職活動がスタートする時期でもあり、学生生活の中でも大変重要な時期です。この点からも、特に長期留学を目指す場合、できるだけその前に留学を終わらせたいと考える学生が多くなっています。しかしながら、応募時期に必要な語学スコアの取得が間に合わないといった理由から、2回生での留学が叶わず、大学での留学をあきらめるケースが大変多くなっています。このため、長期の大学正規課程への留学応募者数が少なく、毎年、派遣枠が埋まらないという状況が続いています。就職活動に関して言うと、3回生以上で長期留学をする場合、留学帰国後はすでに企業の採用活動が始まってしまっているというケースも少なくありません。したがって、留学前にキャリアオフィスのガイダンスや相談などを通じて、留学中でもできることを計画し、帰国後のスムーズな就職

活動に備えることがポイントとなるでしょう。一方で、昨年より、特にグローバル人材を求める企業が留学帰国後の4回生以上を対象とした就職フェアを実施するなど、採用担当者は留学経験者に熱い視線を送っています。以前と比べ、日本の就職活動の時期が留学の障壁となる状況は改善してきていると言えるでしょう。就職活動を心配しすぎて留学をあきらめてしまうのは大変残念なことです。どれだけ器用に就職活動をするかに執心する以前に、学生時代にどのような目的を持って、何に取り組み、何を学び、何を得たかについて自信を持って語れることが、希望の進路実現に最も大切な要素なのです。そういう意味では、留学もひとつの経験に過ぎませんが、海外での大きなカルチャーショックからくる様々な壁を乗り越えることを通じて、自分の可能性を大きく広げる成長のチャンスであることを強調しておきたいと思えます。

チャートで見る! 留学成長ストーリー

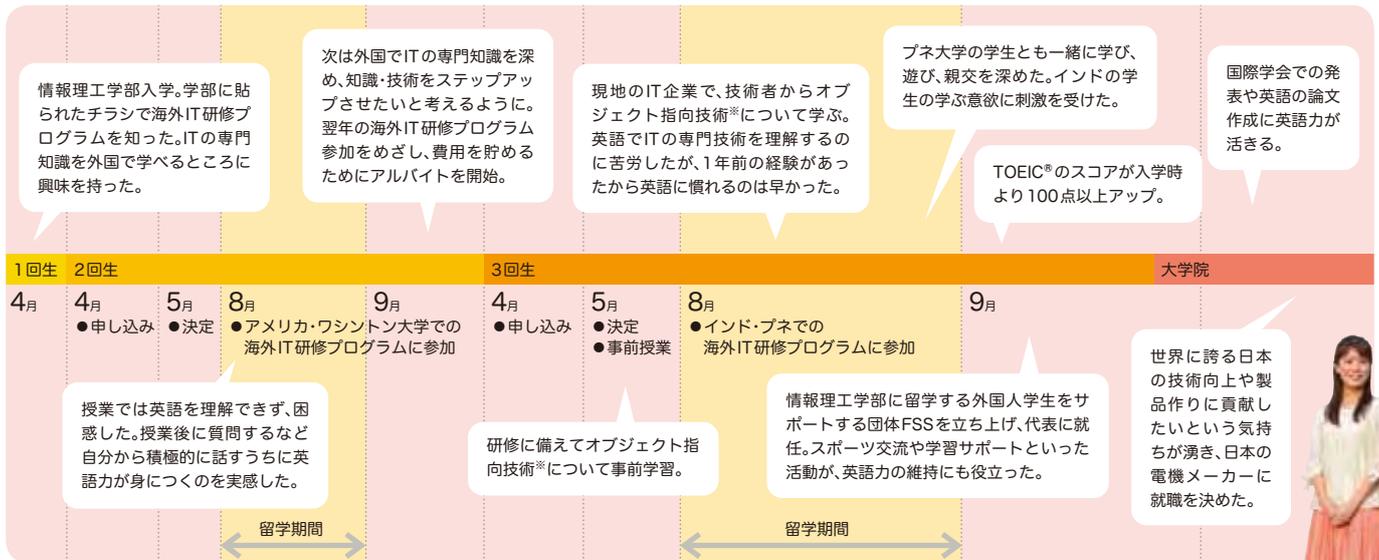
立命館大学では数週間の短期から1年以上に及ぶ長期まで、多種多様な留学プログラムを用意しています。各プログラムを通してできる経験、費用や準備、帰国後の学生生活への活かし方。留学体験者がその成長のプロセスを語りました。

CASE 01

理工学研究科2回生
高柳 亜紀 さん

情報理工学部「海外IT研修プログラム」(アメリカ・ワシントン/インド・ブネ)に参加 [2012年度インドIT研修実績]

- ビジネス英語…18時間
- ソフトウェア工学・統一モデリング言語等研修…24時間
- プログラミング・ソフトウェア設計…24時間
- ミニプロジェクト・プレゼンテーション…21時間
- インド産業リサーチ(現地NGO訪問)…15時間



※オブジェクト指向技術…大規模なソフトウェア開発に有効な考え方とされるソフトウェア開発の手法の1つ。

IT先進国で学び、日本の技術発展に貢献したいと思うように

大学に入学したばかりの4月、情報理工学部に応け出されたチラシを見て、「海外IT研修プログラム」に興味を持ちました。英語力を習得するだけでなく、ITの専門分野を外国で学べるプログラムは他に聞いたことがありません。「ぜひ参加してみたい」と思いました。

最初は2回生の8月、4週間の日程でアメリカのワシントン大学での海外IT研修プログラムに参加しました。大学のあるシアトルは、世界有数のIT企業が数多く集まる場所です。研修では、グーグルやニンテンドーUSA、シスコシステムズといった名だたるIT企業を訪問。社員の方から話を聞いたり、働く環境を見学したりと、普通の留学や旅行では決して得られない貴重な体験を積むことができました。最先端のIT企業を垣間見たことで、「次は、最新のIT知識や技術についても外国で学んでみたい」と、新たな意欲が湧いてきました。



1年間、アルバイトで留学費用を貯め、3回生の

夏、今度はインドのブネでの海外IT研修プログラムに参加。いまやIT先進国といわれるインドのIT関連人材育成機関で、現地の技術者からオブジェクト指向[※]などの専門技術を学びました。渡印前に日本で事前研修を受けたものの、専門技術を英語で理解するのは、想像以上に大変でした。助けてくれたのは、ブネ大学の学生たちです。学習を手伝ってくれるだけでなく、放課後は一緒に観光や食事を楽しむなど、現地での生活をサポートしてくれました。貪欲に知識を吸収しようとするインドの学生の積極性に刺激を受ける一方、ITについて外国の大学生と対等に学び、意見を交換できたことも嬉しく思いました。「彼らに負けないようもっと勉強しよう」と、学習意欲が高まりました。何より大きな変化は、グローバルな視点から日本を眺めることで日本の技術力の高さを再認識し、私もその発展に貢献したいという気持ちが芽生えたこと。大学院へ進学し、現在は画像解析・処理について研究しています。「いずれは世界に誇れる日本製の技術や製品を生み出したい。」そんな夢を抱き、電機メーカーへの就職を決意しました。



夏、今度はインドのブネでの海外IT研修プログラムに参加。いまやIT先進国といわれるインドのIT関連人材育成機関で、現地の技術者からオブジェクト指向[※]などの専門技術を学びました。渡印前に日本で事前研修を受けたものの、専門技術を英語で理解するのは、想像以上に大変でした。助けてくれたのは、ブネ大学の学生たちです。学習を手伝ってくれるだけでなく、放課後は一緒に観光や食事を楽しむなど、現地での生活をサポートしてくれました。貪欲に知識を吸収しようとするインドの学生の積極性に刺激を受ける一方、ITについて外国の大学生と対等に学び、意見を交換できたことも嬉しく思いました。「彼らに負けないようもっと勉強しよう」と、学習意欲が高まりました。何より大きな変化は、グローバルな視点から日本を眺めることで日本の技術力の高さを再認識し、私もその発展に貢献したいという気持ちが芽生えたこと。大学院へ進学し、現在は画像解析・処理について研究しています。「いずれは世界に誇れる日本製の技術や製品を生み出したい。」そんな夢を抱き、電機メーカーへの就職を決意しました。

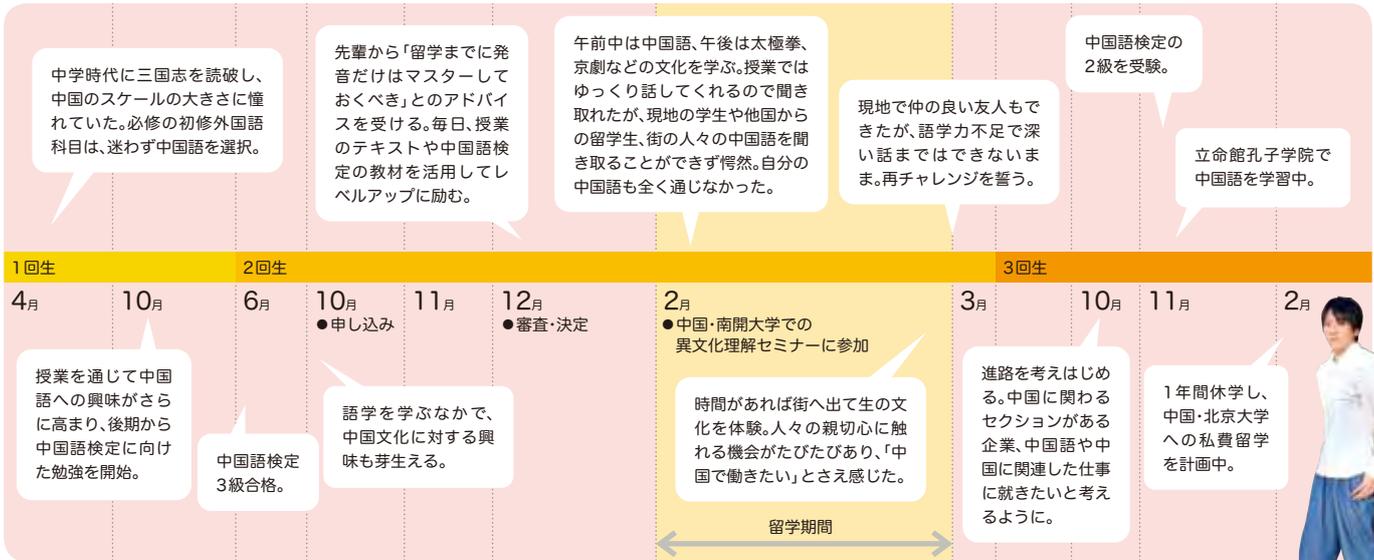


CASE 02

産業社会学部3回生
毛利 円哉 さん

異文化理解セミナー（中国・南開大学）に参加 [2011年度実績]

- 中国語研修…46時間
- 伝統文化体験（二胡、書道、中国絵など）…9時間
- 放課後、週末にフィールドトリップ、現地学生との交流、北京・蘇州・上海への研修旅行



中国に関わる仕事に就くという新たな目標を見出した

中国語や中国文化への興味から異文化理解セミナーに参加。現地で強く心を打たれたのは、見知らぬ人に対しても親切に接する中国人の国民性です。単なる興味の対象ではなく、「住みたい」と思うほどの大きな存在になりました。円滑な意思疎通はできなかったものの、参加前にと比べてと語学力は確実にアップ。中国とのつながりがある企業に就職するという目標を見出せたことも大きな収穫です。北京大学での私費留学期間中には、中国のために何ができるのか、自分なりの関わり方を探りたいと考えています。

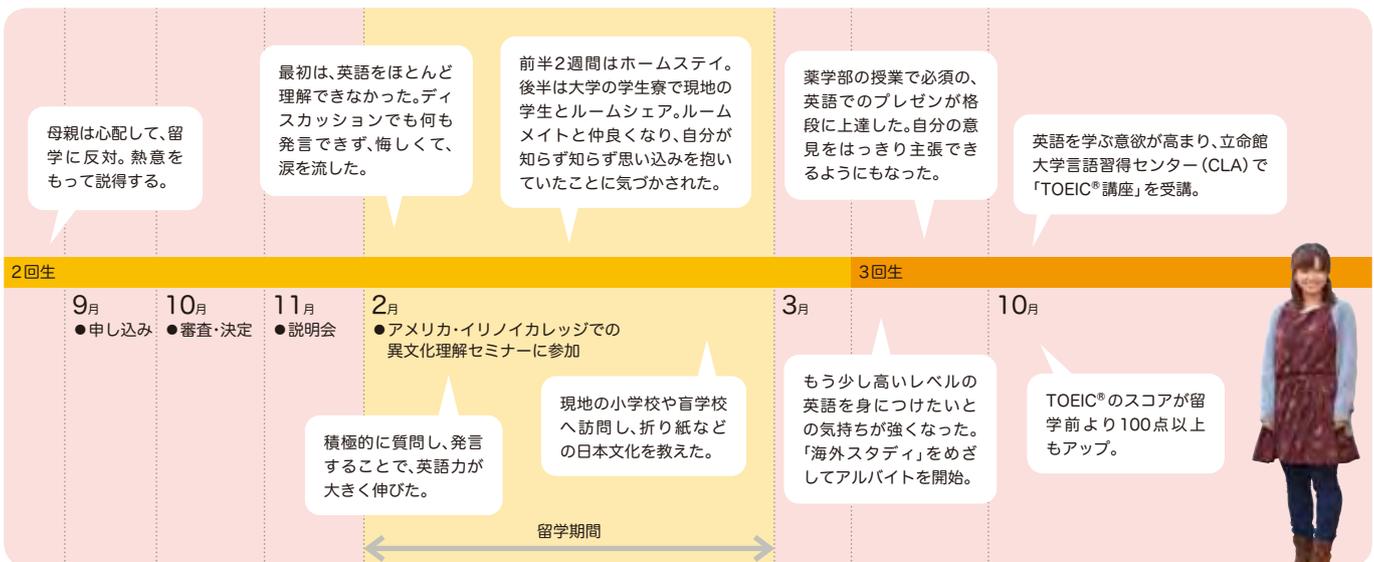


CASE 03

薬学部3回生
青野 眞実 さん

異文化理解セミナー（アメリカ・イリノイカレッジ）に参加 [2011年度実績]

- アメリカの文化・社会をテーマにした講義…50時間
- 放課後、週末にフィールドトリップ（障害者学校・介護施設訪問、博物館見学）、ボランティア等地域活動・現地学生やホストファミリーとの交流イベント、シカゴ研修旅行



世界に視野を広げて将来を考えるようになった

薬学部は取得単位数が多く、長期留学は難しいため、長期休暇中に行ける異文化理解セミナーに参加しました。1ヶ月という短期間でしたが、英語漬けの生活で英語力は格段に高まりました。また意見をはっきり主張したり、堂々とプレゼンできるようになるなど学ぶ姿勢が積極的になったことにも成長を感じています。一番の収穫は視野を世界に広げて将来を考えるようになったこと。卒業後は外資系企業などグローバルな分野で専門知識を活かしたいと考えようになりました。

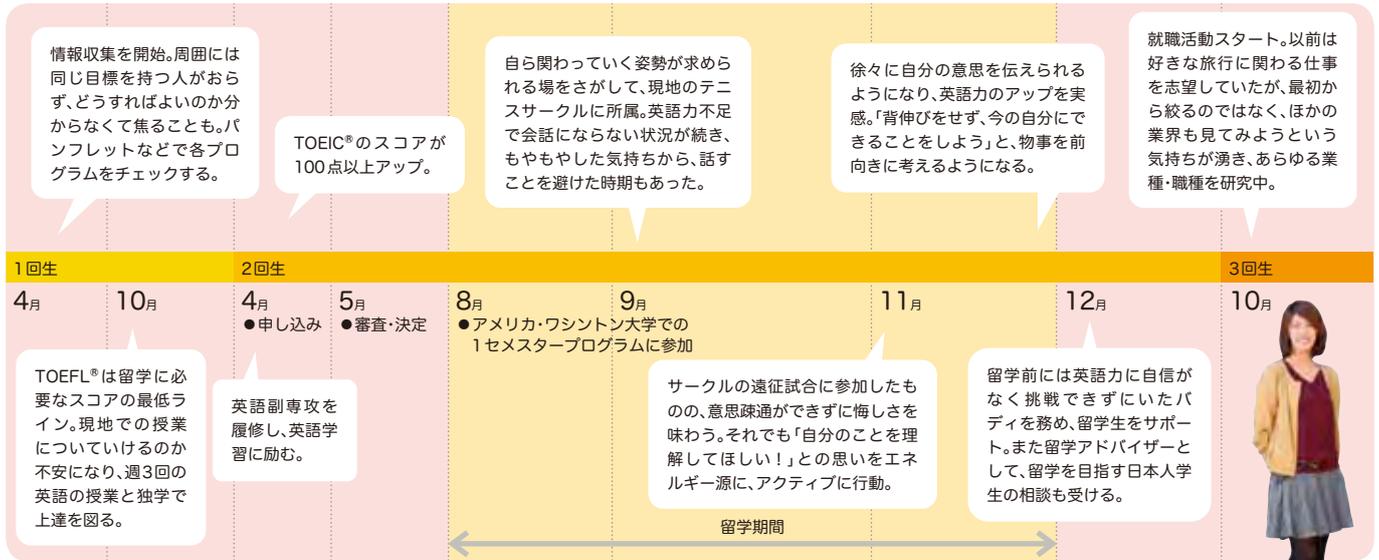


CASE 04

文学部3回生
荒川 郁美 さん

立命館・ワシントン大学「環境と人間」プログラム（アメリカ・ワシントン）に参加 [2011年度実績]

- 英語研修…150時間
- 持続可能ビジネス、環境等の専門講義…60時間
- 講義サポートクラス…40時間
- 放課後、週末にフィールドトリップ・地域活動・プレゼンテーション



人のために役立ちたい。そんな思いを軸に考え、行動するようになった

以前から、留学生のホストファミリーとして海外の人と交流する機会が多かったこともあり、漠然と「留学したい」と思っていました。具体的な目的を見出したのは、姉二人が留学を経験した後です。憧れの留学を実現することで自信を得たいという気持ちが強くなりました。

入学直後から情報を収集し、併行して、英語力の向上にも着手。1回生の冬に受けたTOEFL®のスコアで、応募条件の最低ラインをクリアできました。異文化交流に慣れるため、学内の国際交流イベントにも積極的に参加しました。

立命館での学びも大切にしたいとの思いから、短期のプログラムを検討。進路の候補だった旅行業を学べるところに惹かれて選んだのが、ワシントン大学での約3ヵ月半のプログラムです。アメリカなら、多種多様な文化を持つ人との交流を通じて視野を広げられるのでは、という期待もありました。

現地では、午前中は同じプログラムに参加する立命館の学生とシアトルの環境などについて学び、午後から、さまざまな国の留学生と一緒に英語の授業を受けました。また1ヵ月経った頃からは、放課後を利用して現地のテニスサークルにも参加。留学生向けのイベントを運営する現地学生は私たちを理解しようとしてくれますが、サークルの部員たちはそうではありません。あえて、自分からコミュニケーションを図る姿勢が求められる場に身を置きたいと考えたのです。

そんな私の前に立ちはだかったのが、言葉の壁です。プレーしているときはすごく楽しいのに、いざ話そうとすると会話にならない。自分

自身の語学力不足に苦しみました。遠征試合に連れて行ってもらった際も、部長の指示が分からず聞き直したり、皆が盛り上がっているのに私だけついていけなかったり…。



英語を話すことが嫌になった時期もありましたが、悔しさをバネに「こんなことをしていても意味がない」と気持ちをリセット。一緒に過ごす機会が増えたこともあって、再び積極的に話せるようになり、帰国の1ヵ月前には、私の個性を分かってもらえるまでになりました。自力で壁を乗り越えたことで、さらなるコミュニケーション力の向上はもちろん、目標でもあった自信、さらに、行動力を培うことにもつながったように思います。

帰国後は、留学先で助けてもらったように、今度は私が何かしたいという気持ちが芽生え、留学生の日常をサポートするバディとして活動しています。バディは留学前、自信がなくて、興味がありながらもチャレンジできなかったことの一つ。何事も、できるか否かを思案し諦めるのではなく、まずは行動に移すようになりました。また、広い視野で将来を見つめ、人のために、留学を通じて得た力を活かしたいと考えようになったことも大きな変化。大学の留学アドバイザーを務めながら、現在、興味があった旅行業関連にとどまらず、さまざまな業界に目を向けて進路を模索しているところです。辛い体験をし、それを乗り越えた自分だからこそできる仕事を見つけ、貢献できればと思っています。

株式会社ディスコ 留学生支援担当者に聞く

目標ある留学で、 自分を超えていく

企業の人材採用や大学のキャリア教育、就職支援など幅広い人材支援事業を展開する株式会社ディスコ。留学支援や留学経験者を対象とした就職イベントの開催などグローバル人材の育成と就職支援にも力を注いでおられます。担当するお二人に、キャリア形成と海外留学の関わりについてうかがいました。

採用広報カンパニー
学生広報グループ コンサルタント (留学生支援担当)
田口香織さん

採用広報カンパニー
グローバルスタディグループ
マネージャー
奥村倫也さん

当社では、毎年アメリカで、海外で学ぶ日本人留学生を対象とした就職イベントを25年にわたって開催するなど、早くからグローバルに活躍する人材の就職支援に取り組んできました。ことに近年、そうした海外留学経験者に対する採用ニーズが高まっています。実際に私たちの調査でも、留学経験者を採用する企業は年々増えています。注目すべきは、グローバルにビジネスを展開する大手企業はもちろん、特に留学経験を採用基準に入れていない企業の多くでも、結果的に留学経験者の採用が増加していることです。これは、留学経験というより留学を通して得た素養を企業が評価しているためだと私たちは考えています。留学経験者の中には、留学したという事実



や語学力をアピールする人がいますが、求められるのは、グローバルマインドを備えながら、創造性や行動力を駆使して問題を解決したり、多くの人とコミュニケーションを取り、その中でリーダーシップを発揮すること。留学を通してそうした力を育んだ人材こそ、企業は必要としているのです。

留学では、自分の価値観の通用しない異文化環境で、日本では経験しないような挫折や苦しみにぶつかります。そうした時、ただ嘆いたり憤ったりするのではなく、「なぜそうなのか」とその背景や歴史、

文化について学び、変えるためにはどうしたらいいのかと考えることが大切です。そうした経験を通して、環境や人間関係がめまぐるしく変わったとしても、自分を見失わずに生き抜く力が身につくとともに、「世界の貧困問題を解決したい」「社会の発展に貢献したい」といった思考(世界観・社会観)の広がりにもつながっていくことでしょう。それこそが留学の真の意義だと私たちは考えています。

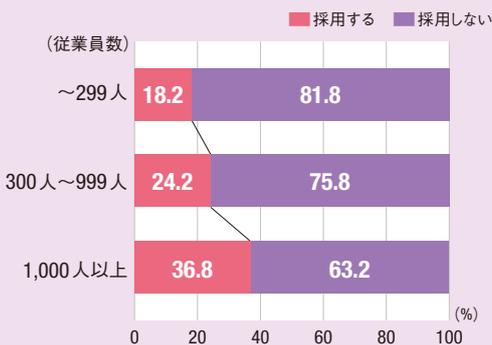


とはいえ、学生の皆さんの中には留学すれば変わる、就職に有利になると短絡的に考える人がいます。それは大きな落とし穴です。刺激や体験を待つ受け身の姿勢では、得るものも多くありません。目標を定めて主体的に行動した人ほど大きく成長します。些細な目標でも構いません。留学する前に留学で何をしたいか、将来にどう活かしたいかといった目標を定めることを心がけてください。

アジア諸国が目覚ましい経済成長を遂げる今、世界各国の企業がアジア市場への進出を図っています。そうした中、アジアのローカルな言語や文化に長けている人へのニーズも高まっています。留学先は依然として欧米諸国が人気ですが、今後はアジアへの留学も重要な選択肢になるでしょう。学生の皆さんには、自分の将来を見すえ、キャリア形成の一つとして広い視野で留学を考えてほしいです。

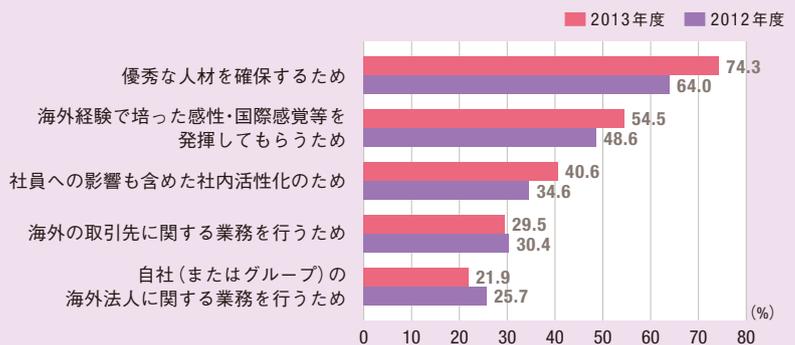
■ 留学経験者の採用意欲

従業員規模 1,000人以上の大企業は約4割



■ 留学経験者を採用する理由

海外業務を任せるためではなく、「優秀だから」採用する



資料提供: 株式会社ディスコ

留学 Q & A

Q 語学力に自信がないのですが、留学できるのでしょうか？

A 立命館大学には様々なレベルの海外留学プログラムがあります。初級者向けのプログラム（イニシエーション型）も揃っていますので語学力に自信がなくても心配ありません。また、語学研修を主な目的とした中長期のプログラムもあります。

Q 留学の奨学金制度はどのようなものですか？

A 立命館大学には以下の奨学金制度があります。全て給付制（返還不要）で、全国の大学の中でも類を見ない充実した制度です。

① 立命館大学海外留学プログラム参加奨励奨学金

奨学金の対象プログラムに参加が決定した学生全員に、参加費用の一部を補助します。

該当するプログラム	給付額
6週間までのプログラム	参加費により、1.5～8万円
6週間～1学期未満のプログラム	20万円
1学期～2学期間のプログラム	40万円
交換留学	1学期間：30万円 2学期間：60万円 3学期間：90万円
立命館・UBC「国際リーダー養成」プログラム	60万円
学部共同学位プログラム（DUDP）	240万円

② 立命館大学海外留学プログラム経済支援奨学金

経済上の事由により、プログラムへの参加または参加継続が困難であることが見込まれる学生に対し、参加費用の一部を補助します。予約採用型と家計急変型があり、申請にあたっては家計基準があります。

Q 留学プログラムの募集期間はいつですか？

A 2012年度の募集スケジュールは以下の通りでした。募集スケジュールは変更となる場合もありますので、パンフレットや募集ガイダンスなどで最新の情報を常に入手する必要があります。

【短期・1セメスタープログラム】

夏出発：4月下旬、春出発：10月上旬

【長期プログラム】

翌年の春出発：6月上旬、翌年の夏出発：11月上旬

Q 選考は何を基準にしていますか？特に、長期の大学正規課程への留学志望者には何が重視されますか？

A まず、第一次書類選考（志望理由、履修計画、語学能力・大学成績など）を行います。ここまではどのプログラムも共通です。長期間の大学正規課程への留学希望者には、派遣先で必要とされる語種で面接を行い、言語能力を測ると同時に、日本語による質疑応答も含まれ、一般的に留学の目的や進路の希望などについて質問され、明確な目標を持っているか、学業成績、健康状態、派遣先大学で専門の授業を受講できるだけの専門的知識が備わっているかなどを審査します。したがって、交換留学など、長期間の大学正規課程への留学を希望する場合は、十分な語学力を身につけると同時に、日ごろの学習にしっかりと取り組むこと、そしてなぜ留学したいのか、何を勉強したいのかという明確な目的意識、履修計画を持つことが大切です。

留学に関する情報収集は

- ① 立命館大学国際教育センターのホームページ・掲示板・国際交流ラウンジ
- ② 国際教育センターで配布している冊子「海外留学案内」・「海外留学の手引き」
- ③ 留学相談ブース
- ④ 各学部のホームページ・掲示板・CAMPUS WEB
- ⑤ その他インターネット・留学情報雑誌

各留学プログラムの募集要項は国際教育センターの窓口で配布しています。国際教育センターでは海外協定大学からの資料や、過去の参加者の報告書など様々な留学関連の資料を国際交流ラウンジに常設しています。



ラウンジにはこんな資料があります！

- 留学プログラム参加者報告書
- 留学プログラムスケジュール詳細
- 交換留学報告書
- 海外協定大学パンフレット
- 留学関連資料
- 新聞、雑誌、フリーペーパー等

留学にあたって大切なのは、自立して物事に取り組む姿勢と、事前の情報収集や履修計画です。各キャンパスの国際教育センターにある情報リソースを上手く活用して、目指す留学を実現し、満足度の高い学生生活となるよう、ご父母からもアドバイスをお願い致します。

Q 理系学部の学生の留学は難しいですか？

A 短期～中期の留学はほぼ問題ありません。詳細については、個別の所属学部・専攻・コース等のカリキュラムによってそれぞれ状況異なりますので、想定する具体的な留学プログラム・留学期間をもとに、学部事務室で履修指導を受ける必要があります。

Q 留学前にはどのようなサポートがありますか？

A 選考合格後、派遣までに以下のガイダンス出席を義務付けています。国際教育センターではこれらの情報提供により、学生が自立して渡航までの準備ができるよう、また留学中の危機対応ができるようサポートしています。

[合格者ガイダンス] 派遣先大学への出願手続き、奨学金・遵守事項・留学願提出等学内での諸手続き

[健康管理ガイダンス] 現地での健康管理、HIV・麻薬等薬物に関する注意喚起、予防接種に関する手順説明 (必要プログラムのみ)

[キャリアガイダンス] 長期プログラム参加者のキャリア形成・就職活動

[危機管理ガイダンス] 海外での安全管理・メンタルヘルス

[旅行社・保険ガイダンス] ビザ申請、渡航手続き、海外旅行保険

[その他プログラムごとの個別ガイダンス] 渡航・プログラム参加にあたって必要な個別の情報提供、諸手続き

Q 留学中の滞在宿泊先はどんな所ですか？

A ホームステイ・学校の寮などプログラムにより異なります。ホームステイの場合、派遣先大学・機関がステイ先を選定します。ホームステイの場合も、学生寮の場合も、たいていは他人との共同生活になります。はじめのうちは慣れないことも多く、ストレスがたまるかもしれませんが、自立的に対処することで学ぶことの多い経験になるでしょう。

Q 留学中の危機管理は怎么样了か？

A 立命館大学が実施する留学プログラムは、基本的に大学の事務局と派遣先の大学・機関が連携し、常に情報共有することで危機管理に努めています。現地に本学教職員が常駐しているものもあれば、引率教職員がつくもの、あるいは派遣先大学・機関の事務局からサポートを受けられるものなど、いずれのプログラムも何らかの体制をとっています。また、旅行代理店との契約により、有事の際には迅速に駐在の係員が現地に駆けつけ対応・情報収集する体制を整えています。また、本学の留学プログラムに参加される方には、本学が指定する海外旅行保険への加入を義務付けています。この保険は渡航中の病気・怪我・事故等をサポートするものであり、保険会社では24時間、日本語での電話問い合わせに対応しています。

Q 留学をして4年間で卒業できますか？

A 留学には在学のまま留学する場合と、休学して留学する場合があります。本学の留学プログラムに参加する場合は(学籍を「留学」に変更するものを含む)、留学期間を在学年数に含みますので4年間で卒業することは可能です。しかし、留学期間が長期になる場合や、留学時期によっては4年間で卒業ができない場合がありますので、所属学部事務室で相談の上、授業の履修計画と留学する時期・期間を十分検討してください。

留学アドバイザー制度

国際教育センターに設置された留学相談ブースでは、留学アドバイザー(過年度留学経験学生)が、留学に関する様々な疑問、質問に個別に対応しています。開講期間中は毎日交替で様々なプログラムの内容や留学先の事前情報、経験などについて答えてくれます。留学相談ブースの開設日時と担当留学アドバイザーが参加したプログラムは、国際教育センター掲示板およびホームページのシフト表で確認してください。



立命館大学
国際教育センター

◎衣笠キャンパス……………明学館1階

TEL : 075-465-8229 (平日9時～17時半)

◎びわこ・くさつキャンパス……………アクロスウイング1階

TEL : 077-561-3038 (平日9時～17時半)

ホームページ http://www.ritsumei.jp/cger/index_j.html

学生生活を支える

親の心配、 子どものホンネ。

4年間、正課での学びや課外活動に全力で打ち込むことで、学生は着実に成長を遂げます。しかしその過程では、時に大きな挫折を味わったり、時に迷いや不安を覚えて立ち止まったり、どんな学生も壁を乗り越える経験を重ねています。かたわらで見守る父母の心配は尽きないことでしょう。

立命館大学で生き生きと学生生活を送り、ひと回り大きくなった学生と、父母が登場。学生の成長の陰にはどんな試練や父母の心配があったのか。ふだんの親子関係から父母の悩み、子どものホンネまでを語っていただきました。



自力で壁を乗り越えてほしい できるのは話を聞いてやることだけ

親 → 眞田 珠美さん

子 → 眞田 学さん(スポーツ健康科学部2回生)

case 1

息 子は一人っ子なので、余計に甘やかさないようにと厳しく育ててきました。困ったことがあっても、できるだけ手助けせず、一人で考え、解決させる一方、何をやるにも親が勝手に決めたりせず、息子の意思を尊重するよう心がけてきました。子どもにとっては、さみしいと思うこともあったかもしれませんがね。

息子はバスケットボールに熱中。中学、高校ではかなり本格的に打ち込みましたが、上を目指せば目指すほど、楽しみ以上に苦しみや挫折を多く経験してきたように思います。中学2年生の時、市の選抜メンバーに選ばれなかった時にもずいぶん落ち込んでいました。その上、高校2年生の夏、前十字靭帯断裂という大怪我を負い、選手生命を絶たれてしまったのです。バスケットボールが大好きで、それまでずっと競技中心の生活を送ってきましたから、「これからどうするのかしら」と心配しました。息子が選んだのは、アシスタントコーチとしてチームに残る道でした。好きが高じて日頃から戦術などを勉強していたのが、顧問の先生の目に留まったようです。

立命館大学のスポーツ健康科学部に進学したのも、トレーニングや指導法を学ぶためです。大学でも学生コーチとしてバスケットボール部に入部しました。コーチといってもまだ低回生。自分がプレーできない歯がゆさやうまく指導できない辛さに、怪我をした時以上に悩み、もがいている様子です。たまに帰省した折、そんな気持ちを聞くと胸が痛みますが、親には話を聞いてやることしかできません。それでも2回生になった今シーズン、チームがインカレに出場したのを機に、自分の役割に少しずつやりがいを感じ始めたようです。置かれた状況を冷静に受け止め、自分の力で壁を乗り越えようと努力している姿も最近心なしか頼もしく見えます。厳しい育て方も間違いではなかったと、ようやく思えるようになりました。

子どもの声

バスケットボールの指導者になるのが今の目標。何事も自分で解決する力を培ったおかげで、苦しいことから逃げずに向き合えているのだと思います。いつも自分で決めてきたつもりだったけれど、親元を離れて、経済的にも精神的にも支えてもらっていたことに気づきました。



子ども自身が持っている 育つ力を信じて手を出さない

親 → 笠原 正弘さん

子 → 笠原 陽介さん(政策科学部3回生)

case 2

小 さい頃から朗らかで、中学では生徒会長を務めるなど活発な子どもでした。今振り返って、試練だったと思うのは、高校時代。県下でも屈指の進学校に入学した途端、勉強についていけず、目に見えて成績が落ちたのです。必死に勉強しようとするのですが、家ではどうしてもテレビを見てしまう。好きというより、思うように勉強できない苛立ちやストレスがテレビに向かわせていたようでした。ついには「テレビを撤去してください」と言われ、とうとう我が家からテレビを一掃するに至りました。

思い悩んでいる時に、口うるさく説教しても、子どもの心には届きません。息子にアドバイスする時は、叱らず、責めず、自分自身の失敗談を交えながら、解決の糸口になるような知恵を語るよう心がけていました。

野に生えている植物が力強く育つように、子どもの持っている「人間として育つ力」を信じ、やみくもに手をかけないことが、我が家の教育方針。その分、肝心な時に話してもらえるよう、ふだん

からコミュニケーションを大切にしてきました。一番の手段は、家族旅行です。息子と一緒に旅程を考えたり、旅先で同じ体験を共有する中で、自然と語り合える関係を築いてこられたのが良かったと思っています。

親元を離れてからも、家族の仲の良さは相変わらずです。会えば話に花が咲きますが、最近では親に心配させまいとしてか、悩みは自分の胸に

留め、あまり明かさなくなりました。以前は鵜呑みにしていた親の助言も、今では数ある選択肢の一つと捉え、自分で決断することの方が多いですね。海外語学研修や100kmウルトラマラソンなど、知らないうちにさまざまなことに挑戦しているようです。

これからも微力ながら後方支援部隊として声援を送り続けるつもり。将来自分の家族を持った息子と酒を酌み交わしたり、一緒に旅するのが、今から楽しみです。

子どもの声

「勉強しなさい」などと親から言われたことは一度もありません。だからかえって自分から率先して何事にも取り組むようになりました。反抗期だった高校時代も変わらず支えてくれた両親がいて、どれほど幸せだったかを今になって痛感します。社会に出たら、大好きな家族に孝行したいです。



親の声は子どもに重く響いている と改めて思い知った

親 → 菅原 広二さん

子 → 菅原 萌子さん(文学部4回生)

case 3

兄 と妹に挟まれた長女は、小さい頃から快活でしっかり者。「お父さん、そんなことしたらだめでしょ」などと親をたしなめることもあるおしゃまな子どもでした。男親としてはなかなか積極的に子育てやしつけに関わることはできませんでした。あいさつや返事、礼儀など人として基本的なこと、そして思いやりや優しさを忘れないようにと言いつつ聞かせてきたつもりです。

日頃の悩みを父親に打ち明けることはあまりありませんが、大学進学や就職といった人生の節目には、必ず話をしてくれます。とはいえ子どもは、親の願った通りには進んでくれないものです。実家のある秋田県から遠く離れた京都の大学に進学すると言いついた時は、正直なところ最初は賛成できませんでした。「どうして東京の大学ではだめなのか」と何度も話し合いましたが、娘の意志は揺らぎませんでした。就職先を決めた時もそうです。親としては大学を卒業したら故郷に戻って来ることを望んでいましたが、結局娘は関西に留まることを選びました。

岐路に立つ娘に、良かれと思って、厳しく意見したことも。そんな言葉に耳を貸さなかったように思えた娘も、私が反対するたびに「どうすべきか」とずいぶん悩んだと、後から聞かされ、親の声は想像以上に子どもに重く響いているものだと改めて思い知らされましたね。たとえ親の願い通りにならなくても、娘が決めたことなら応援するつもりですが、その気持ちを伝えるのは難しいものです。その代わり、日々思いついたことや家族の近況などをハガキやメールにしたため、送るようにしています。

3年半、弱音を吐かず一人で生活し、精神的にも強くなった様子。誕生日には欠かさずプレゼントを送ってくれるなど親を思いやる気持ちを忘れないでいてくれることを嬉しく思っています。卒業すれば、いよいよ本当の独立です。経済的にも精神的にも自立した大人になってほしいですね。



子どもの声

悩んだとき、一緒になって考えてくれる父と、「大丈夫」と力強く背中を押してくれる母。それぞれ違った形で支えてくれます。卒業後は帰郷してほしいと言われた時は、反発したけれど、心配してくれたのだと今ではありがたく思っています。信じて応援してくれた分、これから頑張るつもりです。



学びと成長の モデル集

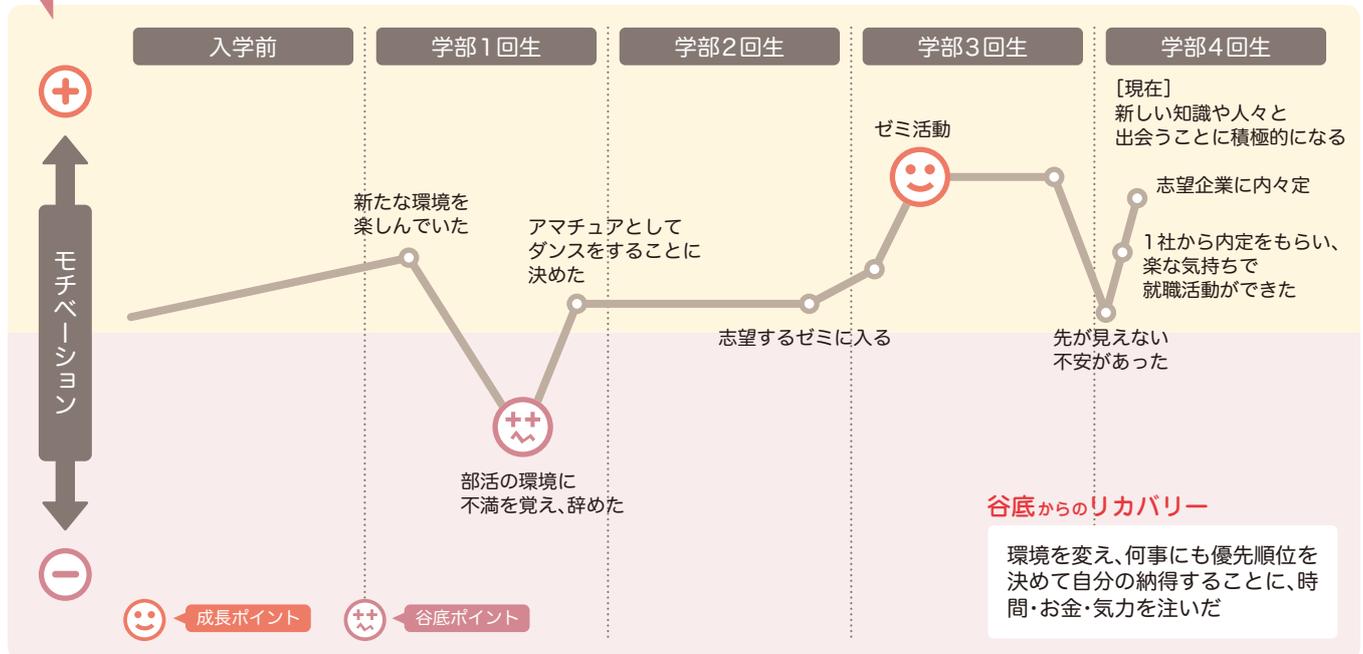
Creating a Future Beyond Borders

学生たちは大学生活を送るなかで、悩みや不安と直面しています。そして人との出会いや正課・課外活動などの経験を通して、自分の力で次の一歩を見出し、前に進んでいきます。こういった体験談に触れることは、学生生活を設計していく低回生にとって、自分の進む道を考えるきっかけとなるはずです。

そこで、キャリアオフィスが配布している低回生向け冊子から一部抜粋し、13学部それぞれの成長の軌跡をご父母の皆さまにご紹介します。

法学部生の場合

決定先企業 化学メーカー

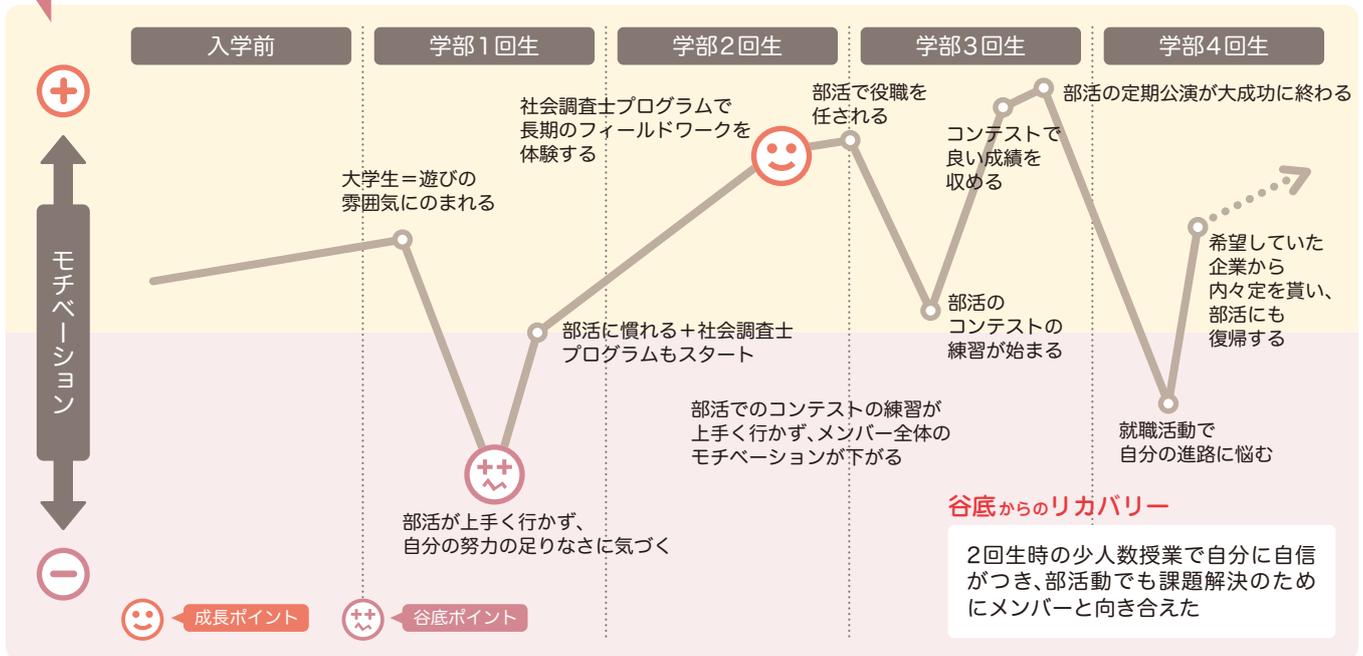


自分に妥協せず、全力で勉強に打ち込んでみようと思ひ、3回生ではあえて「厳しい」と評判のゼミを選びました。毎週ゼミで出される課題を提出するために、法律漬けの日々。法律知識が身につっていく手ごたえを感じるにつれ、それが制定された背景や社会への応用にも興味が広がっていきました。思い出深いのは、他大学との討論会に参加したこと。自分たちの主張を裏づける根拠を考え、筋の通った論理を組み立てる作業は難航。中心メンバーとなった私は、モチベーションも得手不得手も異なるメンバー全員に、積極的に参加してもらうにはどうしたらいいかと悩みました。全員で意見を一つにし、力を合わせて討論会を終えた時、みんなの笑顔を見て、一回り成長したと感ずることができました。

産業社会学部生の場合

決定先企業

人材派遣会社

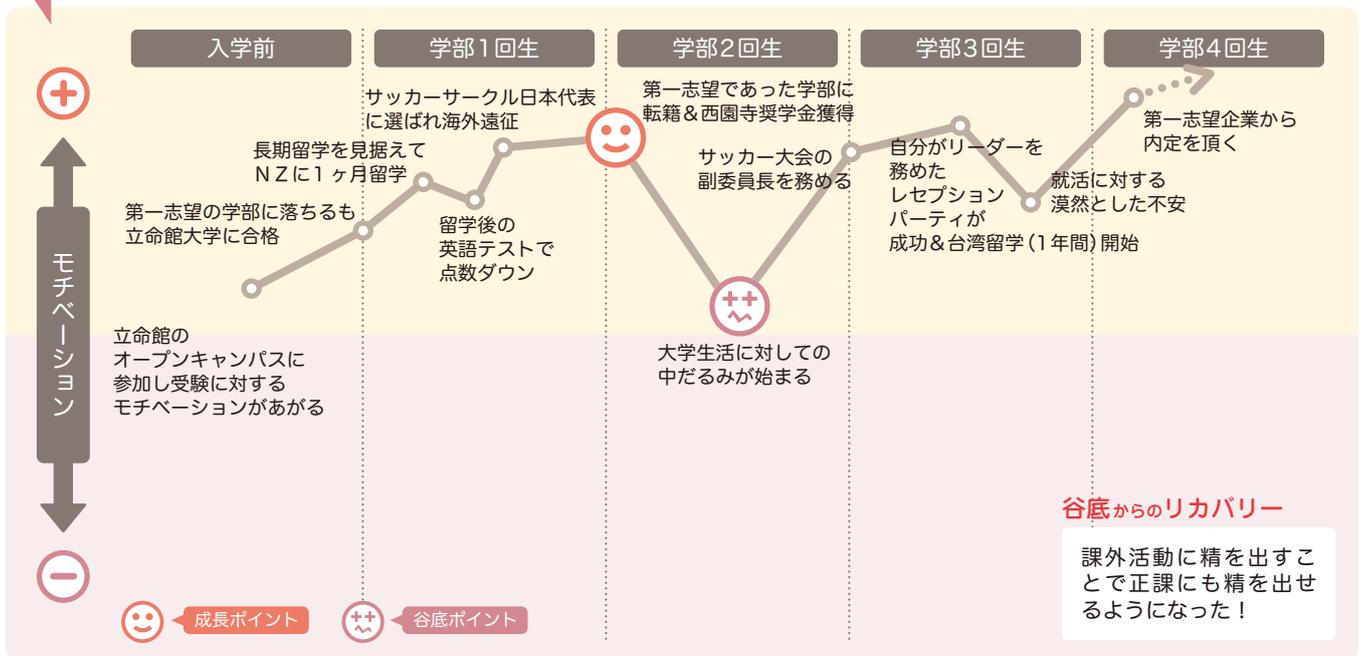


意気揚々と入学したものの、遊ぶことを優先する周囲の雰囲気に呑まれ、いつしか勉強意欲を失っていました。転機は、「社会調査士プログラム」を受講したこと。統計学など社会調査の基礎を学んだ上、1週間、長崎県の吉岐島で慣習や食文化を調べるフィールドワークを体験しました。20冊以上の先行文献を読んで臨んだものの、調査では想定外のできごとの連続。自分の目と耳で実態に迫る社会調査の醍醐味を味わいました。その年の秋にはゼミナール大会で調査結果を報告し、論文も完成させました。難易度の高い目標を達成させたことが自信になり、学びへの意欲は一変しました。勉学を通じて大学生生活を充実させたことで、精神的にも成長できたと実感しています。

国際関係学部生の場合

決定先企業

商社

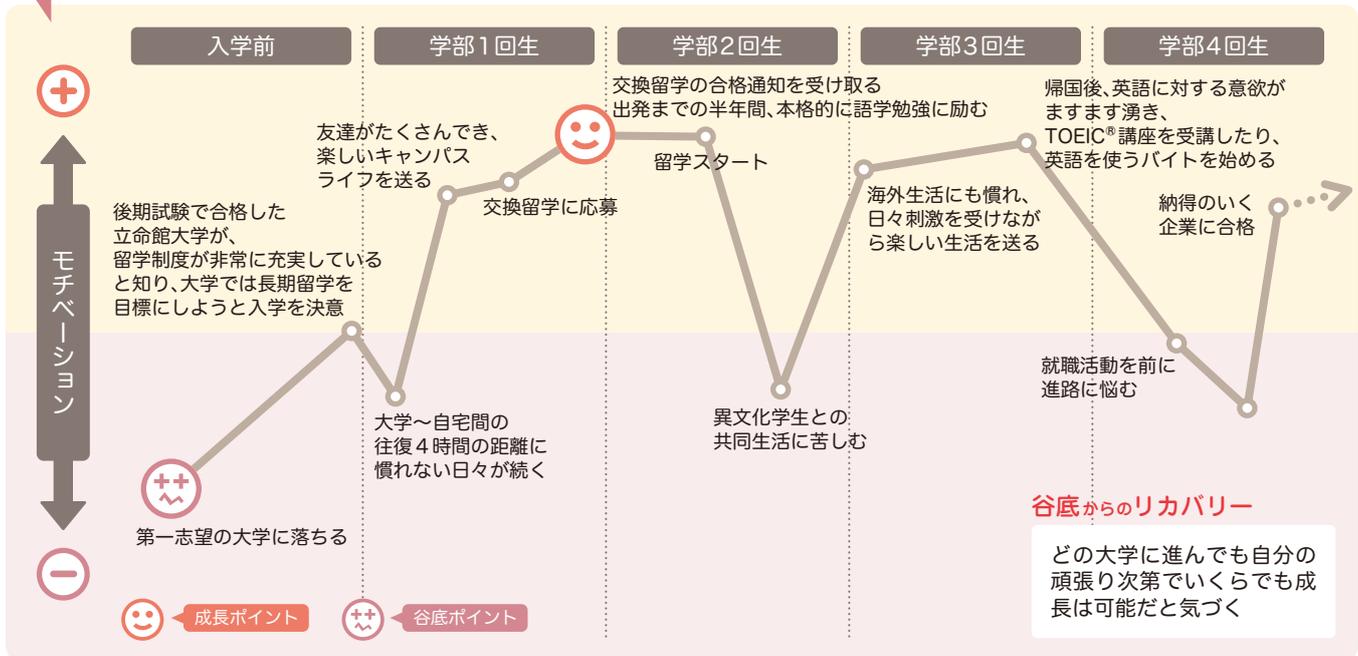


第一志望だった国際関係学部へ不合格となり、立命館での大学生活は別の学部から始まりました。悔しさをバネにして「正課も課外活動も後悔しないよう精いっぱいやろう」と決意。授業も気を抜かず打ち込んだ結果、2回生で念願の国際関係学部へ転籍、さらに西園寺奨学金も取得することができました。3回生では1年間の台湾留学を経験。ここでも漠然と過ごすのではなく、積極的に台湾人学生と交流し、英語、中国語の二か国語を上達させたほか、サッカーやボートなどのスポーツやボランティア活動、インターンシップにも挑戦し、めいっぱい留学生生活を充実させました。目標を見失わず、努力を続ければ必ず達成できる。挫折から始まったからこそ、その自信をつかむことができました。

政策科学部生の場合

決定先企業

総合電機メーカー

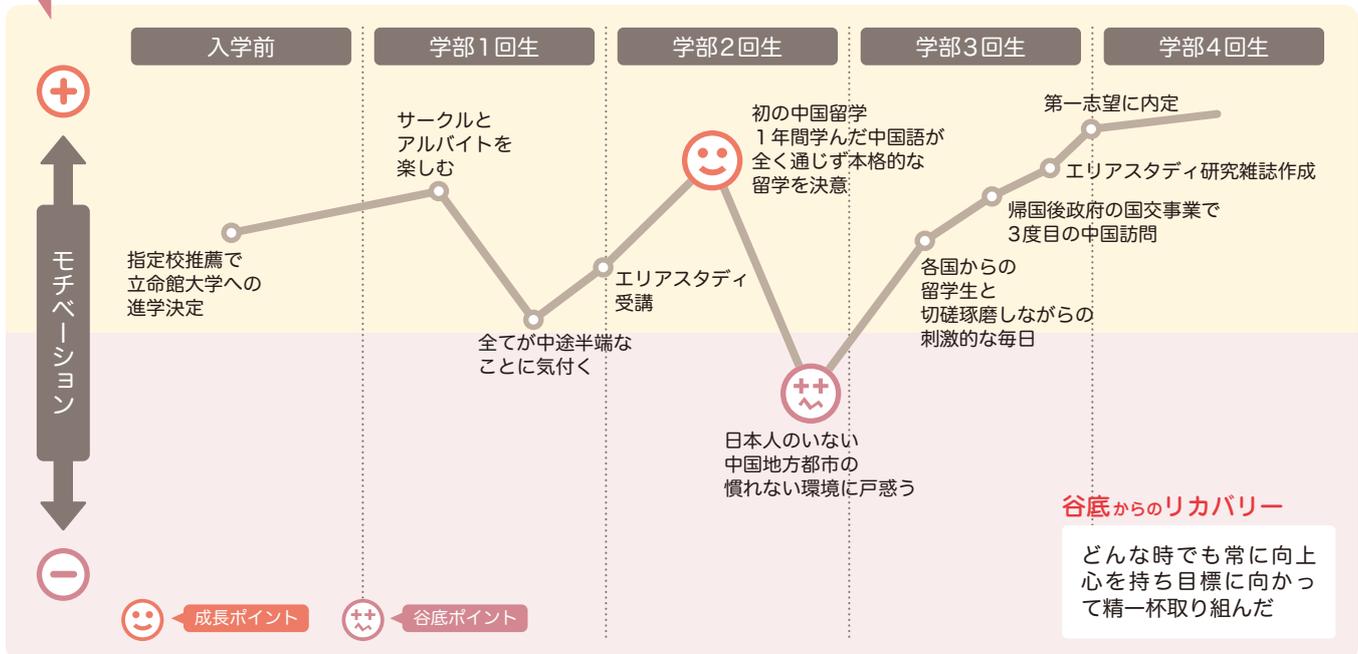


第一志望の大学に落ち、意気消沈して入学した立命館大学。無気力な生活を送っていた私を変えてくれたのは、周囲の友達でした。クラブやボランティア活動、勉強などさまざまなことに取り組む友達に刺激を受け、「大学生生活を充実させるか否かは自分次第だ」と気づいたのです。心を入れ替えて勉強に集中し、2回生では交換留学にも挑戦しました。留学当初は、思うように英語を話せないために勉強も人間関係もうまくいかず、辛い日々が続きました。そこであきらめず、つたなくとも積極的に話すうち、次第に心を通わせられるように。「状況を変えるには、自分を変えるしかない」と肝に銘じていたから、乗り越えられたのだと思います。世界に目を向けたことが、グローバル企業に就職するきっかけにもなりました。

文学部生の場合

決定先企業

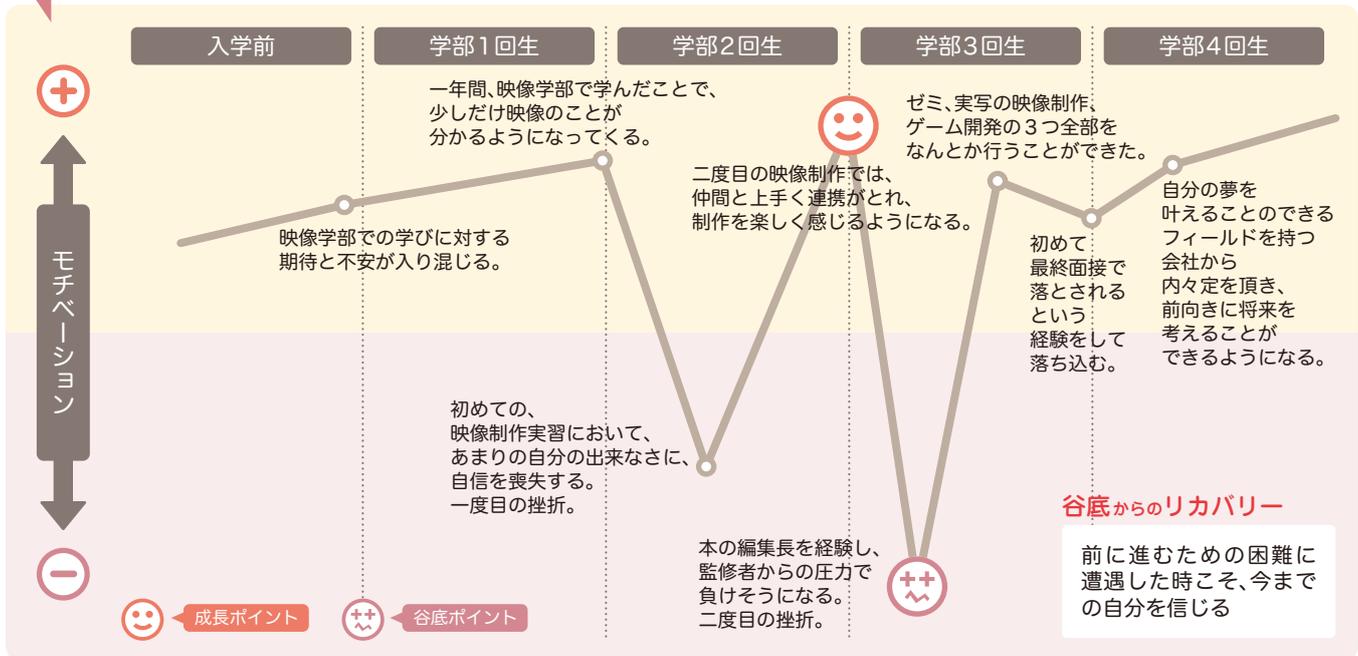
電気通信会社



大学生生活を充実させようと張り切っていた1回生の頃。授業にアルバイト、サークル、さらに資格講座と欲ばりすぎて、かえってすべてが中途半端に終わったように思います。はっきりとした目標を見つけたのは、2回生。中国に関心を持ち、1ヵ月間の中国実習へ。続いて3回生では中国の地方都市桂林へ留学しました。生活習慣の異なる外国人ルームメイトとの暮らしや生活環境に慣れるのに苦勞しながらの留學生活。壁にぶつかるたびになんとか自力で解決したり、アルバイトで貯めたお金で27時間列車に揺られて上海に旅行するなど、日本にいた頃には考えられないほどたくましくなりました。中国と出会ったことで、将来は、海外に進出する日本企業を支援する仕事に関わりたという夢も芽生えてきました。

映像学部生の場合

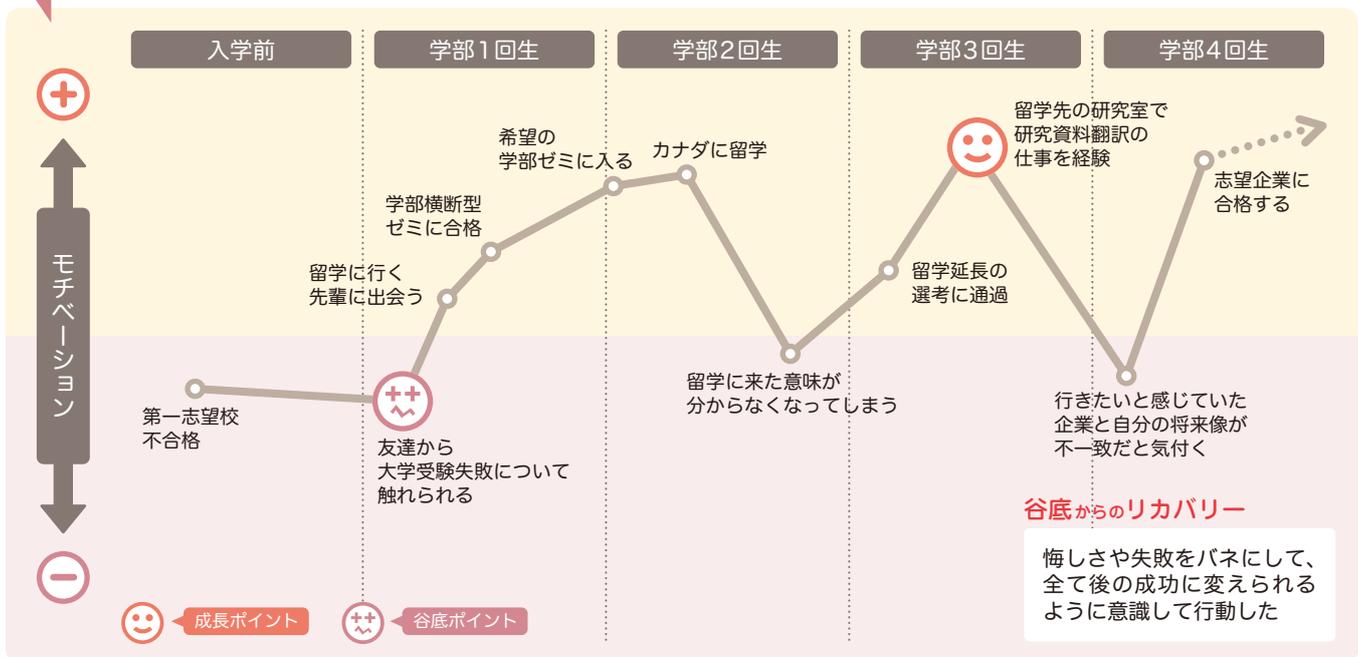
決定先企業 映像事業



大学生生活で最も力を注いだのは、映像学部での学びです。特に3回生でゼミに所属してからは、一日のほとんどの時間を映像に関わる取り組みに費やしました。毎週発表するレポートの準備に追われながら、映像制作や企業と連携したゲーム制作に熱中。映像やゲームの制作では、スケジュール管理やメンバーをまとめること、見る人に満足してもらう企画を練る重要性など、ビジネスとして映像作品をとらえる視点を得たことが収穫でした。限られた時間を調節し、多くの活動をこなす中で自分自身のキャパシティも大きくなりました。勉強でも、課外活動でも、構わない。「自分の学生生活はこれだ!」と誇りを持って言える何かを4年間で築くことで成長できると今、実感しています。

経済学部生の場合

決定先企業 化学メーカー

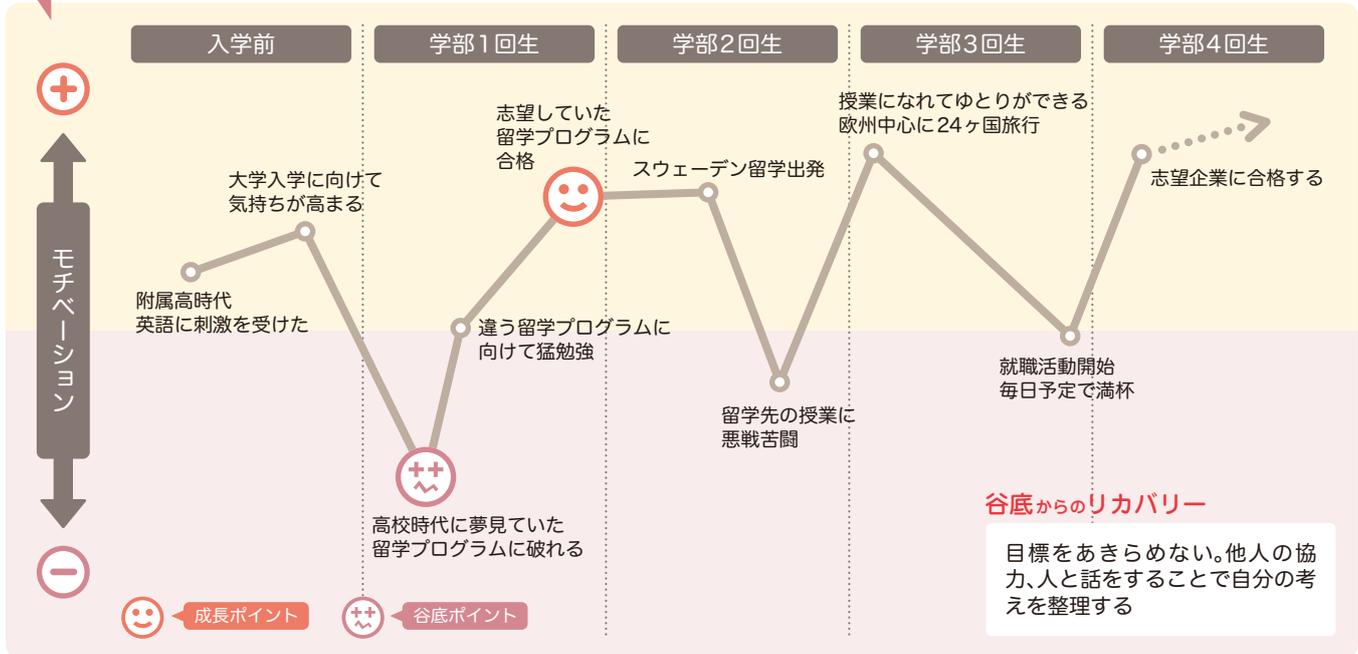


学生生活を変える転機となったのは、2回生の9月からUBCプログラムでカナダへ長期留学したこと。語学に加えて経済学も学ぼうと「国際経済学」の講義を受講したものの、その授業は思いのほか大変で、中間テストは散々な結果に終わりました。「今までと同じように勉強してはダメだ」と学ぶ姿勢を一新。一人で教科書を読むだけでなく、他の外国人学生を見習い恥ずかしながらに教授に質問をぶつける一方、研究者や大学院生の研究を手伝うリサーチアシスタントのアルバイトを通して自分の考えや意見を正しく伝える力も磨きました。以前は苦しいことを避けてばかりいた私が、今では壁にぶつかっても「どうすれば乗り越えられるか」と考え、正面から向き合えるように。物事に取り組む姿勢が変わったことが一番の収穫でした。

経営学部生の場合

内定先企業

外資系家具販売会社

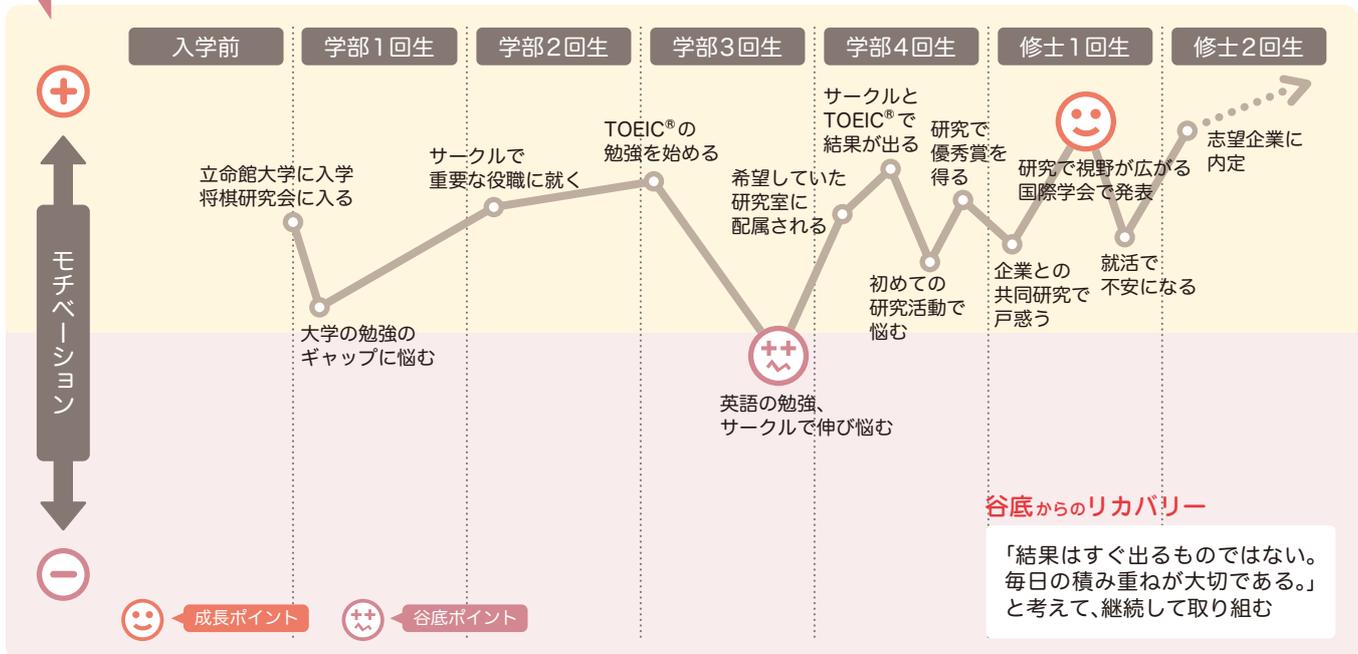


DUDP (学部共同学位プログラム) で留学することを夢見て立命館大学に入学したものの、1、2回生と連続して審査で不合格に。しかし諦めずにさらに奮起したことが次につながりました。英語で授業を進める教養ゼミを受講するほか英語の塾にも通い、必死で英語力の上達に努めた結果、TOEFL iBT®のスコアが伸び、2回生の夏、とうとうスウェーデン留学を実現させたのです。約10ヵ月間の留学中、世界的に成功を収める地元企業イケアのビジネスを研究。英語の文献を読み漁り、さらに店舗にも足を運び、20枚に及ぶ英語のレポートを完成させた上、グループでプレゼンテーションも経験しました。挫折にもめげず、目標に向かっていっそう努力したからこそ、順調に進んだ時以上の大きな成果を手にすることができたのだと思います。

理工学系の場合

決定先企業

産業機械メーカー

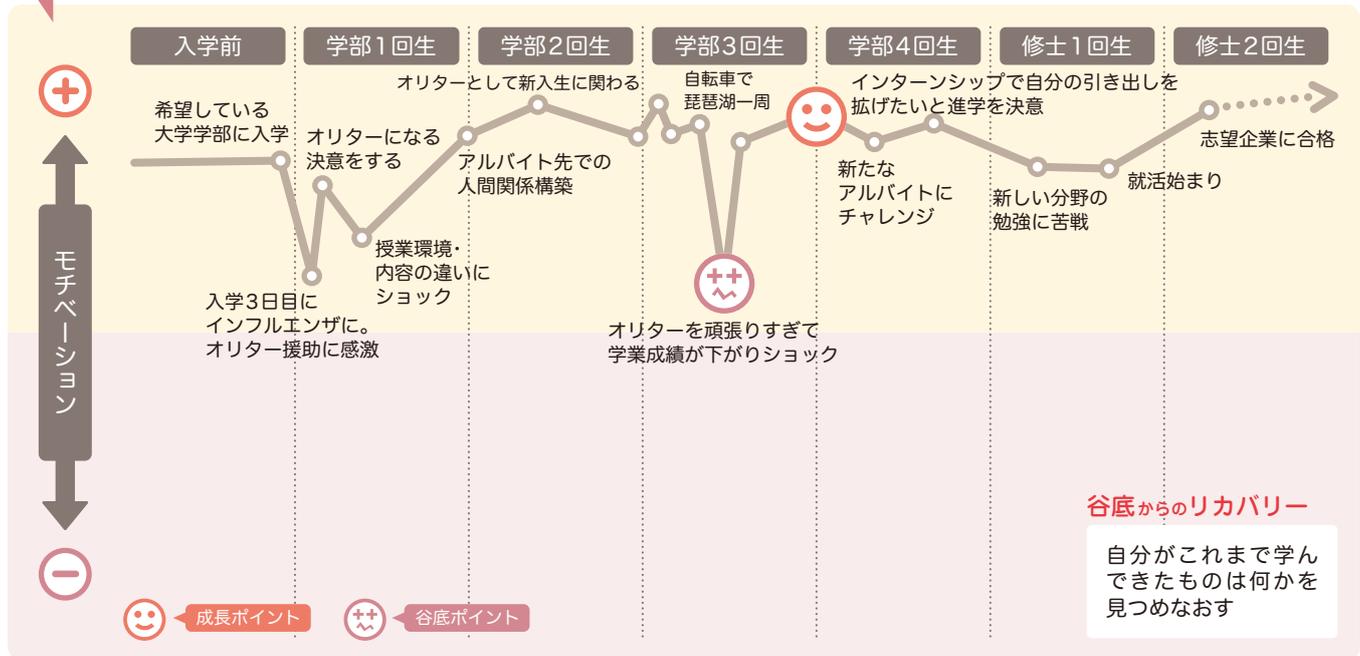


「将来は研究開発職に就きたい」と考え、2回生になる頃から大学院進学を考えていました。研究のおもしろさを知ったのは、4回生で研究室に所属してから。それまでのように受け身で学ぶのではなく、論文を読んだり、疑問点を調べたり、自分で考え、自分の裁量で進めていく研究を通して学習意欲が高まり、知識もどんどん身についていきました。大学院では、GPSの異常観測量の検出について、企業と共同研究を行っています。企業と一緒に研究する中で、「社会にどう生かせるか」と実用性にも目を向けるように。社会のニーズを考えながら研究する視点を得ることができました。社会に役立つものをつくりたい。そんな将来の進路を意識するようになったのも、大学院で学んだ結果です。

情報理工学系の場合

決定先企業

重化学工業メーカー

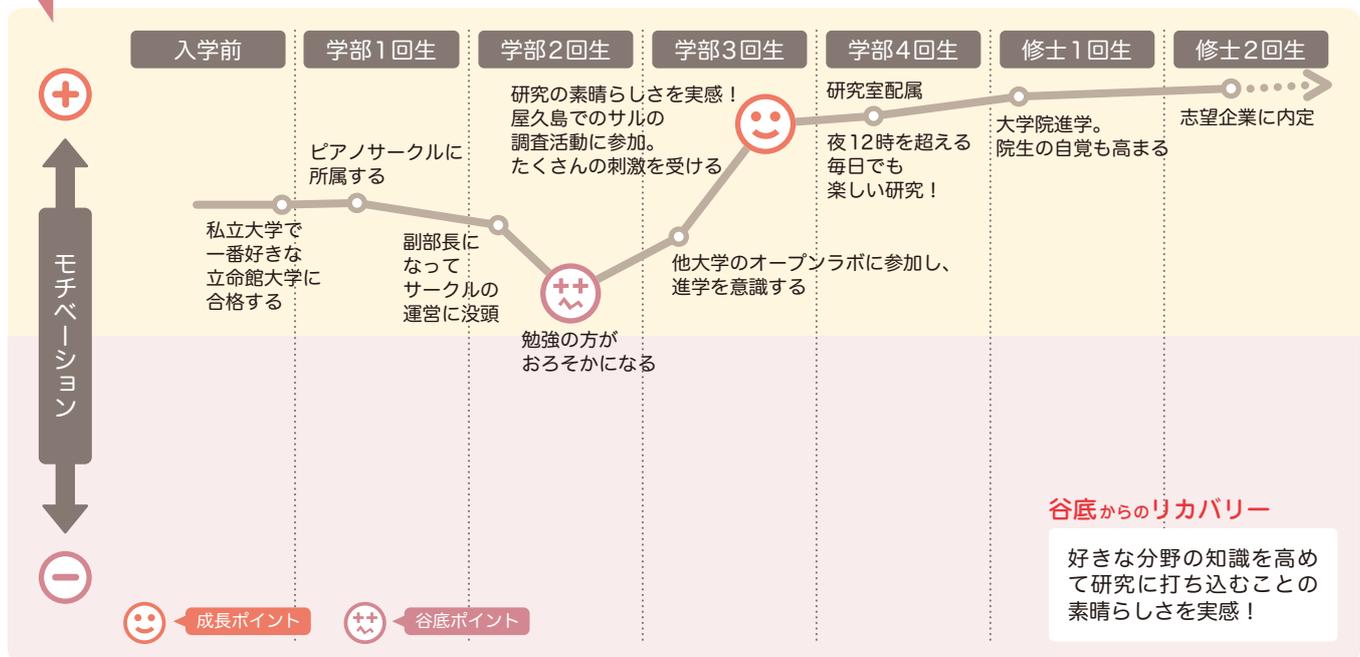


1・2回生の頃はオリター団の活動に熱中するあまりに勉強がおろそかになり、授業にも集中できていませんでした。意識が変わったのは、3回生の夏です。ゲーム制作会社と電子デバイスや通信システムを製造する企業の2社でインターンシップに参加。情報通信分野の仕事を目の当たりにして、勉強への意欲が再び高まりました。とりわけ興味を失いかけていた理系分野の重要性を再認識。「せっかく選んだ専門分野から逃げたいはいけない」と思い直し、大学院への進学を決めました。大学院ではスマートグリッドに関わるユーザーインターフェースについて研究しています。やるべきことから目をそむけては何を得ることもできません。自分の課題ともう一度向き合った結果が、今につながっています。

生命科学系の場合

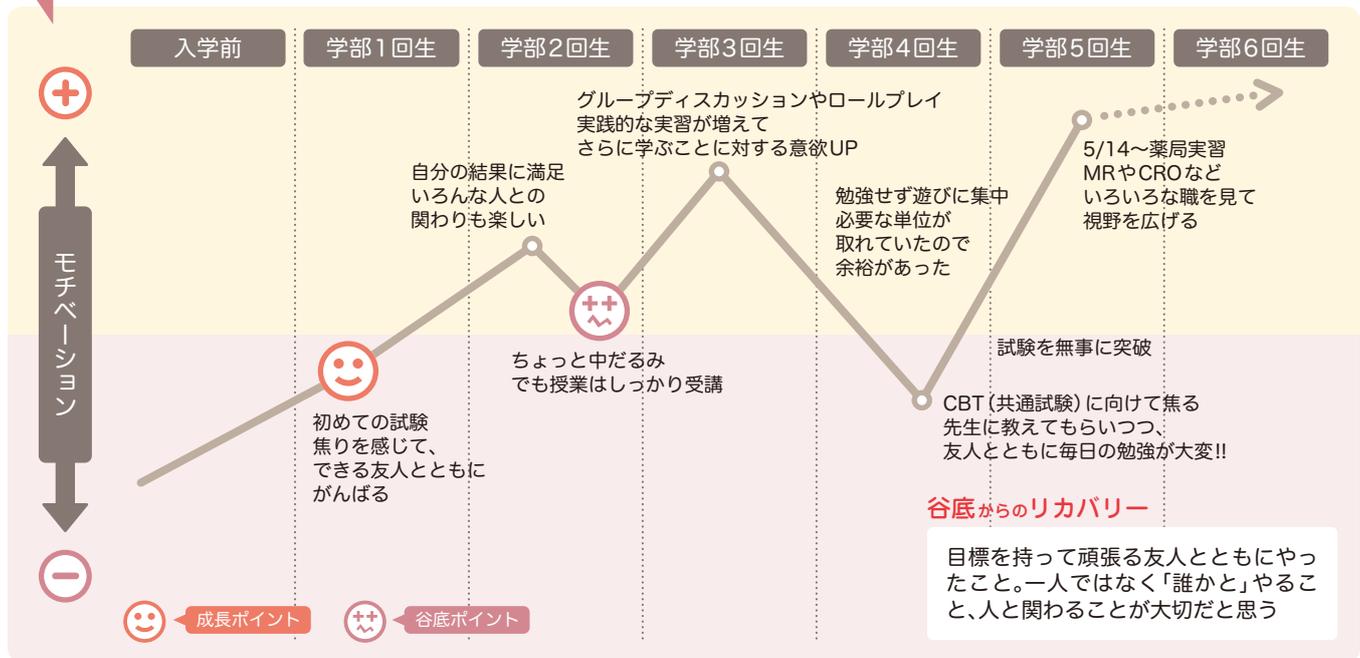
決定先企業

食品メーカー



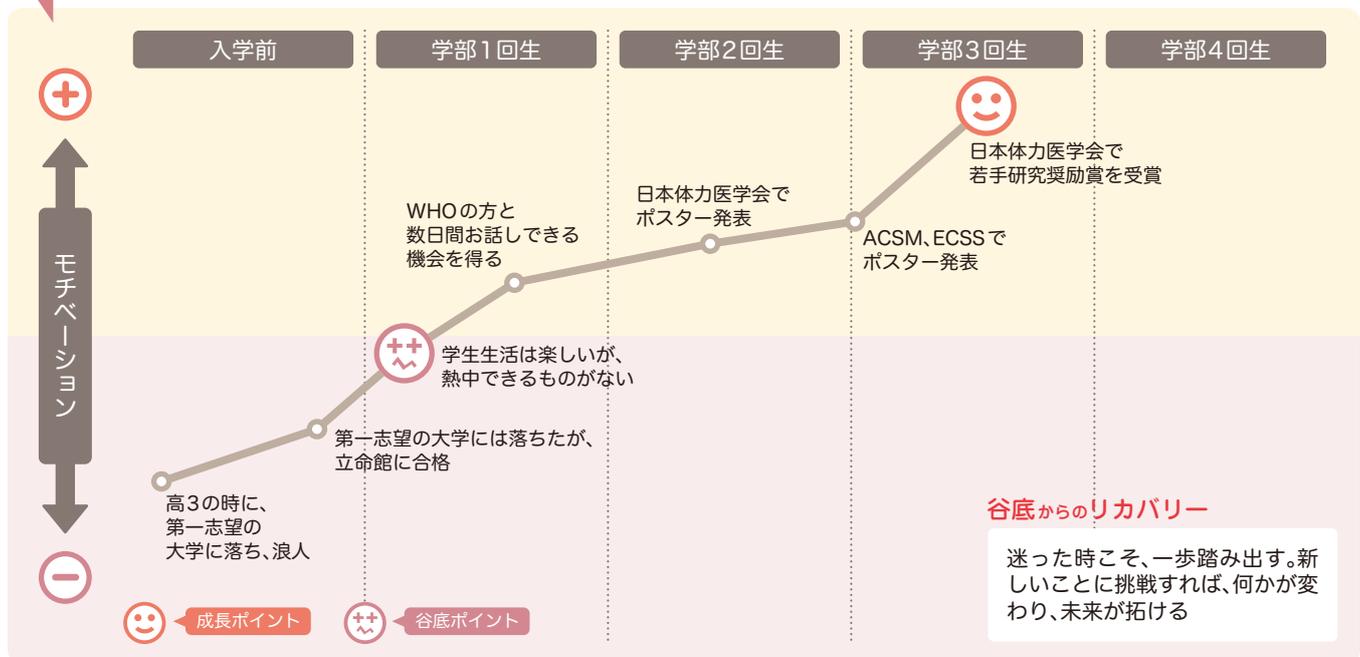
3回生の夏、京都大学が行うサルの研究のための調査員に応募し、屋久島での調査活動に随行したことが、研究意識を高めるきっかけになりました。2週間の現地調査では、研究者の知識量の豊富さに圧倒され、自分の未熟さを思い知らされる一方、多くの人と力を合わせて調査・研究するおもしろさを実感。「自分自身の研究テーマを見つけ、究めてみたい」と思うようになりました。4回生ではアルツハイマーの発症と薬剤との関連についての研究に没頭。大学院でも、時には深夜まで研究室にこもる日々が続きますが、苦に思うことはありません。自分の関心ある領域をとことん追究する。そのやりがいと楽しさを知ったことが、これから先研究開発職として仕事を続けていく上での財産になると思います。

薬学部生の場合



勉強を続ける上で大きな支えとなったのは、共に学ぶ同じ学部の仲間たちの存在です。少人数のため、みんなで助け合い、刺激し合いながら勉強できるのがこの学部のいいところ。さまざまな価値観の友達とともに学び、多様な考え方に触れる中で、視野が広がるとともに、自分の言動に対する責任感も生まれました。上回生になると、グループディスカッションや実習も増えてきます。人前で話すことが苦手だった私も、いつしか大勢の前で意見を述べたり、臆せず質問したりできるようになっていました。現在は、薬局で実習を体験中。プロの薬剤師の仕事ぶりを見て、人の命にかかわる仕事の責任の重さを改めて感じています。いつか私も責任を持って使命を果たせる薬剤師になるのが目標です。

スポーツ健康科学部生の場合



大のスポーツ好きで、体育教師かWHO職員を夢見てスポーツ健康科学部に入学。1回生の時、WHO職員の方から話を聞く機会を得たことで、WHO職員を志す気持ちが強くなりました。目標ができ、2回生以降の学びは変わりました。授業を受けるだけでなく、自ら研究活動を開始。分析疫学の手法の一つであるコホート研究に取り組み、毎日5時間、研究に没頭しました。2回生の9月には日本体力医学会で研究成果をポスター発表。3回生ではさらに、アメリカ、ベルギーの国際学会でもポスター発表を行いました。二度目の参加となった9月の日本体力医学会で、学部生で初となる若手研究奨励賞を受賞。研究に打ち込んだ結果、拓けてきた未来。今はWHO職員を目指すとともに研究者への道も考えています。



OPEN COLLEGE 2012 AUTUMN

in Kinugasa Campus & Biwako Kusatsu Campus

[秋のオープンカレッジ]

秋も深まった2012年11月17日(土)、衣笠、びわこ・くさつの両キャンパスで、秋のオープンカレッジが開催されました。時折激しく雨音の響く悪天候にもかかわらず、両キャンパスを合わせて1,200名ものご父母が来場しました。各学部別に特徴的な学びや進路・就職状況が概説された全体会、および個別懇談会には、多くのご父母が列席。熱心に聞き入り、時に質問する姿が見られました。お子さまの学生生活の様子や今後の過ごし方について、大学とご父母が情報を交換し、親交を深める好機になりました。

法学部

College of Law

進路の幅がさらに広がる法学部。 大学院は、意欲の高い学生たちの受け皿

まず竹濱 修法学部長が法学部の学びについて紹介しました。「1回生前期では、少人数クラスを作って法学の基礎的なトレーニングを行います。2回生次では、大学教員だけでなく、外部からも実業界や官界、法曹界など多様な分野のゲストを迎える講義を提供し、現場の声を参考に、学生が進路を考えられるよう配慮しています」と説明。近年、企業のコンプライアンスが重視され、公平公正な事業活動に対する要請

が高まっており、「リーガルマインド」が求められる場も多様になっていきます。「進路選択の幅も従来以上に広がっているので安心してください」と締めくくられました。

続いて、望月爾副学部長が法科大学院と法学研究科について説明。「現在本学には、法科大学院（法務研究科）と、法学研究科の2つの法律系大学院があり、学部から1割以上がどちらかへ進学しています。どちらに進んだとしても、



学部時代から問題意識を持ち、高い意欲を持って学びを深めれば、進路はさまざまな領域に広がります。親御さんの心配は尽きないと思いますが、計画的に勉強した学生の多くは難関を突破し、夢を実現しています。法曹や法律専門職を目指す学生たちのチャレンジをご理解ください」と語られました。

その後、内定を得た学生たち4名による体験談が発表され、質疑・応答が行われました。

卒業生・学生の体験談



面接の厳しい質問や態度に慣れること、考える力が大切

法学部4回生
住友化学株式会社内定
宇佐見江美さん

就職活動で大変だったのは、面接に慣れること。企業側の厳しい質問や態度に、人間性を否定されているような気持ちになることもありました。就活では、初対面の相手と話せるコミュニケーション力、論理的思考力、考える力などに加えて、精神的強さや体力、スケジュール管理能力も必要だと実感しました。さまざまなことに挑戦して大学生活を充実させ、そこで得たものを就活に活かしたことが内定につながりました。



学部生以上の論理性とセルフマネジメント力が重要

法学研究科2回生
大手ゼネコン内定
山梨良太さん

採用活動で、大学院生に企業が求めるのは、学部生以上の論理性や説得力。また、なぜ大学院に進学したか、なぜロースクールではなかったのかとよく聞かれました。これは、自分が設定した目標が明確か、そこへ向けてどれだけセルフマネジメントできているかが問われていたのだと思います。定めた目標に向かってどう行動するかによって、大学院進学を将来に活かせるかが変わると感じました。



大学の施設や講座を活用し最終的に納得いく就職先へ

法学部4回生
国家公務員一般職（厚生労働省）内定
清水理沙さん

厚労省の仕事に興味を持ち、真剣に公務員試験に取り組み出したのは3回生になってから。エクステンションセンターの公務員講座を受講するほか、空いた時間は自習室で友人と励まし合いながら一日中勉強しました。第一志望の総合職で合格するも不採用だった時、普段過保護な両親があえて一人にしてくれました。その後の進路を自分でじっくり考えられたことで、一般職での就職も前向きに受け入れられました。



弁護士を目指しロースクールへ有意義なプログラムが充実

法科大学院出身
司法試験合格
岡本雄資さん

法律を使って人権を守り社会に貢献する弁護士を夢見てロースクールへ進学。ロースクールには、授業以外にも司法試験に役立つ企画や弁護士ゼミなど有意義なプログラムが充実しています。本番で最大に力を発揮するため、司法試験直前も規則正しい生活を崩さないよう心がけました。進路選択で後悔しないために、学部時代にインターンシップに参加するなど、さまざまな職業に触れておくことをおすすめします。

産業社会学部

College of Social Sciences

アクティブかつ多領域にわたる学びを通じて 社会の課題を解決する力を育成

全体会で有賀郁敏学部長は、まず産業社会学部が2015年に設立50周年を迎えることに触れました。「本学部のユニークな点は、学生がアクティブな活動を通じて学びを得るところ。現在教学改革に取り組んでいますが、こうした良き伝統は今後も大切にしていきたいと思います」と抱負を述べました。現実社会の課題を見出し、解決策を模索す

る産業社会学部の学びには、多様な学問領域の見識のほか、多岐にわたる経験も必要です。「自ら答えを求めてもがく中で、社会で壁にぶつかっても自力で解決できる力が養われるのです」と学びの意義が語られました。

次いで長澤克重副学部長が教学について解説しました。5つの専攻とともに、学問横断的な学びや、課外も含め



た活動的、能動的な学びを紹介。加えて「今年、国際的な問題に焦点を当てて学ぶ『グローバル・フォーカス』というプログラムを開講。国際教育にも傾注しています」と明かしました。

続いて、鎮目真人副学部長の司会のもと、学生によるパネルディスカッションが行われた後、グループ別懇談会が催されました。

卒業生・学生の体験談



「一緒に働きたい」と思えたことが就職の決め手

産業社会学部4回生
富士ゼロックス東京株式会社内定

松山咲紀子さん

企業の抱える課題を研究し、解決策を見出す半年間のインターンシップ「コーオプ演習」を経験し、ソリューションビジネスを手がける企業に関心をもちました。企業を選ぶ際に重視したのは、社員の人の柄や社風が自分に合っているか。「一緒に働きたい」と素直に思えたことが、決め手になりました。



クラブ活動で鍛えた時間管理能力や精神力が役立った

産業社会学部4回生
ユニ・チャーム株式会社内定

太田悠貴さん

硬式野球部の活動に心血を注いできました。就職活動では「多様な企業を見て、自分の可能性を試す絶好の機会」と考え、幅広い業界にアプローチ。早朝から夜遅くにまで及ぶ練習と学業とを両立する中で培った時間管理や自己管理の能力、上下関係で鍛えられた精神力は就職活動でも役立ちました。



Uターン志望者向け会社説明会を活用し地元企業に就職

産業社会学部4回生
株式会社栄工社内定

中地翔子さん

4年間、京都の街をライトアップする「都ライト」の企画・運営に携わるなど、課外活動に力を入れました。両親の希望もあって、地元企業での就職を決意。立命館大学では、Uターン就職希望者のために、地元企業を集めた合同説明会が開催されます。そうした大学のサポートに助けられました。



就活との並行で勉強不足となり危うく不合格に

産業社会学部4回生
常滑市役所内定

榊原直樹さん

ゼミで京都府京北地域のコミュニティ形成を支援する活動に携わったことから街づくりに関心を持ち、公務員を志望しました。民間企業への就職活動も並行したために勉強不足となり、腕試しに受けた試験で不合格に。覚悟を決めて就活を打ち切り、勉強に集中した結果、第一志望に合格できました。



ダブルスクールで教職に必要な単位を取得

産業社会学部4回生
小学校教諭内定

森戸徹さん

教職課程のない現代社会専攻で小学校教諭を目指し、ダブルスクールで教職に必要な単位を取得するプログラムを受講。終日授業を受け、その後受験勉強しても時間が足りず、焦りが募りました。教職支援センターのアドバイスや、何より共に教職を目指す仲間存在に支えられました。



ゼミの先生や両親の後押しのおかげで大学院へ

産業社会学部4回生
社会学研究科博士課程
前期課程進学

松岡純子さん

ゼミで中国における貧困や格差の問題を学ぶうち、「もっと研究を深めたい」という気持ちが膨らみ、大学院進学を考えるように。当初は文系の大学院進学は就職に不利になるのではと悩み、就活を並行したこともあり。けれどゼミの先生や両親など周囲の後押しのおかげで進学を決意しました。

国際関係学部

College of International Relations

「グローバル・スタディーズ専攻」を筆頭に 設立26年日以降も国際教育の先陣を切る

全体会の冒頭、数日後に迫った国際関係学部の伝統行事「オープンゼミナール大会」について触れた板木雅彦学部長は、「国際関係学部の学びは、受け身の姿勢で知識を得るばかりでなく、自ら『発信する』中で掴み取っていくところに特長があります」と口火を切りました。最も学びを深めるべき3回生で、就職活動との両立を迫られる現実を語りつつ、「学生の本分をまっとうすることが、就職にも結びつきます」

と説きました。さらに今年、国際関係学部は設立25年目を迎えます。国際教育の先陣を切ってきた歴史を振り返った板木学部長は、「他大学と切磋琢磨しながら教学の充実に努め、国際社会に貢献する人材を育てていきたい」と、決意を新たにしました。

続いて河村律子副学部長が学部教育や進路・就職活動について説明しました。2011年4月からグローバル・スタディーズ専攻が開設され、2専攻体制



がスタートして1年が過ぎた現状を解説。進路・就職活動については、「名の知られた企業以外にも業界の先頭を走る企業や、国際舞台で活躍できる職場、さらには大学院進学など、多様な進路があります」として、「学生たちを自らの子どものように思い、大切に成長を見守ります。どうか安心してお預けください」と力強く訴えました。その後は2会場に分かれてグループ別懇談会が開かれました。

卒業生・学生の体験談



情熱を傾けて打ち込んだ経験が
働く糧になっている

国際関係学部2011年3月卒業
シャープ株式会社勤務
鈴木達也さん

現在は海外営業部に所属し、他国へのソーラーシステムの販売を担当しています。学生時代を振り返り、思い出深いのは、オープンゼミナール大会に参加したこと。3回生の秋、就職活動と並行しながら仲間7人と議論を重ね、レポートを準備し、企業の方々に前にプレゼンし、見事優勝を勝ち取りました。夢中で何かに打ち込む経験を積んだことが、情熱を傾けて仕事にまい進する今につながっています。



自分の関心を見つけることで
大学生活は充実したものになる

国際関係学部4回生
辻本 愛さん

1回生の後期から2年半にわたってオリター活動に熱中しました。新入生の学びや大学生活をサポートするにはどうすればいいか、時には深夜まで話し合い、必死に考える日々を過ごしました。一方ゼミでは、食料をテーマに研究しながら、京都府南丹市で地域の方々と協力して地域活性化にも取り組んでいます。さまざまなことに挑戦して自分の関心を見つけることで、大学生活は充実したものになると実感しています。



正課の学びに取り組むことが
就活成功の近道だった

国際関係学部4回生
島田康弘さん

自由な時間が多いからこそ、大学生活ではいかに主体的に学ぶかが問われます。1回生では授業の合間の時間を有効活用して英語力を磨き、イギリスへの短期留学に結びつけました。2回生では飢餓や貧困に苦しむ世界の人々を援助する国際ボランティア団体で活動。さらに3回生ではゼミで共同論文の制作に取り組みました。就職活動との両立は大変でしたが、結局学生生活を充実させることが就活成功の近道でした。



大学院での主体的な学びを通して
培った「考える力」が就活に役立った

国際関係研究科
博士課程前期課程2回生
平野 マリーナフランシスさん

進路に迷っていた時、親身になって相談に乗ってくれたゼミの指導教官がいたこと、何より関心のある分野を追求する学びのおもしろさを知ったことが、大学院へ進学するきっかけになりました。大学院での学びは発表や討論、論文作成など、自主性が求められます。主体的に学びを深める中で、自分で考える力、そしてそれを相手に伝える力を培ったことが、就職活動でも役立ちました。

政策科学部

College of Policy Science

現代のあらゆる社会問題を解決するため 「読み・書き・分析」の基礎能力を身につける

全体会は、上子秋生学部長の挨拶で始まりました。

「我々の世代と、いまの学生の就職観が異なることを念頭に入れるべき」と現代の就職状況を概説しました。

続いて、2名の学生が学生生活と就職活動の体験を報告。その後、桜井政成学生主事が学部教育について、「本学部の教育の特徴は、小集団演習・フィールドワーク・多様な専門領域を学ぶこと。問題思考・実践思考の学問を追求しています。また、すぐに情報が古くなる現代社会に必要なのは、読み・書き・分析です。本学部では、学術論文やグラフを読む能力、論理的文章を書く能力、統計学やフィールドワークを駆使して分析する基礎能力を養います」と話しました。

さらに就職活動については、「企業の採用ポイントの上位3つは、コミュニケーション能力、主体性、チャレンジ精神。つまり重要なのは、学生生活で何をするかではなく、そこから何を学ぶかということです。就職活動では、本学部で身につけた能力を存分に発揮して自分をアピールする必要があります」と加えました。また、「大企業が内定を出す時期を過ぎると、内定を得ていないことに焦り、立ち止まってしまう学生がいます。しかし、大学に直接来る求人や、ハローワークなどにも新卒向けの求人があります。就職浪人だと決めつけずに粘ってほしい」とあきらめないことの大切さを強調。ご父母に対しても就職活動への理解が求められました。その後、回生別懇談会の場へと移りました。



学生の体験談



自分を理解してくれている 家族によく相談した 就職活動

政策科学部4回生
塩野義製薬株式会社内定
土井川直也さん

友人も知り合いもいなかった入学時、新入生を支援してくれるオリターが存在があったので、自分も2回生のときに入団。新入生キャンプの企画を担当することで、学部の学びも深まりました。また、オーストラリアへの短期留学を経験したことで、英語の授業に積極的に参加するようになりました。就職活動は、「生活を根底から支える仕事」「誠実に働ける環境」を企業選択の軸にし、営業職を志望。一人暮らしなので、しんどくなったら家族に電話したり、帰ったりしていました。面接の練習などに協力してもらって、自分のことをとても理解してくれていると実感。それからは、積極的に相談するようになりました。就職活動は、自分の良い・悪い部分を知り、どう社会に還元できるかを考えるきっかけになりました。



現地におもむき 地域住民との関わりを 深めてまちづくりを提案

政策科学部4回生
住友不動産リフォーム株式会社内定
江口里奈さん

幅広い講義領域の中で、私が興味を持ったのは、まちづくりです。現在はゼミで、まち並み保存地区・熊川宿の空家の活用について研究しており、教授の指導のもと文献・現地調査、分析を繰り返しています。現地調査では合宿も行き、地域の歴史を学んだり、お祭りの大名行列に参加して町を練り歩いたりもしました。このように、地域住民と関わりを深めながら調査を行い、それを地域に還元したり、他地域に示唆を与えることがゼミの役割だと思っています。研究成果は、研究交流大会で発表して市長賞を受賞。他大学の学生や教授と交流して研究を深めることもできました。就職は、住宅業界でセールスエンジニアに内定。就職活動では、今まで学んだことを、どう社会に生かすかを考えることができ、成長につながりました。

文学部

College of Letters

組織改革やキャンパスアジア拠点校として よりグローバルな人材の育成を強化

1927年に創設され、今年で85周年を迎えた文学部。まず桂島宣弘学部長が、2012年度に大幅な組織改革が実施されたことに触れ、「全世界すべての国々、地域と、文学のすべてを網羅し、現代にふさわしい総合的な文学部のカリキュラムにリフレッシュされました」と説明しました。また昨年文学部が、日本の私立大学としては唯一、文部科学省の定めるキャンパスアジア拠点校に選定されたことも紹介。「日本、中国、韓国の大学にそれぞれ1学期ずつ留学できるプログラムを備えた大変新しい試みです」と解説しました。さらに大阪茨木キャンパスが開設されることについても「近畿圏のネットワーク作りに貢献したい」と熱い思いを語りました。

続いて、高正龍副学部長から、学生

生活と進路就職について説明がありました。「文系職種の特徴としては、近年グローバル人材が求められており、採用では人物評価重視の傾向が強まっています。8月末までに立命館大学に寄せられた求人数は1万4000件と、去年より30%増で推移。明るい兆候が見えてきました」とし、「早々に就職浪人を決める学生がいるが、就職支援をするキャリアオフィスは『卒業までに就職を決める』を合言葉に支援を行っています。親御さんも卒業するまであきらめず活動するよう声をかけてください」と述べました。

その後、学生3名が就職活動の体験談を発表。最後に、西林孝浩准教授による「半跏思惟像の系譜～京都の仏教美術とその源流」と題したアカデミックミニ講義が行われました。



学生の体験談



興味を持ったら
即行動、
目標を定めること

文学部4回生
エヌ・ティ・ティ・コミュニ
ケーションズ株式会社内定
井上 愛さん

大学で中国文学を学ぶうち、そのおもしろさに気づき、2回生から3度中国を訪れました。3度目の訪中から帰国した時、すでに就職活動が始まっていました。慌ててOB訪問からスタートさせましたが、無事4回生の4月に内定をいただきました。留学経験から「グローバルな人間になりたい」と目標の軸をしっかりと持てたことが決め手だったと思います。留学資金を自分で準備し、決定してから打ち明けた時も、就活中も、すべてを受け入れてくれた親の対応がありがたかったです。



自分自身と
向き合う重要性を
実感

文学部4回生
株式会社大丸松坂屋
百貨店内定
吉原 大介さん

「将来、どのような人間になりたいか。」自分なりのビジョンを持って就職活動を始めました。しかし、選考が進むにつれて「本当にそれでよいのか」という疑問が生まれました。その頃、第一志望の最終選考に落ちたことから一念発起。「一番やりたいことができる会社はどこか」と考え、対策を練り直した結果、内定をいただくことができました。大学での学びと共に課外活動や自主ゼミなどの積極的な取り組みを通して、自分自身をアピールできたことがプラスになったと感じます。



日々の会話で
就活中の
不安を払拭

文学部4回生
立命館中学・高等学校
教諭採用予定
山下 沙理さん

小学校の頃からの夢を実現し、来春から立命館中学校・高等学校教諭として教壇に立つことになりました。教職課程は通常より余分に40数単位取得する必要があり、テストやレポートも多いので「とりあえず」という感覚では乗り切れません。それならむしろ他の経験を積んだ方がよいと思います。お子さんが進路に迷っていたら、「本当にしたいことか」と尋ね、じっくり話してみてください。私自身、父母という安心できる存在があったから、最後までがんばり通すことができました。

映像学部

College of Image Arts and Sciences

映像を多角的に捉えながら、 専門知識・技術・プロデュース能力を身につける

全体会の冒頭で大森康宏学部長が、「グローバル化の中、映像が生き抜く一つの武器となり得ます」と挨拶しました。続いて、川村健一郎副学部長が、「アート」「ビジネス」「テクノロジー」の3側面から映像を捉えながら、プロデュース力を養うことが本学部の大きな目的と話し、「1回生で幅広く基礎を学び、2回生の実習で自らの関心を絞り込みます。続く3・4回生で研究を深めて卒業制作や卒論に取り組みます。将来を見据えて、専門領域を系統的に学ぶカリキュラムを設定しています」と学部教育について説明しました。

次に、渡辺修司学生主事が進路・就職について、「就職活動準備期間が短縮された上に、企業は厳選採用する傾向にあります。周到な準備と計画性、

および学内支援活動への参加が重要です」と強調。また、企業が学生に求めるものとして、「社会人としての資質」「志の高さ」「学びの質」を挙げました。「希望の進路・就職を実現するには、正課・課外を通じた学生生活の充実が必要です。『資質』とは、成長し続ける伸びしろ、つまり『志』の高さ。志が高い人は目標達成に向けて粘り強く取り組みます。学生時代に成功・失敗体験を繰り返す中で志が育まれます」と話しました。

全体会後は学部施設を見学。ご父母は音声の編集作業を行う実習室をはじめ、CGアニメーション、ゲーム制作などを行えるハイスペックの機器や、特殊装置が導入されたラボを見て回った後、懇談会へと移動しました。



学生の体験談



正課・課外を通じて 映像に真摯に向き合った 学生生活

映像学部4回生
株式会社テレビ朝日内定
高橋宜嗣さん

中学生から憧れていた映画監督を目指して入学。しかし学ぼうちに映画ビジネス、コンテンツ産業へと興味に移り、音楽・出版からIT・インフラ産業まで幅広く勉強しました。特にデバイスのスマート化におけるコンテンツに注目し、そのビジネスモデルの変化について研究しています。課外活動では、映画館で3年間アルバイトをしたり、最先端の知識や方向性を知り得る業界の講演会に参加する他、映像制作にも携わってきました。興味の対象は変わりましたが、一貫して映像に関わることに取り組んできたことが、就職活動でも評価されたのではと思います。制作の技術力を高めるだけでなく、多様な方法でアプローチできる環境を生かし、能動的に映像に向き合うことが大切だと思っています。



大学での学びを アルバイトに応用して 一人暮らしを維持

映像学部4回生
株式会社電通クリエイティブX内定
小村麻衣花さん

映像業界に興味があったわけではなく、新しいことを勉強したいと思い入学。2回生の映像制作実習で初めて撮影現場に参加し、皆で一つの作品を作り上げるおもしろさを実感しました。撮影に参加する機会が増えると、一人暮らしを維持するためにアルバイトも欠かせませんでした。なるべく撮影や授業に影響しない仕事を探し、結婚式場のカメラマン、飲食店のメニュー制作に従事しました。結婚式場で映像プランナーを務めるなど、大学で学んだことを学外で応用することも。その中で、制作の現場をサポートする仕事につきたいと考えようになりました。就職活動では、映像が社会で武器になるのが不安でしたが、やりたいことが明確になったおかげで、最終的に自分の志とマッチした会社から内定をいただきました。

経済学部

College of Economics

確かな専門性と多様な価値観、 社会人に求められる素養を備えた人材を輩出

全体会では、まず松原豊彦学部長が、経済学部の特徴を紹介。近畿圏以外の学生が6割以上を占め、人生の財産となる多彩な出会いがある環境、2回生から始まる活発なゼミ活動、その中で養われるコミュニケーション力や、プレゼンテーション力をもとにして、文系学部でもトップクラスの就職内定率をマークしています。「共同研究の施

設を設置しゼミ活動のさらなる活性化を図るとともに、地域・企業と連携した実践的な学びの場を増やしていきたい」とのビジョンが語られました。

次に寺脇拓副学部長から、経済学について、クイズを交えた分かりやすい解説がなされました。社会を構成する主体間の相互依存関係の解明、社会の望ましい姿を実現するための方策の提



案という二つの目的を挙げ、「その知識は、就職活動や仕事、日常生活のあらゆる問題解決に応用できる」とメリットを強調。さらに、確かな学力の保証により、社会で活躍できる人材の育成を目指す姿勢が示されました。

学生による体験談の後は、「キャリアデザイン」「就職活動」の2グループに分かれて懇談会が行われました。

学生の体験談



学生団体を設立し、
煙草の吸殻を活用
したビジネスに挑戦

経済学部4回生
株式会社リクルート
ホールディングス内定
澤井慎二さん

大学の起業家教育講座で得た知識と経験を活かし、煙草の吸殻を再利用した衣服の開発・製造・販売を展開。学外のコンテストでも優勝し、自信につながりました。ボランティア団体や全国の企業の協力も得ながら進めるプロセスで、大きく成長できたと感じています。



正課・課外活動とも
積極的に取り組んだ
充実の4年間

経済学部4回生
日本生命保険相互会社
内定
畠中美咲さん

最も印象深いのは3回生での取り組みです。ゼミでは少子化抑止に向けた政策としてお見合い結婚を検証し、ゼミナール大会で入賞。また東北でのボランティアでは、被災者の方が集えるサロンの運営を通じて、柔軟性やコミュニケーション力を培えました。



モチベーションの
高い友人に刺激され
将来の目標が明確化

経済学部2回生
西尾涼平さん

グローバルに活躍するという夢を見出せたのは、自分なりの目標や考えを持つ友人の存在があったからこそ。語学力を磨くため、英語で授業を行うゼミを選択。学部の行事を企画・運営する学生団体にも所属し、日々、社会で求められるスキルの向上に励んでいます。



興味のあることに
全力を注ぐ日々が
面接突破の原動力に

経済学部4回生
エヌ・ティ・ティ・コミュニ
ケーションズ株式会社内定
山本泰希さん

学内の企画運営団体、野球サークル、議員インターンシップなど、あらゆることに挑戦しました。面接で重視されるのはその中身です。参加した動機、活動内容、その中でがんばったことや学んだことを丹念に書き綴り、振り返ったことで自信を持って面接に臨み、内定を獲得できたと思います。



大学で得た
知識や経験から
やりたい仕事を発見

経済学部4回生
株式会社野村総合研究所
内定
櫻田育弥さん

サークルで学生の課題解決につながる講演会を企画していた経験から、コンサルティング業界を志望。希望のシステムエンジニアとして内定をいただきました。大好きな統計学と同様、人の気持ちや理想を可視化する仕事に就けたことを本当にうれしく思っています。



夢の実現を目指す
強い思いと
情報収集が大切

経済学部4回生
経済学研究科進学
堀川秀之さん

専門性を高められる上、目標である税理士資格取得の近道ともなる点に魅力を感じて進学を決意。奨学金や学部生が大学院の講義を受けられる早期履修制度を活用するためには、情報収集が肝要です。とりわけ重視してほしいのは、大学院説明会です。ぜひ参加することをお勧めします。

経営学部

College of Business Administration

教職員もともに進化しながら世界で活躍する 人材を育成

まずは教学担当の西谷順平副学部長より、ご父母に向けて「大学への疑問や心配事などがあれば、率直にご意見ください」とのメッセージが。また、経営学部については「社会のグローバル化に対応できる場にしていきたい。そのため、教員も若手を中心に、英語で授業できる能力を鍛えています」と伝えられました。

大学院研究と就職担当の今田治副学部長は「就職活動中、学生はこれまでに受けたことのないような厳しい言葉を受けることもあります。そんな時は『あなたの知らない自分に気づかせてもらったのですよ』とアドバイスしています。こうした経験や自己分析を重ねる中で、学生は自分のアピール方法や、やりたいことに気づき、自分に

合う企業を見つけられるようになりま

す」と発言。「もしお子さんがお父さん・お母さんに助言を求めたら、感情的に批判するのではなく大人の対話をしてあげてください」と語りました。

鄭雅英学生主事は「立命館大学はマンモス大学ではありますが、学生への個別対応もしっかり行います」として、学生の心の悩みにカウンセラーが対応する「学生サポートルーム」や学業の相談に乗る「アカデミックカウンセリング」といったサポート体制を紹介しました。

2人の学生による就職活動体験談の後には、ご父母の体験談も。「会社面接の話をお子さんから聞き、今の時代、企業は大人に一步近い学生を求めていると感じました」といったご意見が聞かれました。



学生の体験談



ビジネスの現場を肌で感じ 意欲的に取り組んだ 海外インターンシップ

経営学部4回生
川崎重工業株式会社内定
林 勇太さん

「グローバルな人材として活躍したい」という中学時代からの夢をかなえるため、外国人講師による授業が多く、留学や海外インターンシップの制度が充実している立命館大学経営学部に入学しました。3回生では1年間休学し、カナダに10カ月間私費留学。留学中には、アメリカでのインターンシップにも参加しました。さまざまな業務を経験し、「ビジネスの場では完璧な英語は必ずしも求められていない」「問題が生じた際は、現場に足を運ぶことが重要」といったことを肌で感じました。10月に帰国し、12月から就職活動を開始。学内で行われたOB・OGによる模擬面接練習会などを活用し、数社から内定をいただきました。面接では「学生時代、何に重点を置き、どう努力したか」を話せるかどうか大切だと思います。



つらいときも休まず 準備と行動を積み重ね 内定を勝ち取る

経営学部4回生
トラスコ中山株式会社内定
植松 暁美さん

メーカーの営業職を志望し就職活動をしていましたが、すんなりとはいきませんでした。3回生後期の定期試験で十分に単位が取得できなかったことも反省点です。4回生の時点で単位を多く残していると、就活が長引いた時に非常に大変です。面接に落ち続け、落ち込むこともありましたが、学内での模擬面接で「留学やボランティア活動など、多彩な経験をしているのに自信がなさそうに見えるのがもったいない」とアドバイスを受けたことが、自分の足りない点を知る契機となりました。つらい時期もありましたが粘り強く就活を続け、7月に内定をいただきました。就活は、受かるべき準備と行動をとった後は縁次第です。何よりつらい時に話を聞いてくれ、いつも味方でいてくれた母親には感謝しています。

理工学部

College of Science and Engineering

個々の学習深度に添う新カリキュラム導入 主体性を磨き、4+2の教育で専門性も向上

学生一人ひとりに確固とした学力を身につけてもらうことを主眼とする理工学部。「自分で勉強計画を立てる『デザイン型教育』、基礎学力の定着や英語教育に力を入れています。学生には学部4年間と大学院でみっちり学んでもらっています」と、坂根政男学部長よりあいさつがありました。

次いで、田口耕造副学部長から学部教育について詳しく紹介されました。「学生間の学力差を解消するべく、下位レベルの学生に対してリメディアル教育(補習教育)を行っています。さらに授業外サポートも充実。『物理駆け込み寺』や『数学学修相談会』など学生主体の勉強会の他、『びあら学習サポート』も実施。学生一人ひとりの学力は、着実に向上しています」と

解説。さらに、社会で活躍する上で求められる問題発見力・分析力・解決力を養うものとして、「学部4年間+大学院2年間の教育」の有効性が述べられました。

その後、大学院担当の宮野尚哉副学部長が、高い就職率を誇る理工学部の就職状況を報告。具体的データを紹介しながら、「技術開発職を目指すなら、大学院生が有利」と強調しました。

最後は、学生3名によるプレゼンテーションとパネルディスカッション。学生生活の現状について学生はイキイキと体験談を語り、全体会は終了しました。その後は学科別懇談会と研究室見学が実施されました。



学生の体験談



幅広い学部教育、
家族のサポートで
夢みた教員に

理工学部4回生
鳥居奏祐さん

大学は自己責任の場。求めれば与えられますが、受け身では何も得られません。教職を目指していた私。教職課程を通じて学部を越えた幅広い交流ができ、自主性・専門性・幅広い教養を獲得できた実感します。教員採用試験への挑戦は、「忍耐」のひと言に尽きる過酷なものでした。そんな中、何度も相談に乗ってくれ、自分を理解してサポートしてくれた家族の存在が大きな支えになりました。常に味方がいたおかげで、自分らしさを忘れずにいられたことが、良い結果を生んだと思います。



就職支援と
OBとのご縁が
就職への鍵

理工学部4回生
秋満麻帆さん

立命館の魅力は、勉強面でのサポートと就職支援制度の充実に尽きると思います。OBの面倒見の良さも際立っています。私も大変お世話になりました。立命館のホームページにある膨大な就職記録を通じて、気になる先輩の元を訪問したり、「OBお招き会」で知り合った先輩にメールで何度も相談に乗っていただきました。キャリアオフィスでのマンツーマン指導も大きな力に。いずれも参加するかどうか大きな別れ道です。手厚い制度をとことん利用することを勧めます。



技術系企業へは
専門性が深まる
大学院進学を!

理工学研究科2回生
佐藤浩一さん

「環境について深く学びたい」と本学へ入学。社会と結びつく専門研究をもっと深めたいと考え、大学院進学を決めました。2年間の研究生生活を終え、建設コンサルタント業界へ就職できた今、技術系企業への就職に大学院がいかに有利であるかを実感しています。企業が学生に求めるのは、基礎学力や専門性。また相手を理解して自らの考えを論理的に表現することも必要です。そして何より主体的に一生懸命取り組む姿勢。大学院生活を通じてこれらを培うことができたと思っています。

情報理工学部

College of Information Science and Engineering

『グローバルIT人材育成リーディングプログラム』を契機に、真の国際化を目指す

グローバル化を積極的に推進している情報理工学部。八村広三郎学部長が、その一環として現在、中国・大連理工大学と協同で学部を設置するという国内初の計画を進めていることを発表し、全体会が始まりました。

亀井且有副学部長からは、教育の現状が報告されました。教育の保証を目的とした進級条件とともに、各回生の進級率や卒業合格率、今年度に新設された情報理工学研究科への進学率など

も示され、実態が明らかにされました。

続いて、八村学部長が再度登壇し、今年度、文部科学省グローバル人材育成事業に採択された『グローバルIT人材育成リーディングプログラム』について解説。これは、情報科学技術に関する専門知識を基盤とし、社会人基礎力、それらを英語によって活用する力、異文化理解力を備えた人材の養成を図るもので、学部から大学院前期課程修了まで系統的・継続的に学べるほか、

年間100名程度に短期留学の機会も与えられます。「文部科学省の事業として留学生が優先的に配置されるプログラムも採択されており、学内でも国際性を養える、本当の意味でのグローバル化が達成できると考えています」と、その意気込みが語られました。

学生による体験談の後は、学科別に、次世代コンピューティング研究室など最先端の研究を行う研究室を見学。引き続き、個別相談会が催されました。



学生生活レポート



チャレンジし続けた3年間。
社会人になってもこの姿勢を貫きたい

情報理工学部3回生
鈴木哲也さん

時間を有効活用することで、勉強、サークル、アルバイトに本気で取り組んできました。支えとなったのは、「経験全てがスキルになる」というプラス思考と、情報交換できる仲間存在です。現在は無線ネットワークの研究に没頭しながら、課題解決型長期インターンシップに参加。挑戦できる環境が整っていることを改めて実感しています。IT業界への就職を目指し、TOEIC®にもチャレンジする予定です。



プロフェッショナルとして学び抜き、
専門性と人間性の向上を実現できる

理工学研究科2回生
株式会社堀場製作所内定
高木秀隆さん

入学前から、研究施設が充実した立命館での大学院進学を志望。現在はコンピュータグラフィックスの研究室で、画像を見せる技術を研究しています。最大の魅力は、プロの領域に入り込み、専門性を高められること。研究室での交流や国際学会への参加を通じて、協調性やチャレンジ精神、広い視野も培えました。しっかりとビジョンを持っていれば、大学院進学は、重要な選択肢の一つになると思います。

学生の就職活動体験談



学内の多彩な就職支援イベントを
活用したことで自信が生まれた

情報理工学部4回生
株式会社ディー・エヌ・エー内定
戸上凌太さん

就職活動中、志望するエンジニアの採用では大学院生が圧倒的に有利であること、また、12月スタートとなり準備不足の学生が少なくないことを実感しました。その中で私が内定をいただけたのは、学内の就職支援イベントのおかげです。夏休み前から開催される就職ガイダンスに始まり、自己PRの練習会、個人面接対策、企業研究会などを活用したことで、早く深く準備ができ、自信を持って臨むことができました。



学部生時代から積み重ねてきた
専門性を活かせる企業に内定

理工学研究科2回生
三菱重工業株式会社 航空宇宙事業本部内定
熊谷 歩さん

大学院生の就職活動では、研究内容が仕事内容に直結するケースが少なくありません。私は学部生の頃から、機器の使いやすさを向上させるインターフェース・デザインの研究に取り組んできました。卒業後もその専門性を活かし、戦闘機などのコックピットの設計に携わることになりました。今の私があるのは、先生方や友達、両親の支えがあったから。特に一社会人として助言してくれた父母にはとても感謝しています。

生命科学部

College of Life Sciences

課題探求型の学びを通して、 社会で活躍する人間性と専門知識を強化

森崎久雄副学部長の挨拶から始まった全体会。「生命科学部では、薬学部と共同で英語に関する発信型プログラムを推進しています。その成果として、TOEIC®テストの平均点数が全学部中トップという好成績を収めることができました。また今年、文部科学省より留学生を優先配置する特別プログラムが認定され、グローバル化に弾みがつくことは間違いないと思われまます」と、2008年に発足した生命科学部の順調な歩みについて紹介されました。

引き続き、同副学部長が学部の学びについて解説。茶道など伝統文化の修行過程を表す「守・破・離」になぞらえ、「『守』は指導者の教えを守り、『破』は教えを守りつつ既存の型を破る、『離』は

指導者から離れて自らの境地を磨くことを指します。この言葉を使えば、大学での学びは『破』の段階にあると言えるでしょう。そのためには課題探求型の学びが大切です」と、分かりやすく説かれました。

さらに、早野俊哉学生主事が就職について述べ、生命科学部1期生の就職決定率が93%と非常に高いことを報告しました。近年、就職活動において、企業側のニーズと学生とにギャップが生じていることが問題視されています。その現状に対し、「人間力に加えて、理系企業では幅広い専門知識が求められる」ことが伝えられました。

続いて、3人の学生による学生生活体験談の発表へ。全体会の後は学科別懇談会が実施されました。



学生の体験談



志高い仲間と
自主性のある
学生生活を

生命科学部
1回生
田渕麻衣さん

人の役に立つ仕事に就けるよう、誇りを持てる大学生を送りたいと考え、自主ゼミの代表を務めています。自主ゼミの活動内容はみんなで相談し、活動授業の理解を補うための勉強会、先輩方の卒論や先生方の研究発表会への参加、就職に関する情報収集を行っています。一人で行うことには限界があるものです。生命科学部には、高い志を持つ学生が多いと実感しています。そんな仲間と切磋琢磨しながら、常に自分ができていることを考え、成長していきたいです。



1・2回生の
単位計画で
課外活動も両立

生命科学部
3回生
六車有貴さん

1回生からしっかり授業に臨んで単位を修得した結果、現在はゆとりある授業スケジュールで学生生活を過ごしています。そのため、就職活動や大学院進学勉強に時間を割けるのが何より。3回生前期までは実験後のレポート作成が大変でした。でもがんばった分だけ達成感は大いいものです。また、勉強だけではなく、陸上競技サークルにも所属しています。2回生の時に100kmにおよぶ「四万十川ウルトラマラソン」を完走するという貴重な体験を得ることができました。



院での研究に
時間を費やし、
希望の研究職へ

理工学研究科
博士課程前期課程
2回生
川崎唯登さん

学部時代は、1回生の学生生活をサポートするオリター団に所属。3回生では団長も務め、大学職員の方と連携、団員の指導も行ってきました。就職ではなく大学院進学を決めたのは、専門性を活かした仕事に就きたいと考えたから。研究時間をより長く取るために、学内進学を選びました。その結果、国内学会4回という研究成果を発表する機会に恵まれました。製薬会社の研究職に就職が決定したのも、研究に情熱を費やした成果だと思っています。

薬学部

College of Pharmaceutical Sciences

専門的な知識とコミュニケーション能力を併せ持つ次代の薬剤師を育成

1期生が5回生となり、その卒業に合わせて、大学院の設置に向けて準備を進めている薬学部。全体会の冒頭では、今村信孝学部長から、「12月には二期生の現4回生が、実務実習に参加するために合格することが求められている薬学共用試験に臨みます。試験に先駆けて全国一斉に実施された体験受験では、立命館大学の学生が全国1位の正解率をマークするという誇らしい結果が得られました」との報告があり、学生の順調な成長ぶりについて語られました。

次いで登壇した浅野真司副学部長は、まず、他学部よりも卒業単位数が多いため、カリキュラムが濃密かつタイトであることを説明。各回生で学ぶ内容に加えて、国家試験で出題される

問題や合格率、就職の概況、広がりつつある活躍の場に関してもデータを踏まえた具体的な解説がなされました。また、これからの薬剤師に求められる能力として、患者さんや医療チーム間でのコミュニケーション力を挙げられ、専門的な知識と併せて、分かりやすい言葉で説明する力や、相手の立場を思いやりながら話に耳を傾ける姿勢が大切であること、大学ではこれらの点に力を入れて教育を実践していくことについて話がありました。

学生による体験談の発表に続いては、施設見学を実施。この秋に完成した、調剤実習室や無菌製剤室などを擁するサイエンスコア南棟を含む、薬学部のほぼすべての施設を巡った後は、個別相談会が行われました。



学生の体験談



授業の復習を大切にしながら友人との交流やサークル活動もバランスよく楽しむ日々

薬学部1回生
小島悠輔さん

一人暮らしをしている私の1週間の時間配分を数字で表すと、講義18%、自主学習10%、自由時間48%、アルバイト4%、睡眠20%となります。何も分からずに入学しましたが、1回生をサポートする先輩方から授業の履修や生活面に関するアドバイスがあり、スムーズなスタートを切ることができました。高校と違う点は、自由時間が多く、勉強にも遊びにも、好きなように時間を使えること。何事にも自主的に取り組む中で、自分の行動に責任を持つようになったと感じています。普段の学習は、進級に関わる授業、高校で選択していなかった生物に関わる授業の復習が中心。毎週月曜は薬学研究会というサークルで活動し、週2回は塾講師のアルバイトへ。友達と一緒に過ごす時間も増え、毎日がとても充実しています。



病院での実務実習を機に、将来の目標と、薬剤師としてあるべき姿を見出せた

薬学部5回生
田島由里絵さん

4回生の薬学共用試験では、先生がつきっきりでサポートしてくださったおかげで無事合格できました。アルバイトに没頭し、勉強は「それなりにこなす」というスタンスだった私の転機となったのが、この夏の病院での実務実習です。調剤のほか、服薬指導や食事面のアドバイスなども経験する中で、患者さんの支えになることに大きなやりがいを感じ、病院薬剤師を目指すことを決意しました。自分のためではなく、患者さんのために勉強するのだという意識が生まれると同時に、薬剤師になることはゴールではなくスタートで、生涯学び続ける姿勢が必要だと実感する機会になりました。学生同士の仲が良く、先生との距離も近い環境を最大限に活用して情報を収集し、今後は就職活動に臨むつもりです。

スポーツ健康科学部

College of Sport and Health Science

国際連携、地域連携、産学連携を通じ “理論と実践”の力を養成

スポーツ健康科学部の学部懇談会は2部制で行われました。第1部は田畑泉学部長の挨拶からスタート。本格的な就職活動に入る3回生のご父母に向け「家庭でも仕事や就職について語り合ってください」と述べられました。

次いで行われた施設案内では、数々の最先端設備を前に、ご父母から感嘆の声があがりました。スポーツ健康指導実験室では、真田樹義学生主事が学生の腹筋を超音波を使ってチェックしながら筋力維持の重要性を解説。スポーツパフォーマンス測定室では伊坂忠夫副学部長の説明のもと、数台のカメラを用いた3次元撮影が実演されました。

第2部の学部懇談会では、伊坂副学部長が、スポーツ健康科学部で得られ

る学びについて「オールラウンドな学力を育成すると同時に、理論と実践両方の力を伸ばしたい」と説明されました。学内での学びにとどまらず、国際連携や地域連携、産学連携を通じた多様な学びが展開されていることも紹介されました。

就職活動に関しては、教職員から「企業の採用活動が始まるのは12月ですが、それまでの準備が重要です」と注意が促され、学部独自に行われているキャリア形成企画が20以上あることも報告されました。

真田学生主事が、スライド写真を交えながら学生たちの生活を紹介したのち、学生らが日頃の学びについての話や就職体験談を披露。ユーモアを交えた話しぶりでご父母を湧かせました。



学生の体験談



さまざまな学び
情熱を持って
めいっぱい吸収

スポーツ健康科学部
2回生

鳥取伸彬さん

勉強も課外活動も、さまざまなことに挑戦しています。岐阜県での学会発表に参加したり、トレーナー志望の学生が指導ノウハウを学べる「チームゼロ」という団体で、高齢者向けの運動プログラムの考案・指導もしています。また、課外活動として1回生の学習面を先輩がサポートする団体「アカデミックアドバイザー」の執行部として運営にも主体的に携わり、マネジメントも学んでいます。これらはほんの一例ですが、今後も興味のあることに情熱をもって取り組みたいと思います。



就活が始まって
新たな選択肢が
見えてきた

スポーツ健康科学部
3回生

下崎陽平さん

スポーツ医学を専門とするゼミに所属する一方、課外活動では学生トレーナーをしています。「ケガをして競技をあきらめる選手を減らしたい」という思いからトレーナー活動を始め、その思いの実現に向けて2回生の時点で将来医者になることを目標にしていました。しかし今、進路を具体的に考える中で、他の職業でも自分の思いが実現できるのではないかと、進路選択を悩んでいます。今年中に目標を明確化し、それに向かって邁進していきたいと思っています。



就職活動では
自分の強みよりも
意欲を伝えよう

スポーツ健康科学研究科
2回生
日本シグマックス株式会社内定

吉田章吾さん

スポーツ用サポーターで日本のトップシェアを誇る企業から内定をいただきましたが、就職活動では苦い経験もありました。しかしそれを機に、自分の強みや希望をアピールするばかりではなく、その会社でさまざまなことを学びたいと思っている意欲を伝える大切さに気づきました。会社面接では「10年後にどうなっていたいか」と聞かれることがあります。社会人経験のない学生にとっては難しい質問です。ぜひお子さんに仕事の話などをしてあげてください。

Parents' Voices

秋のオープンカレッジに参加された
父母の皆さまにお伺いしました

矢野さんご夫妻
映像学部2回生

衣笠



息子からゼミの申し込みをしたと聞き、そろそろ進路を考える頃だなと思って、今回初めて参加しました。大学時代に勉強だけでなく、社会参加することが成長につながり、就職活動にも有利になるという話が参考になりました。体験談を話してくれた学生に比べると、うちの子はまだ幼くて、残りの大学生活でどれだけ成長できるか心配ですが、見守りたいと思います。

舘脇さんご夫妻
法学部1回生

衣笠



なかなか知り得ない大学の雰囲気と情報を知る貴重な機会だと思い、栃木県から参加しました。全体会では学生さんの体験談を聞き、就職活動中の学生を持つ親がどのように本人と接すれば良いのか、また生活の方向性など具体的に分かって良かったです。それから成績表の見方も詳しく説明していただき、よく分かりました。得ることが多い有意義な一日になりました。

長岡さんご夫妻
理工学部1回生

BKC



手厚い学習支援サポートがあることは知っていましたが、学生が自ら積極的に活用することで、就職活動においても有利になることを知りました。また、学生さんの生の声で今の就職活動の現実を伺えたことで、親として理解が深まったように感じます。これからは、子供との距離感を大事にして、手をかけすぎず、求められたことを柔軟にサポートしてあげたいと思います。

小松原さんご夫妻
経済学部3回生

BKC



陸上部に所属している息子。就職活動についてどう考えているのか聞きたいところですが、一人暮らしをしていることもあり、話す機会がありません。今日はとりあえず、就職活動の実態を知りたいとの思いで参加しました。参考になったのは学生さんの体験談です。しっかりされているなど感じました。会話の取っ掛かりもできたので、今から息子に会いに行こうと思っています。

委員懇談会

秋のオープンカレッジ開催同日の12時より、両キャンパスにおいて2012年度委員懇談会が開催され、千会長をはじめとする全国47都道府県から89名の父母委員と、川口総長以下大学選出役員32名が参加いたしました。

冒頭に、川口総長から大学代表として挨拶があり、日頃の父母教育後援会活動やキャンパス整備などの支援に感謝の意を表し、R2020具体化に向け「教育の質の向上」をさらに目指すこと、本学がキャンパスアジアに採択され、今後東アジアの未来を担う学生を育成していくことについて説明がありました。続いて、父母教育後援会代表として千宗室会長より、全国から参加の父母委員に日頃の活動に対する感謝と「20年のあゆみ」発刊の報告がありました。さらに、学園に期待する学生像についても触れ、自分で考え行動できる人を育成していけるよう学園に期待を寄せる旨を述べられました。石井幹事長の会務報告で、会議は終了しました。

その後、衣笠キャンパスは小林監事、びわこ・くさつキャンパスは高橋副会長が司会を務め、各キャンパスで懇談をおこないました。

衣笠キャンパスでは、山形県、青森県、静岡県、秋田県の父母委員から、都道府県父母教育懇談会への参加者増にむけての工夫の要請と、大学に対する学生の成長への感謝の言葉が述べられ、びわこ・くさつキャンパスでは、神奈川県、福岡県、高知県の父母委員から、父母間の交流について報告があり、父母委員としての抱負などが語られました。



〈委員懇談会次第〉

- (1) 大学代表挨拶：川口清史 総長（父母教育後援会名誉会長）
- (2) 父母教育後援会代表挨拶：千宗室 会長（父母教育後援会長）
- (3) 会務報告：石井秀則 教学部長（父母教育後援会幹事長）
- (4) 懇談

※(1)～(3)はテレビ会議で実施。(4)はキャンパスごとで実施。

アカデミック京都ウォッチング

Academic Kyoto Watching

秋のオープンカレッジの翌日2012年11月18日(日)、恒例のアカデミック京都ウォッチングが開催されました。この日のために全16コースを設定。前日の雨天から一転、すばらしい行楽日和に恵まれた当日、参加者たちは立命館大学の教員や各分野の専門家、学生ガイドによる解説のもと多様なテーマで京都を散策し、通常の観光では知ることのできない新たな魅力を発見しました。

各コースのご案内

〈京都歴史回廊協議会特選コース〉

漢字で巡る京都の名所～白川文字学・体験型漢字講座～

1 白川静記念東洋文字文化研究所による体験型漢字講座。白川文字学に関わりの深い場所を訪ね、自然や人の営みと漢字との結びつきを探りました。

京都魔界巡礼～小野篁卿冥官伝説と平安京三大葬場～

2 冥官伝説をもつ平安初期の文人閑僚・小野篁卿をテーマに、平安京三大葬場(鳥辺野、化野、蓮台野)を巡礼。日本人の精神世界を探訪しました。

〈本学教員と京の歴史・文化・街を訪ねるコース〉

工学部山崎先生と歩く～祇園新橋・産寧坂の町並み保存地区と高台寺～

3 今は菓子匠「駿河屋下里」となっているお茶屋建築をはじめ、鴨東の祇園新橋と祇園町南側一帯の建物保存地区を中心に、洗練された町並みを楽しみました。

文学部中西先生と訪ねる～源氏物語の世界～

4 世界文学遺産ともいふべき「源氏物語」の世界に親しみながら、錦秋の古都・宇治の地を探訪。源氏物語にゆかしい社寺や自然に触れました。

文学部真下先生と歩く～京の宴もてなしの文化～

5 由緒ある花街で「もてなしの文化」を体験するとともに、京都で育まれた宴もてなしに関わる数々の名勝地を歩きました。

文学部山崎先生と訪ねる～京都水紀行～

6 「京都と水」の関わりをテーマに、疎水、酒蔵など水にまつわる場所を見学。京都の人々は水とどのような関係にあったのかを解き明かしました。

文学部佐古先生とめぐる～平清盛と後白河院ゆかりの地～

7 平安末期の激動期を代表する二人の権力者、平清盛と後白河院。二人の往時を偲びながら、若一神社、三十三間堂、新熊野神社などゆかりの地をめぐりました。

文学部三枝先生と訪ねる～豊臣秀吉と京都～

8 京都改造を行ったとされる豊臣秀吉の痕跡を歴訪。北野天満宮、西本願寺、豊国神社などに赴き、知られざる秀吉との関係をひも解きました。

文学部田中先生と歩く～軍部伏見・深草～京都の戦争の痕跡～

9 「軍部」といわれた伏見・深草地区を散策。明治末の建物や軍人墓地、衛兵舎など、今も残る戦争と軍隊に関わる史跡をたどり、近代以降の京都の戦史に触れました。

文学部美川先生とめぐる～平清盛の京都～

10 平清盛に着目し、京都との関わりを掘り下げながら、六波羅界隈、蓮華王院、梅小路公園などゆかりの地をめぐりました。

文学部瀧本先生と散策する ～近代の文豪夏目漱石・川端康成・谷崎潤一郎ゆかりの地を訪ねて～

11 近代の文豪夏目漱石、川端康成、谷崎潤一郎、それぞれのゆかりの場所を散策。康成の常宿で漱石も宿泊した終家旅館を特別に見学しました。

文学部桃崎先生と訪ねる～足利氏ゆかりの寺院と京都御所：現代京都の源流～

12 等持院、金閣寺、京都御苑といった名所をふつうの観光とは違った視点で見学しながら、現代京都の原形が固まったとされる室町時代の痕跡を探りました。

〈古都の伝統・文化にふれあうコース〉

きぬかけの路と茂山狂言の世界

13 衣笠山の麓に沿って金閣寺から仁和寺まで続く「きぬかけの路」周辺の寺院を散策。狂言師・茂山千五郎家の稽古場を訪ね、狂言の奥深さ、面白さを体験しました。

世界遺産めぐり～岡崎つる家にて京の味を楽しむ～

14 世界遺産に登録されている「古都京都の文化財」を鑑賞するとともに、2012年度関西版ミシュランガイドで最高評価の三ツ星を獲得した「岡崎つる家」で昼食を堪能しました。

京都の匠に学ぶ～京和傘手作り体験の旅～

15 150年以上の歴史を持つ京和傘の老舗、日吉屋を訪ね、ミニ和傘づくりに挑戦。そのほか宝鏡寺の秋の人形展や上賀茂神社も見学しました。

嵯峨野トロッコ列車・保津川下りで巡る嵐山散策

16 嵯峨野・嵐山の秋を満喫するコース。世界遺産天龍寺で雲龍図を特別に拝観した後、嵯峨野トロッコ列車と保津川下りで紅葉の美しい景観を楽しみました。

文学部瀧本先生と散策する 近代の文豪 夏目漱石・川端康成・谷崎潤一郎 ゆかりの地を訪ねて

夏目漱石、川端康成、谷崎潤一郎。いずれも日本近代文学を代表し、世界的にも知られる作家です。その文豪たちに愛された街京都は“変わらないことの良さ”を今に受け継いでいます。ミニ講義で紹介された作品の舞台をはじめ、かつての常宿や最良の料亭など、各人ゆかりの地をめぐる予定です。

course

嵐山散策・天龍寺 ▶ わらじや(昼食) ▶ 御池木屋町 夏目漱石碑 ▶ 柊家 館内見学 ▶ 青蓮院門跡



漱石が作品の舞台に選んだ 嵐山で、美しい紅葉を愛でる

最初に足を運んだのは、夏目漱石が職業作家として書き上げた第一作『虞美人草』と、前期三部作最後の作品『門』に描かれた嵐山。世界遺産でもある臨濟宗の禪刹、天龍寺を拝観し、国の史跡・特別名勝に指定された池泉回遊式の名庭、曹源池庭園を彩る紅葉のグラデーションに見入りました。

続いて渡月橋付近へ。『天龍寺の門前を左へ折れば釈迦堂で右へ曲れば渡月橋である。京は所の名さへ美しい』——『虞美人草』の一節を彷彿させる経路を辿り、錦に染まった嵐山を満喫。漱石の心身を癒した、京の自然の変わらぬ美しさを実感しました。

文豪が足繁く通った老舗の 変わらない良さを五感で堪能

昼食に訪れたのは、創業400年の「わらじや」。谷崎潤一郎が最良にした料亭で、著書には、この店の蠟燭だけが灯る仄暗い個室で味わう良さが記されています。瀧本先生は、「潤一郎が伝えたかったのは、変わらない良さ。そのために、この店の空間を取り上げたのです」と解説。当時の光景に思いを馳せながら、名物のうなぎ雑炊、「うぞふすい」のコースを味わいました。

その後、御池木屋町の夏目漱石碑を経由して、今回のメイン「柊家」へと向かいました。川端康成が常宿とし、漱石も宿泊した老舗旅館です。女将から当時のエピソードが語られた後、康成

夫妻が宿泊した部屋、康成が執筆に使った部屋、三島由紀夫が自殺を遂げる直前に泊まった部屋などを擁する旧館、「伝統を未来に繋ぐ」との思いで建てられた新館を見学。季節感溢れる庭、襖、欄間といった調度品、京の工芸品がそれぞれに輝きを放ちながら調和した空間は、康成の寄稿にある「昔から格はあっても、ものものしくはなかった」という一文を思い起こさせます。康成を魅了した、京の四季の移ろいと、変わらないおもてなし。その良さを肌で感じる貴重なひとときとなりました。

最後に、天台宗総本山比叡山延暦寺の三門跡の一つとして知られる青蓮院門跡を訪問。参加者の方々は、抹茶をいただきながら、京の奥深さと、充実の一日の余韻に浸っていました。

文学部三枝先生と訪ねる—豊臣秀吉と京都—

このコースでは、天下統一を果たした豊臣秀吉が行ったとされる京都の都市改造に着目。三枝暁子先生の解説のもと、京都市街に残る秀吉ゆかりの地を訪ね、秀吉が現代の京都にまで及ぼした影響の痕跡をたどりました。北野天満宮、東福寺と随所に紅葉の名所も織り込まれ、秋の京都を満喫する一日となりました。

 北野天満宮 ▶ 昼食 ▶ 西本願寺 ▶ 豊国神社 耳塚 ▶ 甘春堂東店 和菓子作り体験 ▶ 東福寺三門(外観のみ)



北野天満宮に残る 秀吉の足跡の数々をたどる

ミニ講義を終えて衣笠キャンパスを出発した一行が最初に向かったのは、大学にほど近い北野天満宮でした。菅原道真を祀るとして知られているこの神社は、三枝先生の説明によると、天台宗の総本山である比叡山延暦寺の末社として神仏両方を祀り、足利氏が治めた室町幕府と縁を結ぶなど、時の権力と深く関わりながら発展してきたとのこと。境内には、時の権力者に関わる痕跡がいくつも残っているといいます。

まず大鳥居をくぐってすぐ、足利義持が植えたという説のある「影向松」と、

その向かいにある茶室「松向軒」を見学。「松向軒」は、茶の湯やキリシタン弾圧といった秀吉の歴史をしるのばせです。さらに参道を進み、東向観音寺、マリア燈籠など、三枝先生の解説によってふつうの参詣では見過ごしてしまう痕跡を見つけたら、参加者は興味深く見入りました。

本殿を参った後は、「もみじ苑」へ入場。ここは1587(天正15)年7月、天下統一に向かっていて関白秀吉が、千利休をはじめとした名だたる茶人から、若党、町人、百姓にいたるまで多くの人々を招いて大茶会を催した場所です。800もの茶席が設けられ茶がふるまわれたと伝えられる同じ場所で、一行も温かい

お茶と老舗「老松」の茶菓子で一服し、大茶会に思いを馳せました。「もみじ苑」の奥には、秀吉の築いた京都の城下町の完成を象徴する土居堀の跡が残っています。今は鮮やかに色づく紅葉の名所。風がそよぐたびに堀の水面に舞い散る紅葉を眺め、参加者は感嘆の声を上げました。

西本願寺の豪壮な造りに感嘆し 豊国神社、耳塚で歴史に触れる

昼食は、安永年間に創業した老舗「西陣魚新」で。「西陣弁当」で秋の風情を堪能した後、一行は西本願寺へ向かいました。西本願寺は、1272(文永9)年

(ミニ講義)

豊臣秀吉と京都

講師：三枝 暁子 先生(立命館大学 文学部)



豊臣秀吉は、天下統一を果たした人物としてよく知られていますが、京都との関係に焦点を当てると、また別の側面が見えてきます。京都における秀吉の最も大きな足跡は、現代京都の都市空間にまで影響を及ぼす京都改造を行ったことです。

1585(天正13)年、関白に就くとすぐ秀吉は洛中の改造に乗り出します。翌年、内裏の跡地に城郭風の邸宅・聚楽第を建設したのをはじめ、1587(天正15)年から3度にわたって検地を実施し、京都の街区を短冊形に区割りするとともに、公家町、寺町、大名屋敷と身分別に住民を移動させました。そして洛中を囲むように土居堀をめぐらせ、地

子免許を行い、秀吉の居宅・聚楽第を中心とした城下町を築き上げたのです。これが現代の京都の街の原形だと考えられています。

次に、今、歴史学の分野で注目されている、「地震」という視点から秀吉の時代の京都を眺めてみましょう。秀吉の治世にも1585(天正13)年と1596(文禄5)年の二度、大きな地震が起きました。地震に着目して改めて歴史をひも解くと、秀吉の京都改造もそれと無関係とはいえないことがわかってきます。たとえば吉田神社の神主だった吉田兼見の手記『兼見卿記』には、天正地震によって、東寺の講堂の棟が落ち、東福寺の三門が歪み、多くの死者が出たと記されて

います。興味深いことに、これほどの大惨事のあったまさにその年を起点に、聚楽第や大仏殿の造営、太閤検地といった大規模な事業・政策は始まっているのです。また、『義演准后日記』や『言経卿記』などには、文禄大地震がいかに惨憺たるものだったかが記されています。多くの人が亡くなり、住む場所をなくし、余震におびえる中、秀吉はキリシタン弾圧や朝鮮出兵など強硬な政策を打ち出しています。

未曾有の天災に見舞われた時ほど求心力のある人物に権力が集まり、強引にも思えるリーダーシップがまかり通る。それは現代にも通じることかもしれません。



にさかのぼる歴史をもち、幾度かの流転の末、1591(天正19)年、豊臣秀吉から京都七条堀川の地を寄進され、京都市下京に移転したとされています。当時は広大な土地に伽藍と寺内町が作られていたと解説されました。

秀吉が築いた伏見城の遺構が用いられたといわれる唐門を訪れた後、秀吉が京都の都市計画の一環として大坂天満から移築した御影堂、それに続く阿弥陀堂を参拝しました。御影堂は文禄の大地震、さらに江戸時代の火災によって焼失。現存するのは改築されたものではあるものの、野太い柱が200本以上もそびえ立つ荘厳な造りと細やかな細工が施された建物は、往時の繁栄ぶ

りを十二分に伝えていました。

続いて、西本願寺の唐門と同じく伏見城の遺構といわれる唐門のある豊国神社を参詣。さらに豊臣秀吉の二度の朝鮮出兵文禄・慶長の役の際に持ち帰った朝鮮人戦死者の耳・鼻を納めて供養した「耳塚」を見学しました。

和菓子作りを体験し 東福寺で紅葉を満喫

豊国神社、耳塚から歩いてすぐの場所にある京菓匠 甘春堂に立ち寄り、一行は和菓子作りを体験することに。紅葉をかたどった干菓子きざと、秋に実る柿のういろや嵐山の紅葉を模した

練りきり、そして錦繡に染まる様を表したきんとんの計4つの和菓子に挑戦しました。職人の手さばきを真似るものの、繊細な作業に皆一様に悪戦苦闘。思いとは裏腹にユニークな形の菓子ができあがるたび、店は笑い声に湧きかえりました。できばえを見せ合い、ご父母同士自然と親交を深めつつ、楽しく菓子を完成させ、薄茶とともに自分で作った和菓子を味わいました。

最後は、紅葉がまぶしい東福寺へ。夕暮れが迫る中、天正の大地震の際に傾いたといわれる三門を駆け足で訪問。燃えるような朱色に染まった通天橋を眺め、一行は旅を締めくくりました。

アカデミック講演会 in Kyoto

キャンパスから遠く離れた場所に住むご父母にも立命館を身近に感じていただける機会として、全国各地で開催しているアカデミック講演会。2012年度は、父母教育後援会設立20年を記念して、地元京都で開催しました。10月6日(土)、2006年度から父母教育後援会会長を務める千宗室氏が講師として登壇。ご父母の皆さまに、茶道の精神にのっとり「一期一会」の心の大切さについて語りかけました。

人生はいつでも一期一会

[講師] 千宗室(茶道裏千家 家元)

心を耕すのが文化の役割 日本文化の根底を支える「侘び」の精神

千利休に始まり、今日まで茶の湯が守り続けてきた根本精神は、「侘び」です。「侘び」は、日本文化の最たるものだと私は考えています。千利休はどうして「侘び」という精神に思い至ったのでしょうか。それは、茶の湯の大成に大きな影響を与えた「禅」と深く関わっています。「茶禅一味」といわれるほど、この二つには共通点があります。その一つが「不要なものをそぎ落とす心」です。この精神が、日本文化を語る上で欠かせない「侘び」「寂び」の概念を確立させました。いふなれば茶道は日本文化の集大成です。それゆえ茶道はたくさんの文化を内包しています。まず茶を点てます。また花を生ける茶花という所作があります。香を焚くという工夫があります。坐禅を組むこともあります。そのほか懐石料理、和歌、書道、陶芸、漆・鍍ものといった工芸、建築、造園、

礼法もあります。外国の方には「日本文化のトータルパッケージ」と説明することもあるくらいです。茶道を学んだ人の中には、華道に進む人もいれば、雲水になる人、また料理人や建築家、歌人、陶工になる人もいます。選択肢が多いという意味では、茶道は「日本文化のポータルサイト」ともいえるかもしれません。

次に文化について考えてみましょう。英語では“culture(カルチャー)”ですね。一説には“culture”の語源は“agriculture(アグリカルチャー)”すなわち農業だといわれます。農業では、畑を耕します。固い土を掘り返し、埋もれている石くれや木の根を取り除き、冷たい土に太陽を当てることで、土地は作物の育ちやすい肥沃なものになります。これを文化に当てはめるとどうでしょう。文化に触れることで心の中に埋もれていた石くれや木の根っこ、つまり人を妬む心や意地悪な心、よこしまな心が取り除かれます。すると心に栄養が行きわたり、さまざまな作物、つまり優しさや慈しみの気持ちが増えていきます。「心を耕す」と表現されるように、これこそが文化の役割なのです。

未来に対する不安は影のようなものです

人は年を経るごとに新しいことに出会います。たとえば私の場合、大学を卒業した時、寺に修行に行った時、結婚した時、子どもを授かった時、初めて責任ある立場になった時、そうした人生の節目に臨む中で、「未来とは判然としない不安が横たわる場所だ」という思いが強くなりました。シュレーディンガーは「不安は現代公認の情動である」と言いましたが、世の中の多くの人が私と同じように漠然とした不安を抱えているようです。だれでも生きる中で傷つきます。そして傷ついた記憶が新たな不安を招きます。少年時代から不安を抱えて成長するうち、いつしか私は「不安感が消えないものだ」と達観し、「不安感とは影のようなもの」と考えるようになりました。影を切り離すことはできません。くっきり見える晴天の日だけでなく、雨の日や夜、見えなくともそこ



にあり、月明かりが差し込んだ途端、また現れます。それなら無理に消そうとせず「一緒にいて当たり前」と気持ちを切り替えると、かえって安心できるようになりました。

一年といわず、私たちは毎日新しい一日に出会います。新しい日に出会うとは、未知のものに出会うということ。だから不安が伴います。といって逃れることはできません。それならば、不安を影に例えたように、「新しい日は新しいことを学ぶチャンス」と発想を転換すればいい。そうすれば不安感と安心感との間に橋が掛かります。不安感と安心感は表裏一体なのです。相対するものがあって、世界が成り立つというのは、陰陽の考え方です。陰陽道から「侘び」「寂び」や「ものの憐れ」という概念が生まれ、東洋の文化の成熟に大きな役割を果たしました。東洋だけではなく、ヘーゲルは「宇宙の真相は矛盾だ」と言い、ブルーノは「宇宙のすべてが反対の合一」と言いました。「矛盾」や「反対の合一」とその表現は違いますが、西洋の賢人も同じことに気づいていたのです。

では「ありがとう」の反語は何だと思いますか。「ありがとう」とは、「有難う」と書くように、「有るのが難しいこと」をしてくれたことに対する感謝の意を表す言葉です。だからその反語は、「当たり前」です。便利になり過ぎた現代社会では、何もかも手に入ることが「当たり前」になってはいないでしょうか。携帯電話やインターネットが発達し、かつて鉄腕アトムで描かれた夢のような未来が現実のものとなりました。それすら当たり前になると、新しい一日に対しても「取り返しがつくからいいや」といういい加減な気持ちでしか対応しなくなります。しかし目の前を過ぎていく一日を捕まえることは二度とできないのです。

「毎日が本番」という気持ちで人生を生きることが大切です

人生をリセットすることはできません。リハーサルもありません。毎日が本番です。もちろんいい日もあれば、悪い日もあります。しかし「禍福はあざなえる縄のごとし」というように、どちらかが永遠に続くことはありません。人生も陰と陽との繰り返しの繰り返しです。「侘び」が表すそうした無常観は、決して悲しいものではありません。月は満月を過ぎると欠けていき、やがて空から姿を消します。しかしまた真っ暗な空に糸屑のような細かい光が差し、新月が現れます。冬は生命の喜びを讃える春の仕込みの時期です。何もなくてもそこには歓喜が芽吹き始めています。つまり「侘び」とは、生死をつかさどる自然の移ろいに対する敬意に満ちた概念なのです。新しい毎日と出会うという考え方も、「侘び」すなわち、茶道の根幹にある「一期一会」の精神に直結しています。人生はリハーサルのない一期一会の繰り返しです。それを知ることが、心の暗部にある不安を照らす灯となるのです。

最初に「侘び」と禅の精神には共通するところがあるとして、



その一つとして「不要なものをそぎ落とす」と挙げました。いらぬものを捨て、素直な気持ちで自分の心を見つめることです。私自身も大学を卒業してしばらくの間、大徳寺で修行しました。その中で、「悟り」とは、外に求めるのではなく、心の中に戻っていくことだと思うようになりました。

己の内をしっかりと見極めた上で社会を見つめれば、くだらないことに惑わされません。しかし、人間の欲望のタガを緩めるもので満ち溢れている現代社会でそれを実践するのは、容易ではありません。どんなに手にしても「もっと」という欲望が湧き、「まだ足りない」と思う貪欲さが不安を煽ります。これは現代人が心を耕すことを忘れた報いなのではないでしょうか。臨濟禅師の言葉に「無事は貴人」とあります。「無事」とは、「雑作をしない」こと、すなわち「何もしない、ほしがらない」こと。それができる人が尊い存在、本来の人間だという意味です。不要なものを捨て、醜い精神的贅肉をそぎ落とすと、だれもがかけがえのない本来の自分に戻れます。そのためには「足るを知り」、自分にとって本当に必要なものは何かと考えることが大切です。その助けになるのが、「侘び」「一期一会」といった精神に支えられた日本文化です。先ほど文化は心を耕すものだと言いました。文化とは、サプリメントです。医薬品のような即効性はないけれど、毎日摂り続けることで体が少しずつ改善されていきます。

今一度皆さんの心の中を振り返ってみてください。それだけで心が豊かになります。それを繰り返すと、出会う明日は潤いのあるものになっていきます。「人生は毎日が本番だ」と肝に銘じ、自分という人間をしっかりと見極め、日々を大切にすごしてください。

PROFILE

せん・そうしつ

京都府出身。同志社大学卒業。臨濟宗大徳寺管長・僧堂師家中村祖順老師のもとで参禅得度。祖順老師没後、妙心寺盛永宗興老師のもとで参禅。平成14年、裏千家16代家元継承。

立命館大学父母教育後援会だより 2012年度夏号 読者アンケートについて

「立命館大学父母教育後援会だより」では、ご父母の皆さまのご意見・ご要望を今後の誌面づくり、そして大学運営に反映していくため、「読者アンケート」を実施しています。「2012年度夏号」の読者アンケートの返送数は計1,291通、回収率は4.0%でした(2012年11月末現在)。全国47都道府県すべてのご父母から貴重なお声をいただきました。

(1) アンケート集計結果

1回生からの回答が36%と最も多く、続いて2回生が28%、3回生が22%、4回生以上が10%となりました。とりわけ低回生からの回答が全体の約64%を占めました。回答者の続柄は母親が69%、父親が30%で、学部別では、回答者の多かった学部順に、①文学部(16%)、②理工学部(14%)、③産業社会学部(12%)という結果になりました。

参考1 回答者の子供の学部

法学部	11.8%
産業社会学部	12.3%
国際関係学部	3.9%
政策科学部	5.9%
文学部	15.5%
映像学部	1.4%
経済学部	10.6%
経営学部	9.5%
理工学部	13.7%
情報理工学部	5.6%
生命科学部	3.5%
薬学部	2.1%
スポーツ健康科学部	3.0%
回答無	1.2%
総計	100.0%

参考2 回答者の子供の回生

1回生	35.8%
2回生	27.8%
3回生	21.9%
4回生以上	9.8%
卒業生父母	0.7%
回答無	4.0%
総計	100.0%

参考3 回答者の続柄

母	68.9%
父	29.5%
両親	0.2%
その他	0.4%
回答無	1.0%
総計	100.0%

(2) 興味を持たなかった記事について

今号の記事の中で「興味を持たなかった」というご意見が最も多かったのは、①「【特集】親が気になる就職事情」(27%)で、続いて②「親の心配、子どものホンネ。」(15%)、③「データに見る学生実態」(14%)という順でした。

参考4 関心が高かった記事(上位5)

1	【特集】親が気になる就職事情	27.3%
2	親の心配、子どものホンネ。	14.7%
3	データに見る学生実態	13.8%
4	社会で活躍する校友インタビュー	7.5%
5	きょうのおひる	6.0%

(3) 興味を持たなかった記事について

下記の結果から、ご父母の関心事に対して直接応えている特集に強い興味を寄せられていると推測されます。

参考5 関心が低かった記事(上位5)

1	2012年度総会	15.0%
2	都道府県父母教育懇談会	10.6%
3	きょうのおひる	9.8%
4	公費助成について	9.3%
5	春のオープンカレッジ	8.6%

(4) 次号(2012年度冬号)の掲載記事について

次号で掲載してほしいテーマとして関心が高いのは、①進路・就職に関すること(35%)、②学生生活に関すること(21%)、③課外での学びに関すること(21%)、④大学での学び・研究活動に関すること(14%)で、この4つのテーマへの要望が全体の約9割を占めました。とりわけご父母に関心の高い「進路・就職」の課題は、学部での学び、課外活動といった学生生活全般と深く関係しています。今後はそうした広い視点で有意義な情報を提供する誌面づくりを工夫していきます。

参考6 次号の掲載希望について

1	進路・就職に関すること	35.4%
2	学生生活に関すること	20.7%
3	課外での学びに関すること(留学、教職、ボランティア)	20.5%
4	大学での学び・研究活動に関すること	14.1%
5	本学教員や校友(卒業生)のインタビュー	5.3%

(5) その他、父母教育後援会に寄せられた意見(自由記述)

- 大学の様子がわかるので、隅々まで読んだ。ページによっては涙を流しながら読んだ。これからも豊富な情報を届けてほしい。
- 親として子どもの将来のためにできること、準備しておくことなど参考になった。子どもの就職が決定するまで大切に保管して、目を通したい。
- 子どもとのコミュニケーションには正しい情報が必要で、本誌は必要な情報を提供してくれていると思う。
- 就活の流れと大学のサポートの図など、見やすくわかりやすく作られていてよかった。
- 大学生活の実態が親・子・大学それぞれの立場で掲載されており、毎回楽しみに読んでいます。
- 子ども達の実生活が伺えてよかった。
- 等身大の学生に焦点を当て、具体的なページ構成がわかりやすい。「データに見る学生実態」もよかったが、生の学生の声をもっと聞きたい。
- 閉塞感のある今、内容を隅々まで読み、希望が持てて嬉しい。いろいろな情報がわかり、安心できる。
- 奨学金のお陰で学業を続けさせることができ、大変感謝している。「データに見る学生実態」を読んで、我が家だけではなく多くの方が救われていることがわかり、少々気が休まった。
- オープンカレッジなどになかなか参加できないので、「後援会だより」はとてもありがたい。

(6) まとめ

今回のアンケートから、多くのご父母がわが子の自立に不安や焦りを感じ、またわが子の学生生活についてもっと知りたいと思っておられることが伺えました。今後も、そうしたご父母の声に真摯に responding いただけるような会報づくりを心がけていきます。

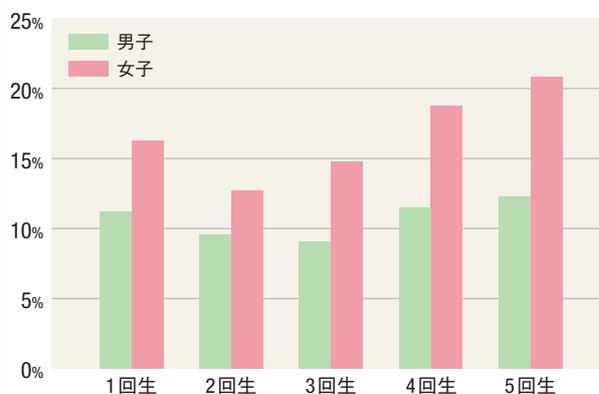
ダイエットに潜む危険

大学に在籍する18歳から20歳代前半という年齢は、生涯の健康を左右する非常に大切な時期です。特に女性は、12歳頃から始まった月経がこの時期にある程度確立され、女性としての身体機能が成熟します。また、更年期以後に発症する骨粗しょう症は、若い時の骨密度と密接な関係があります。

一方、学生時代は最もお洒落に興味があり、自分の容姿にこだわる時期でもあります。美しいともてはやされている芸能人やモデルに憧れ、自分もそうなりたいと思うのも当然かもしれません。しかし、極端なダイエットには多くの危険が潜んでいます。やせは女性だけの問題ではなく、男性でもまれに摂食障害にかかることがありますし、急激にやせた背景に重大な病気が隠れていることもあります。本学ではこの10年、やせ(BMI18.5未満)は男子の10%、女子の16%にみられ増加傾向はなく、むしろ過体重学生がやや増加しています。しかし、4・5回生でやせが増加する傾向が見られます。学生時代を将来につながる大事な時期と捉

え、ご家庭でも毎日の食卓や下宿から帰省された際に、バランスの良い食事の大切さを話題にしたり、体重の極端な変動がないか気にかけていただけましたら幸いに存じます。また、本学保健センターには、女性内科医師によるレディース外来もございますので、気軽に受診していただくようお願いください。

やせ(BMI18.5未満)の回生別割合



[ダイエットと月経異常]

女性ホルモンが順調に分泌されるには、ある程度の体脂肪が必要です。脂肪が多すぎても少なすぎても、月経不順の原因になります。急激に体重が減少すると、たとえダイエット後の体重が標準体重であっても、身体が驚いて月経が止まってしまうことがあります。ダイエットの必要がない人がさらにやせた場合は、体重の変化がわずかであっても月経が止まったり、月経様の出血があっても排卵を伴っていない無排卵性月経となることもあります。将来の妊娠に備え女性として成熟する大事な時期に、月経が止まってしまうことは、将来の不妊にもつながりかねない由々しき問題です。

[ダイエットと骨粗しょう症]

女性の骨密度は20歳前後でピークに達します。その後40歳代半ばまではほぼ一定ですが、50歳前後(更年期)から急速に低下していきます。成長期にしっかり骨密度のピークを高くし、それを維持したまま更年期をむかえることが、骨粗しょう症の唯一の予防法です。ダイエットのために食事制限をすると、カルシウムやビタミンDなどの骨形成に必要な栄養素が不足します。もともと日本人は、カルシウムの摂取量が諸外国と比較して少ないと言われていて、思春期には特に意識して摂取する必要があります。

また、過度なダイエットにより女性ホルモン(エストロゲン)の分泌が減少すると、20歳代であっても更年期以後の女性と同様に骨密度が減少してしまいます。エストロゲンには血管や脳、肌などを若く保つ働きもあり、更年期までの女性は心筋梗塞や脳梗塞になるリスクが男性よりもずっと低いことがわかっています。エストロゲンが減少するという事は、たちまち体が老化することに他ならないのです。

下記の保健センターのホームページもご覧ください。

〈立命館保健センター〉 <http://www.ritsumei.ac.jp/mng/gl/hoken/> 立命館大学ホームページ ▶ 各センター等 ▶ 保健センター

衣笠
キャンパス

坂田謙司ゼミ [産業社会学部]

□ 坂田ゼミ [産業社会学部] 坂田 謙司 教授

□ ゼミテーマ：ラジオを通じて社会の課題や問題を考える

坂田ゼミの共通テーマは「ラジオ」。震災など災害を機にその価値を見出され、しばらく経つと再び影を潜め、それでもやりなくなることはないメディア「ラジオ」。ラジオを通じて見えてくるものとは？—この問いから社会を考察しています。

ゼミ紹介

ラジオのこれから、“自分たちのこれから”について考え抜ける場所

私 たち坂田ゼミでは、個人の様々な関心を「ラジオ」というメディアと結びつけて考察すると同時に、京都のラジオ局や大学と提携してラジオ番組の企画・収録も行っています。

一大イベントとしては、北海道帯広市のコミュニティ FMを訪問する夏休み中の約1週間の合宿があります。今回は、合宿中に教授とFM局の方が「明後日放送する2時間番組を学生に作らせよう!」とお酒の席で盛り上がったことから、2日という短い期間で企画から収録まですることになりました。「酔っ払いの無茶振りに付き合っているか!」とぼやきながらも、チーム一丸となって取り組み、責任感をもって一人ひとりが役割を果たすことの大切さを、身をもって学ぶことができました。

「ラジオなんかもう流行らない」という人は、ラジオについて真剣に考えたことはあるのでしょうか。ラジオを軸としたゼミに所属する私たちゼミ生も、絶対的にラジオを崇拝しているわけではありません。私もこのゼミにいないければ、ラジオについてここまで考え抜くことはなかったと思います。

何をやるにしても「考え抜く」ことがなくては成り立たないし、人間的にも成長できません。坂田ゼミは、ラジオのこれから、そしてなによりも“自分たちのこれから”について考え抜ける場所だと思います。



産業社会学部3回生
北野阿沙さん



毎回ほぼ全員が研究の進捗を報告



取材日はDJの栗谷さんをゲストに迎えて展開



先生の言葉からそれぞれのテーマの良さに気づいていく

Schedule

3回生

4月～6月 春休み中に実施したラジオ局調査報告書作成

7月 研究テーマ作成

9月 北海道帯広市でのゼミ合宿

10月～12月 研究発表、立教大学とのゼミ交流、ゼミナール大会発表

4回生

4月～6月 卒論計画書作成

7月 進捗状況発表

10月～12月 進捗状況発表、下書き添削

1月 卒業論文提出



Interview

多様な視点で見た「ラジオ」から社会をとらえる

ラジオというメディアの特徴は、なんとと言っても「音と声のみ」ということ。音と声だけというところすごく不自由に感じますが、その不自由さの中で人間はなにかを感じ取るのです。また、単純な情報源というだけでなく、人と人をつなぐ安心感を与えるのもラジオならではの。つながりやコミュニティというものが失われつつある今だからこそ、音のメディアであるラジオが与えられるものがあるとも言えるのです。

「ラジオなんて、これからなくなってしまうのではないか」。そう思われる方は少なくありません。しかし、これだけ多様なメディアがあふれている今、なぜラジオがなくなるのでしょうか。メディアが残る理由は必要性だけではありません。一番は誰が作り出したのかということ。戦後、日本の農村には、国の放送制度とは別に、農村独自の欲求から、独自の地域メディアが生まれ出されました。80年代になると様々な新しいメディアが導入されましたが、結局それらは広がらず、一方でコミュニティ放送局というものが現在も少しずつ増え続けています。その違いは、地域の人々の思いがメディアに乗せられているかどうか。ではラジオに人々は何を求めているのか。それを問い直すことで社会の姿が浮かび上がってくるのです。災害時に役に立つといった表面的なものだけでなく、もっと人間の根本のところにある何かがラジオにはある。ラジオを聴く人が求めているものや、聴かない人の理由など、様々な角度からラジオを見れば、例えばこれからの高齢社会につながるヒントといったものも見出せるかもしれません。

実践しながら学びを深めて身につける「総合的思考力」

このゼミでは、学生はゼミに入る時に卒業論文の作成を約束することが必須。2回生時のプレゼミ期間は、ゼミ生は毎週の課題や春休

みに実施されるラジオ局調査の準備などに取り組みます。3回生になってゼミが始まると、研究と同時にラジオ番組の制作にも着手。ゼミの時間はそれぞれの研究の進捗について発表し、終了後は打ち合わせや収録、ゼミ以外の日には番組作りのための取材などもします。夏休みには合宿として北海道帯広市のコミュニティFM「FM-JAGA」を訪問。今年は学生たちの発案で街頭インタビューをしたり、地元の学生と街の中心部の活性化についてディスカッションをしたりしました。番組作りは楽しいことばかりではなく、むしろ辛いことの方が多いのですが、ゼミ生は番組作りを実践しながら学びを深め、課題を発見し、総合的に考える力を身につけることができます。同時に、人に何かを伝えることの大切さも学んでいます。

私のゼミは「社会人準備ゼミ」でもあるので、学生には「ハウ・レン・ソウ（報告・連絡・相談）」を徹底させ、挨拶についてもよく話しています。ゼミ生には「ちゃんと挨拶ができる」「時間を守る」といった基本的な行動ができる、人との信頼関係を大切にできる人間になってもらいたい。それができていない時には厳しく叱ることもありますが、卒業生の姿を見ると、このゼミを通して伝えようとしていることはしっかりと受け止められているようです。

Profile

坂田謙司（さかた・けんじ）

産業社会学部教授

約16年の社会人経験後、39歳の時に大学教員を目指して大学院へ進学。戦後日本農村で独自に生まれ出された有線放送電話史研究で博士号を取得。地域に根ざす音のメディアについて、現在と歴史の両視点で研究を行っている。趣味は花写真撮影。産業社会学部校友会HPやFacebookで見られる。徹らず怠らずが座右の銘。



Student's Voice

仲間の研究を共有し
自分の視野を広げる産業社会学部3回生
福島茜さん

坂田ゼミでは、「ラジオ」という共通のテーマにそれぞれの問題意識や興味を関連付けて研究しています。ラジオをそれぞれの視点から見る研究テーマは多様で、仲間の研究を共有することで自分の視野を広げることができます。また、ラジオ番組の制作活動も盛んで、ラジオの実情を学べると同時に、企画力や構成力、そして自分の思いを人に伝える力を身につけることができます。

Student's Voice

人生の壁を乗り越える方法
ゼミを通して学ぶ産業社会学部3回生
山崎雄輝さん

僕はこのゼミに入るまで、ほとんどラジオを聴いたことがありませんでした。しかし、むしろその立場を強みにして積極的な発言を意識することで、「集団の中で個性を保って発言や行動をする」という目標を達成できました。ゼミでは「目標を立てる・目標に向かう過程を練る・完成したものを違った視点から見直す・これらの作業を繰り返す」ことを学びました。将来壁にぶつかった時にも役に立つ経験だと思えます。

編集
後記

取材日当日は、夏休みの合宿で訪れたFM-JAGAのパーソナリティ・栗谷昌宏さんが、ゲストスピーカーとしてゼミに参加。ラジオの現場に携わる方の経験に基づいたアドバイスは、ゼミ生たちの今後の研究方針の手がかりになっているようだ。ゼミ中の緊張感ある空気、それと打って変わって終了後の打ち解けた空気から、番組制作などの共同作業を通して、学生と教授、そして学生同士の間に、尊敬や信頼の気持ちに彩られた「絆」が育まれているのが感じられた。

服部ゼミ (臨床薬理学研究室) [薬学部] 服部 尚樹 教授

ゼミテーマ: 薬物治療の最適化: ホルモン自己抗体陽性患者における臨床検査の再評価

6年制の薬学部では、学生は4回生の後期から6回生前期までの2年間、それぞれのテーマに向かって研究を進めます。服部ゼミ (臨床薬理学研究室) では、これからの薬剤師の役割として重視される「臨床」に関わる研究を深めています。

ゼミ紹介

失敗の理由を考える過程に意義を見出し、仲間と協力してさらに実験を重ねる

2008年に新設された薬学部では、私たちの学年が一期生。そのため先輩がおらず、直接教授から手技を教わるという非常に貴重な体験をしています。研究室のメンバーは皆とても仲が良く、いつも笑顔が絶えません。

私たちの研究室の特徴は、実際に患者の血液を用いて実験できるということにあります。現在は主として糖尿病患者の血液を取り扱っています。糖尿病患者にはインスリン治療を行っている方が多く、同じ病名でも個々に病態は異なり、その治療法も様々です。将来的には各患者に最もふさわしいインスリン療法を提供できることを目指しています。実験が失敗に終わることもしばしばですが、失敗の理由を考える過程に意

義を見出し、教授の指導を仰いだり意見を交換したりしながら実験を重ねています。

また2カ月に1回ほど、学部の紹介として、中高生に血圧の測り方や心肺蘇生法を教えるなどしています。彼らの素朴な疑問は私たちにとっても勉強になり、面白かったなどの感想を聞くと、とてもやりがいを感じます。ほかに月に1回の「縦割り活動」では、教授と1～5回生が集まり、意見交換やバスケットボールなどをして交流を深めています。

薬学部の5回生は、実務実習、研究、就職活動をすべて成立させなければなりません。研究に十分時間を割けない実情はありますが、その中でも仲間と協力して実験を行う日々はとても充実しています。



薬学部5回生
高橋 淳子 さん



抄読会を通して「自分の言葉で話す力」を身につける



研究はみんなで力を合わせて



学生と先生との関係はとてもフレンドリー



Schedule

5回生

前期は「The Cell」(英文分子生物学テキスト)を、後期は各自のテーマに関連した英語論文を使用して研究・発表。そのほか、実験計画に基づき日々実験を行う

Interview

内分泌系ホルモンや糖尿病などに関わる臨床を研究

『臨床薬理学研究室』では、成長ホルモン、プロラクチン、インスリンなどのホルモンに関する臨床的な研究をしています。

プロラクチンというホルモンは、女性が妊娠した時や、脳下垂体にプロラクチンを作り出す腫瘍ができた場合などに分泌量が多くなりますが、「マクロプロラクチン血症」という病態の場合にも数値が異常に高くなるということが確認されています。その頻度は非常に高く、一定の条件が重なってしまうことで誤診という事態も起こるのです。不必要な検査や薬物治療、あげくは手術にまで至ることもあります。このような事態を防ぐため、研究室では多数の検体を調べる「スクリーニング」を行っています。現在、スクリーニングができるのは、日本では立命館と東京女子医大の2カ所のみ。「マクロプロラクチン血症かどうか調べてほしい」と、全国の病院や研究所から送られてきた検体をアッセイ（評価）し、検討した結果を報告しています。

スクリーニングには高感度なアッセイ系が必要ですが、この研究室の強みは、従来のものよりはるかに高感度なアッセイ系を自ら作ることができるということ。現在は、甲状腺刺激ホルモンをターゲットにしたアッセイ系を確立し、甲状腺刺激ホルモンに対する自己抗体の臨床的意義を調べています。

ほかにも、インスリン治療中の糖尿病患者で、インスリンの効果を減弱させたり、急激な低血糖を引き起こす可能性のあるインスリン自己抗体がどのくらいの頻度で生じるのか、どの様なインスリンで抗体ができやすいか、自己抗体と反応しない最適なインスリンを患者に提案できないかという研究もしています。

大きな発展が見込まれる、これからの薬剤師の役割

薬学部の学生はみな、研究と就職活動と同時に、薬剤師国家試験の対策にも取り組まなければなりません。4回生の後半には、実技と知

識を試す薬学共用試験を受験。まずこの試験に合格しなければ5回生に進級できません。5回生になると病院と薬局で各11週間実務の経験を積み、さらに卒業研究、就職活動、国家試験の勉強に取り組みます。大変シビアで、相当な勉強量を必要とする学生生活ですが、意識が高く勉強熱心な学生が多いのが本学薬学部の特徴。学生たちは、はっきりと進路を見据えて学びを深めています。

今、6年制薬学部で重視されているのは臨床。この研究室の学びは、ちょうどこれからの薬剤師像に合った感覚を養うことが可能です。日本における薬剤師の地位は海外と比べるとまだかなり低い。けれど今後は大きく変わっていくはず。これからは欧米のように、病院に行く前にまず薬局で薬剤師が患者の健康相談に乗り、OTC薬で対処可能か、病院に行くことを勧奨すべきかを判断しなくてはならなくなるでしょう。また、高齢社会では自分で病院へ行くことができない患者を医療関係者が訪問する機会が増えてきますが、その際にも薬剤師の働きが注目されています。さらに、医師、看護師、栄養士といった専門家がチームとなって医療を遂行する「チーム医療」の現場でも薬剤師の活躍が期待されています。薬剤師の仕事の幅はこれからますます広がっていくのです。

学生たちには、楽しい学園生活を送りながらも、自分をしっかりみつめ、常に何をしたいのかを考え、ぜひ自分の進みたい道に進んでもらいたいですね。

Profile

服部尚樹（はっとり・なおき）

薬学部教授

1983年京都大学医学部卒業、医師免許取得。内科専門医。京都大学医学部附属病院、大阪北野病院勤務。1986年京都大学第2内科大学院入学、1990年医学博士修得。神戸医療センター中央市民病院糖尿病内分泌内科、関西医科大学薬理学教室准教授を経て2009年より現職。



Student's Voice

皆で支え合って
地道に研究を進める

薬学部5回生
岩根剛志 さん



研究室では、「MMP-3におけるプロラクチンの切断が、プロラクチンのNb2増殖能に与える影響」「インスリンを使っている人で、そのインスリンの種類によってできる抗体がどう異なるか。また、できた抗体によって抵抗性が増すか」について、メンバー全員で協力して学会での発表を目標に研究しています。研究ではたくさん失敗もしますが、皆で支え合うことで地道に進めています。

Student's Voice

研究は失敗の連続
常に考え続ける大切さを学ぶ

薬学部5回生
田淵淳一 さん



研究室では、これからの医療に貢献できるような研究と、世界に発信できるような人材となるために卒業論文を英語で作成することが基本。そのため英語の論文を読み、それをメンバーにわかりやすく説明することでスキルの上達に励んでいます。研究は、学生実験とは異なり失敗の連続であり、目的とするデータを得るためにどのようにすべきかを常に考え続けることが大切だと学びました。

編集
後記

薬学部では今年度から、縦割りの「アドバイザー制度」を導入。服部ゼミでは、各学年から学生が集まるこの縦割りクラスで、月に1回食事やスポーツをすることで、研究活動以外でも縦や横の結束を強くしている。教授と学生も非常に親しく、研究室に流れる空気はアットホーム。研究、就活、国家試験の受験と、三つを並行させるハードな日々を送る学生たちだが、その笑顔は充足感で輝いている。

施設紹介

東京キャンパス

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー 8階
TEL: 03-5224-8199 (学生専用)

■ 開館時間

月～金 9:00～17:30

※祝日、大学が定める休日、年末年始、夏季休業期間を除く

http://www.ritsumei.jp/tokyocampus/index_j.html



東京を拠点にした就職活動や面接前に活用すると便利です。

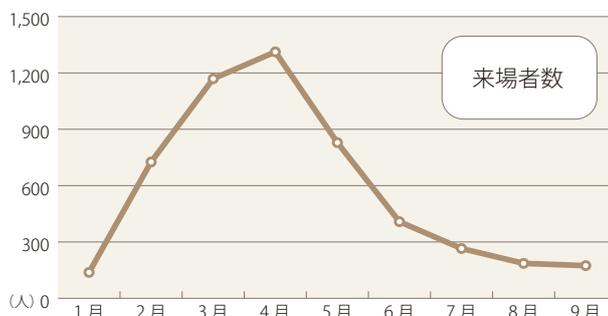
立

命館大学には、全国に出身地を持つ学生が数多く学んでいます。そのため東京に本社を構える企業はもちろん、関東・甲信越地域やUターン就職を考える学生も少なくありません。東京駅を降りてすぐという便利な場所にある東京キャンパスは、東日本を中心に就職活動を行う活動拠点として、年間5,000人を超える学生が利用しています。

就職活動期間中、地元や東京を拠点に、東京キャンパスで企業情報収集やエントリーを行う学生のほか面接のために上京し、ここで最終選考の準備を万端整えて企業に向かう学生もいます。

広々とした施設内には鏡付きの更衣室やロッカーが備えられ、スーツに着替えることができる上、スーツケースなどの大きな荷物も預けられます。また常時3名、就職活動ピーク時には5名のスタッフが駐在し、就職相談や模擬面接、エントリーシートのチェックといったサポートを受けられます。

大学から遠く離れ、一人で上京した学生も、ここに来て同じように就職活動がんばる大学の仲間に出会うことで、心細い気持ちを大いに励まされるようです。全国へのアクセスが容易な東京を拠点に、関東・甲信越、東日本全体で就職活動を行う際には、ぜひ活用してください。



東京キャンパスと
大阪キャンパスの
共通機能



パソコン検索スペース

面接前には campusweb から先輩の体験記録を閲覧するなどの準備ができます。そのほか企業へのエントリーや、プリンターを使ってエントリーシートの出力なども可能です。



就職相談

学生個々の希望する進路を実現するため、各学生の進路希望・状況、就職相談の内容・履歴は全てのキャンパスで共有される仕組みとなっています。



大阪キャンパス

〒530-0018 大阪府大阪市北区小松原町2-4 大阪富国生命ビル5階
TEL : 06-6360-4895

■ 就職活動のための利用時間

月～金	9:30～17:00
-----	------------

※祝日、大学が定める休日、年末年始、夏季休業期間を除く
※昼休み 11:30～12:30

☞ http://www.ritsumei.jp/osaka_office/index_j.html

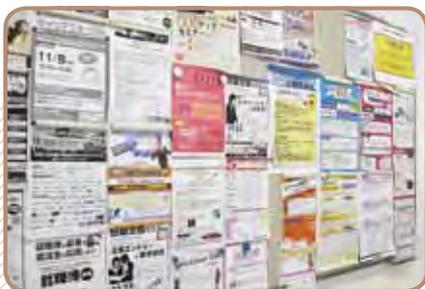


大阪における就職活動の拠点。選考直前期の支援企画が充実しています。

学 生が志望する企業の多くが大阪に本・支店を構え、選考直前の2月頃からは、各社が大阪にて自社セミナーを開催します。その時期に、衣笠キャンパス・BKCに代わる活動拠点として利用されているのが、JR大阪駅や各線梅田から徒歩数分と便利な立地にある大阪キャンパスです。セミナーや面接の合間に立ち寄って企業情報検索に取り組んだり、休憩をとったりする学生の姿が多数見られます。また本番直前に実践的なアドバイスを求めて足を運ぶ学生も少なくなく、年間の面談件数は1,600件超にのびります。

最大の特徴は、学生のニーズを反映した選考直前対策の充実度の高さにあります。2011年度は2、3月だけで545回の個人模擬面接、27回の集団模擬面接を実施し、延べ653人の学生が参加しました。併行して3月には、模擬グループディスカッションやOB・OG懇談会、昨年度からは大手企業のOB・OGによる選考対策講座も開催しています。

参加学生の満足度は高く、「面接での評価ポイントを把握できた」「個別のフィードバックがあり改善点が明確になった」といった声が寄せられており、大阪で就職活動を行う際の拠点として、重要な役割を果たしています。



就職情報収集

掲示板に合同説明会など最新の就職情報を掲示。また各種企業・業界情報や学内企業セミナーなどのDVD、先輩の就職活動報告なども閲覧できます。



履歴書購入

窓口では、立命館大学指定の履歴書を購入することもできます。急なエントリーでもここで履歴書を書き、準備することができるので安心です。

各種証明書の発行

就職活動で企業に提出が必要な成績証明書や卒業見込証明書、健康診断証明書などの各種証明書(有料)が発行可能です。



きょうのおひる

BKC [リンクカフェテリア]



ご飯・味噌汁・タンドリーチキン・オクラ巣ごもり玉子 430円

衣笠キャンパス [諒友館食堂]



スタミナ豆腐・鯖の南蛮漬・セルフバー 472円



情報理工学部4回生 須藤健也さん

卒業論文の提出を間近に控えている今、平日は朝から夜8時、9時まで研究に明け暮れる毎日を送っています。ユニオンスクエアカフェテリアで朝ご飯を食べ、昼はこちらで研究室の仲間と息抜きがてらワイワイ昼食をとるのが楽しみです。今日選んだタンドリーチキンは、辛みが効いてご飯に合うところが気に入っています。おすすめは、味噌汁。おいしくて、しかも31円と格安なんです！3回生まではマーチングバンドでフラッグを振って演舞するカラーガードに熱中していました。今は研究室にこもってばかりで運動不足になりがちなので、カロリーを摂り過ぎないように気をつけています。専門は「情報技術を使ったコミュニケーション支援」。現在はTwitter上で人のコミュニケーション活動を加速させるような情報推薦手法を研究しています。来年は大学院へ進学し、より研究を深めるつもりです。



文学部1回生 村田有結実さん

歴史、なかでも世界史が好きで、現在は文学部の国際文化学域で学んでいます。特に中世の絵画や建築に興味があり、日に日に「研究したい!」という気持ちが高まっていますね。昼休みを過ごすメンバーはいつも一緒。たいてい存心館の学食を利用するのですが、今日はたまたまこちらに来ました。ずっと食べたいと思っていた鯖の南蛮漬を迷わずチョイス。山口県の実家からお米を送ってくれるので、節約も兼ねて、炊いたご飯だけは毎日のように持参しています。一人暮らしで、自炊では簡単なメニューばかりになってしまいがち。だから、ランチのテーマは“栄養満点”。必ず一皿は野菜と決めています。今、一番夢になっているのは、京都市吹奏楽団での活動です。高校時代は吹奏楽部だったこともあり、音楽を楽しみたいと思い入団しました。担当はホルン。週1回の練習日を、いつも心待ちにしています。

学生の数だけお昼ご飯も個性豊か。衣笠キャンパス、びわこ・ぐさつキャンパスの両食堂を訪れ、お昼ご飯から、各々の学生のキャンパスライフを垣間見てみましょう。

衣笠キャンパス [諒友館食堂]



カレー中華・フルーツヨーグルト 451円

BKC [リンクカフェテリア]



ご飯・チキン南蛮・オクラ巣ごもり玉子 441円



文学部2回生 谷 明日香さん

1 回生のときから体育会のラクロス部に所属しています。ポジションはMF。大学から始められて、大学生だからこそできるというところに惹かれて入部を決めました。週5日の練習は午前8時から12時頃まで。午前中はBKCで汗を流し、午後から衣笠キャンパスで授業を受けます。朝食は6時半頃に軽く食べる程度なので、お腹ペコペコでここへ着き、授業に間に合うよう急いでランチ、というのがいつものパターン。滋賀の自宅から通っていることもあって、栄養バランスはあまり気にせず、早く食べられて、お腹いっぱいになるものを選んでしまいますね。定番は、丼もの2種類とデザート1品。今日はいつも以上に時間がなく、実はダイエット中…というわけで、丼ものを1種類にしました。文学部では東洋史を専攻。授業を午後にかためることで、大好きなラクロスを思う存分楽しみながら両立しています。



理工学部2回生 高田佑馬さん

実家から通っていますが、ほとんど毎日1限から4限まで授業が詰まっているので、昼食だけでなく、夕食もここで済ませることが多いです。予算は一食500円以内。家からお飯を持参して、おかずだけを買うこともあります。安くて、おいしくて、量があるのも嬉しいところです。最近のお気に入り、オクラ巣ごもり玉子です。授業の後は、週3、4日、地元のファストフードショップでアルバイト。それ以外の日は、友達の下宿で一緒に勉強したり、ボーリングや食事に出かけたり…。大学の友達と過ごす時間が一番楽しいですね。ウィンターシーズンはスノーボードサークルの活動も活発になるのでますます忙しくなりそう。遊んでばかりではありませんよ。3回生になると授業はより専門的になります。今はできるだけ幅広い分野を学んで自分の関心を見つけ、将来の進路も見据えて専門を選びたいと思っています。

本学の奨学金制度について

本学では、今年度から新しい奨学金・助成金制度の運用を開始しました。本学の奨学金・助成金制度は個人の学びと成長のみならず、集団での学びや活動も支援の対象としており、今年度初めて募集した奨学金・助成金へはさまざまな学びのスタイルを有する多数の方からの出願がありました。今回は主な奨学金・助成金制度の今年度の募集・採用状況についてお知らせします。ご父母の皆様がお子様と情報を共有いただき、2013年度以降の学生生活設計の一助あるいは励みにしていただければ幸いです。

I. 経済支援型奨学金

安心して学べる環境を整える



→いずれも経済基準・学業基準を設けています。成長支援型奨学金との併給は可能です。

修学奨励奨学金

経済的理由により修学が困難な学生を支援する制度で、年間授業料の1/4もしくは1/2を給付（授業料から差し引く形で給付）する奨学金です。新入生400名・在學生1,100名、合計1,500名の採用枠に対し、2012年度は約1,800名が受給しました。これは、この他の経済支援型奨学金の予算を活用したことによるものです。この奨学金は2000年度より募集を開始後、数回の採用枠拡大を経て、今年度より更に採用枠を拡大しました。なお、2013年度受給者（2012年度在學生対象）の募集・選考は終了しました。

〈2013年度（2014年度受給分）募集：2013年7月下旬〉

〔採用者の声〕

- 外国語を学んでいくうちに海外への興味が強くなりました。この奨学金をいただいて、お金の有難みがよくわかりました。これからはがんばります。（法学部 1回生）
- 奨学金が受給できたおかげで勉強に専念できたため、資格試験対策講座を受講し、試験にも合格できました。これからも日々の生活を充実させるとともに、自分で満足していく進路を実現できるように頑張ります。（産業社会学部 3回生）
- ひとり親家庭で育ち、家計が苦しい中、下宿をして大学に通っています。生活費をアルバイトで稼ぐ必要があり、サークル等をやる時間がありませんでした。この奨学金を受給できたので、いろいろなことに挑戦していきたいと考えています。（理工学部 1回生）

海外留学プログラム経済支援型奨学金

本学の国際センターが実施する留学プログラムへの参加を希望しながら、経済上の理由により応募・参加が困難である学生を支援し、留学プログラムへの参加・修了を実現することを目的とした給付制の奨学金です。給付額はプログラムにより異なります（10万円～120万円）。

※留学中、日本学生支援機構奨学金（貸与制）も受給可能です。ただし、別途手続が必要です。

父母教育後援会会員家計急変奨学金

父母教育後援会会員で学費負担者たる父母・保証人の死亡・病気・解雇等により家計が急変し、修学が困難となった学生を支援する奨学金で、採用となった Semester の授業料を給付します。毎年6月・11月に募集します。

〔採用者の声〕

- 父が失職したことが応募理由です。自分もアルバイトをしていますが、学費を全額支払うことは困難な状況でしたので、この奨学金により立命館大学で学業が続けられます。卒業研究では研究を重ね、将来は大学で学んだ知識や技術を活かし、人の喜びにつながる分野で活躍したいと考えています。（BKC所属 4回生）
- 父の病気による収入減のため出願しました。採用されたことにより、今まで費用の面で諦めていたサークル活動や正課外での外国語の勉強に積極的に取り組むことができます。知識を深め、人間として成長することで、感謝の意を表したいと思います。（衣笠所属 1回生）

大学院学内進学予約採用型奨学金

本学大学院への進学を希望しながら、経済的事情により進学が困難な学生を対象とした制度で、半期ごとに20万円、年間40万円を給付する奨学金です。他の奨学金との併給が可能です。制度発足初年度である2012年度の受給者は58名でした。2013年度に進学される方の募集・選考は終了しました。

〈2013年度（2014年度進学者）募集：2013年5月・11月〉

下記奨学金の詳細および下記以外の奨学金制度については、ホームページをご覧ください。

[奨学金制度のホームページ] <http://www.ritsumei.ac.jp/scholarship/> (大学トップページ→「学生生活・就職」→「奨学金制度」)

奨学金に関するお問い合わせ先 (問い合わせ時間 土・日・祝日を除く10:00～17:00)

- 衣笠キャンパス所属学部の方 (法・産業社会・国際関係・文・政策・映像) ……学生オフィス (衣笠) TEL:075-465-8168
- BKC所属学部の方 (経済・経営・スポーツ健康科学・理工・情報理工・生命・薬) ……学生オフィス (BKC) TEL:077-561-2854

Ⅱ. 成長支援型奨学金

→経済支援型奨学金との併給は可能です。

目標実現へのプロセスをサポートする



+R個人奨励奨学金

正課授業・課外活動の枠を超えた学生の自主的・主体的な取り組みを支援することを目的とした奨学金で、20万円を給付します。2012年度はコミュニティFMでラジオ番組・ラジオドラマを制作している学生 (文学部)、速く走るための要因を分野に捉われず多角的な視点で解明することをテーマに幅広い学びを実践している学生 (スポーツ健康科学部) など、合計で94名の学生が採用となりました。

西園寺育英奨学金

成績優秀者を奨励し、学部の掲げる「人材育成目標」にそった人材を育成することを目的とし、2～4回生 (ただし薬学部は2～6回生) を対象としています。映像学部・理工学部・情報理工学部・生命科学部・薬学部所属の学生には70万円、その他の学部の学生には40万円を支給しています。2012年度は全学で463名が採用となりました。2013年度の募集要項は3月下旬から所属学部事務室にて配布します。

学びのコミュニティ集団形成助成金

正課外活動において、下記いずれか (※) の活動計画を有する学部学生のグループで高い成果の達成が期待されるものにつき、活動経費の一部を助成することにより、自主的な学習活動の活性化をはかることを目的としています。1団体あたりの助成金の上限は50万円です。2012年度の採用数は35グループでした。

- ※ (1) 本学の教育課程の目的を達成するための活動
- (2) 学内外のコミュニティ形成を促進する活動
- (3) 本学の教学理念を活かして社会の要請に応える活動

海外留学プログラム参加奨励奨学金

海外留学プログラムへの参加、修了を支援することを目的としています。奨学金の給付対象の海外留学プログラムに参加が決定した方全員に支給されます。支給金額はプログラムにより異なります。

+R個人奨励奨学金

[採用者の声]

文学部
4回生
池内 友里絵 さん



奨学金を活用し、タイの孤児院で子どもたちに絵本を読み聞かせるボランティアに参加した他、大人にとっての絵本の楽しみ方を探る実態調査も実施。国境や世代を超えたコミュニケーションツールとしての絵本の可能性を探り、卒業論文にまとめることができました。奨学金は研究成果だけでなく、学びや研究に対するモチベーション向上にも役立ちました。

+R個人奨励奨学金

[採用者の声]

スポーツ健康科学部
3回生
笠井 信一 さん



陸上競技部で短距離走者として活動しながら、正課では研究者兼スポーツトレーナーを目指してトレーニング法などを勉強しています。奨学金を得て、トップアスリートがトレーニングするアメリカの施設でインターンシップを経験したり、日本の先進のトレーニング施設を見学。最先端のトレーニング現場を目の当たりにし、大きな刺激を受けました。

学びのコミュニティ集団助成金

[採用団体の声]

団体名: Atlas
経済学部
4回生
森田 和之 さん (代表)



多様な視点や知見を備えた教師になりたい。そんな思いから、教職を志す仲間とともに生活保護世帯の子どもへの学習支援を行う一方、オルタナティブ教育を実施する学校視察を実施しました。島根県、和歌山県、東京都など全国各地の学校へ赴くことができたのは、助成金のおかげです。さまざまな教育現場を垣間見て、教育に対する視野が大きく広がりました。

立命館大学は2013年度4月より キャンパス全面禁煙にむけて全学で禁

立命館大学のこれまでの取り組み

立命館学園は、教育機関としての社会的使命に鑑み、学生の将来にわたる健康と安全を守る立場から、2008年4月に「キャンパス全面禁煙に向けた指針」を策定し、2013年4月からキャンパス全面禁煙化の実施にむけ、キャンパス内のいかなる場所においても受動喫煙を防止し、学生に喫煙習慣をつけずに社会へ送り出す環境を確保することを目的として、様々な取り組みをおこなっています。なお、「健康増進法」(平成15年5月1日施行)では公共の場所で受動喫煙の被害が起こらないよう対策をとることが規定され、京都市(平成19年6月1日施行)や草津市(平成20年4月1日施行)の条例では、路上での喫煙をしないよう努力義務が課せられています。

喫煙状況、健康被害、副流煙による受動喫煙の被害

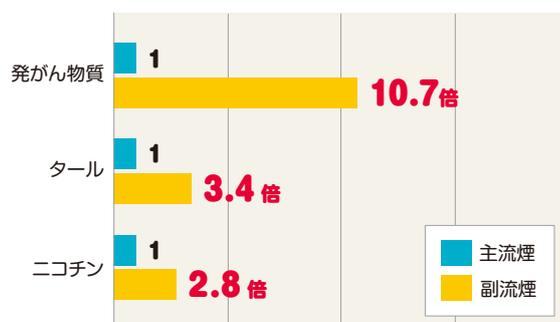
(1) 直接喫煙による健康被害

喫煙によって肺がんをはじめとする様々な健康障害が生じます。日本人男性のがん死亡の一位は肺がんですが、肺がんの約7割は喫煙が原因と言われています。体に悪いと知りながら、ニコチン依存症の為にたばこを止めることができず、病気になってしまうところが問題です。これらの病気が原因で、喫煙者は非喫煙者に比べて平均5～10年寿命が短くなります。日本では、年間約11.4～19.6万人が喫煙で死亡すると試算されています。年間死亡数125万人の約1割を占めていますので、かなり大きな数字です。

(2) 副流煙による受動喫煙の被害

喫煙者が直接吸う主流煙に比べ副流煙中には、発癌物質が10.7倍、タールが3.4倍、ニコチンが2.8倍、アンモニアが46倍も含まれます。この副流煙が粘膜を刺激することで、周りにいる人も目のかゆみ、涙目、鼻閉、くしゃみ、鼻水、咳、ぜん息などの急性の症状を生じます。また、最近の知見で、受動喫煙対策を実施した国や地域では急性心筋梗塞症例が平均1～4割減少しており、受動喫煙が心筋梗塞発症の引き金になることが明らかになりました。慢性的な受動喫煙で肺がんをはじめとする全身のがんや心筋梗塞の原因となります。外国では副流煙は明確な発がん物質であると認められています。

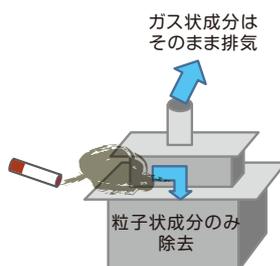
副流煙の成分(主流煙を1とした場合)



「分煙の限界」

シェルター内に設置されている空気清浄機は環境たばこ煙中の浮遊粒子状物質の除去については有効な機器ですが、ガス状成分(アンモニア、一酸化炭素、窒素酸化物、一部の発癌物質など)の除去については不十分です。そのまま外気に放出されますので、近づくと受動喫煙を受けるかもしれません。

空気清浄機(分煙機)



副流煙の成分(主流煙を1とした場合)

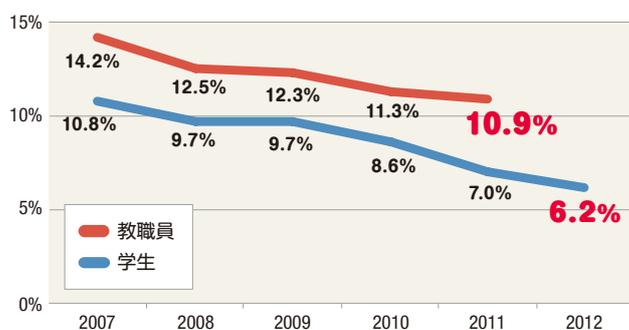


煙の取組みを行っています。

立命館大学の喫煙率

この数年の間に、立命館大学の喫煙率は着実に年々低下しています。2007年に教職員14.2%、学生10.8%あった喫煙率も、2011年に教職員は10.9%、2012年に学生は6.2%にまで減少しています。なお、教職員は先行して2010年度よりキャンパス全面禁煙となっています。

学生・教職員の喫煙率の推移



健康増進法や京都市条例・草津市条例について

●健康増進法25条（平成15年5月1日施行）について

学校、体育館、病院、劇場、観覧場、集会場、展示場、百貨店、事務所、官公庁施設、飲食店その他の多数の者が利用する施設を管理する者は、これらを利用する者について、受動喫煙（室内又はこれに準ずる環境において、他人のたばこの煙を吸わされることをいう。）を防止するために必要な措置を講ずるように努めなければならないと規定しています。

●京都市条例（平成19年6月1日施行）・草津市条例（平成20年4月1日施行）について

「京都市路上喫煙等の禁止等に関する条例」や「草津市路上喫煙の防止等に関する条例」では、路上喫煙をしないよう努力義務を課しています。なお、京都市では繁華街などの一部禁止区域で喫煙に対して過料を科しています。

また、喫煙を規制する条約「世界保健機関枠組条約（FCTC）」（2005年2月27日発効）や厚生労働省指針（受動喫煙防止対策について【健発0225第2号、平成22年2月25日】）があります。

禁煙相談、禁煙外来の紹介

保健センターでは、本学の学生・教職員を対象に禁煙相談や保険診療による禁煙外来を行っています。看護師による禁煙相談は随時、医師による禁煙外来は初回のみ予約制になっていますので、まずは電話予約をとってください。

医師による禁煙外来（初回）

【衣笠】 月・火・水・金 15:30～16:30 TEL:075-465-8232

【BKC】 月・火・金 16:00～17:00 TEL:077-561-2635

【朱雀】 水 9:30～11:00 / 木 13:30～15:00 TEL:075-813-8153

※朱雀では保険による禁煙治療は行っていません

2012年度の取組み

立命館大学は2012年11月から試行的にキャンパス全面禁煙に取り組んでいます。父母の皆様もご理解とご協力をお願いします。

【キャンパス禁煙デーの取組み】

期間中は教職員等による巡回を実施し、キャンパス内やキャンパス周辺で受動喫煙の防止とマナー向上の取組みを行っています。キャンパス禁煙デー以外の日でも指定場所以外での喫煙はもちろん、キャンパス周辺での路上喫煙、たばこのポイ捨てをしないことを立命館大学にかかわる全ての皆様に呼びかけています。

<http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/st/student/no-smoking/>

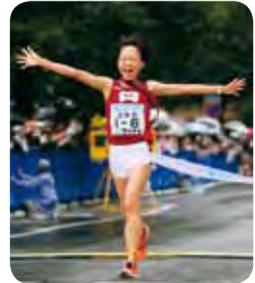


SPORTS スポーツ

【問い合わせ先】スポーツ強化センター：075-465-7863

女子陸上競技部 第30回全日本大学女子駅伝対校選手権大会2年連続7回目の優勝 [10月28日 宮城県仙台市]

「第30回全日本大学女子駅伝対校選手権大会」において、女子陸上競技部が、2年連続7回目の優勝を果たしました。レースは、2区を走った主将の籾下明音選手（経営3）が区間賞の走りで首位に立つと、3区の津田真衣選手（経営2）、そして最終6区の三井 綾子選手（スポーツ健康科学3）も区間賞を獲るなど、各選手が粘り強い走りを見せ、2時間6分5秒の好タイムでゴールテープを切りました。



第9回世界女子相撲選手権大会 山中未久選手（スポーツ健康科学1）が3位入賞 [10月28日 中国香港]

「第9回世界女子相撲選手権大会」において、山中未久選手（スポーツ健康科学1）が軽量級（65kg未満級）で3位入賞を果たしました。山中選手は軽量級で出場しました。力で勝る外国人選手に対し、持ち前のスピードと技術で、勝ち上がりました。準決勝は、前回大会優勝のポイコワ・アリナ選手（ウクライナ）に惜敗したものの、3位決定戦ではスピード感溢れる相撲で勝利し、3位入賞を果たしました。



CULTURE / ART 文化・芸術

【問い合わせ先】学生オフィス：075-465-8167

ダブルダッチ 世界大会「DOUBLE DUTCH HOLIDAY CLASSIC」で初優勝 [12月2日 ニューヨーク・アポロシアター]

ダブルダッチの世界大会「DOUBLE DUTCH HOLIDAY CLASSIC」において、国内大会で2位と3位を獲得して日本代表として出場した、本学のダブルダッチサークル「Fusion of Gambit」の「我」が優勝、「M.A.D」が3位入賞を果たしました。今回は、2011年に本学のチームが獲得した2位と3位を超える快挙となりました。



「Fusion of Gambit」の皆さん

珠算部 平成24年度全日本通信珠算競技大会で優勝 [10月14日 京都府中小企業会館]

「平成24年度全日本通信珠算競技大会」において、珠算部が4年ぶりの団体総合競技優勝を果たしました。全日本通信珠算競技大会は、全日本選手権とならぶ主要な大会の一つで、各地方会場で開催された同一問題による大会の全国成績が、約一ヶ月後に発表される形式で行われる大会です。同部は2012年8月に開催された七夕そろばんワールド2012でも4連覇を果たしており、今後の活躍が期待されます。



囲碁研究部 第56回全日本大学囲碁選手権で優勝 [12月23～26日 東京・日本棋院]

「第56回全日本大学囲碁選手権」において、関西代表校として出場した囲碁研究部が、3年ぶり5回目の優勝を果たしました。全勝対決となったライバル・早稲田大学との最終戦では3勝2敗で勝利し、日本一を勝ち取りました。また、12月20～22日に開催された「全日本学生囲碁王座戦」において、柳田朋哉さん（文1）が優勝し、11月の「全日本学生囲碁十傑戦」優勝に続き、学生個人タイトル二冠に輝きました。



学園トピックス

学生の取り組み

経営学部50周年記念式典を開催

経営学部の創設50周年を記念した式典・祝賀会が11月17日(土)、ハイアットリージェンシー京都で行われ、卒業生や教員、在学生などおよそ300人が集まりました。開会の挨拶では50周年記念事業推進委員長の中西一正学部長が、学部の歴史を築き支えてきた人たちへ感謝の意を表すとともに、2015年に開設する大阪茨木新キャンパスへの支援を呼びかけました。続いて川口清史総長からの挨拶、大阪商工会議所会頭・京阪電気鉄道株式会社取締役相談役、取締役会議長の佐藤茂雄氏による記念講演会が行われました。式典後は祝賀会が開かれ、経営学部1期生から在学生までが集り、旧友や恩師との再会を喜び語らう多くの姿が見られました。



立命館大学大阪茨木新キャンパス建設用地埋蔵文化財発掘調査現地説明会を開催

2015年4月開設の大阪茨木新キャンパス建設用地で、12月15日(土)に埋蔵文化財発掘調査現地説明会を開催しました。600名を超える考古学ファンや周辺住民の方々が参加し、弥生時代から古墳時代にかけての遺構・遺物や古墳を見学しました。茨木市教育委員会の学芸員から、列状に並んだ弥生時代後期の大規模な土坑群や周辺地区の遺跡との関連性などに関する説明が行われました。埋蔵文化財発掘調査は2013年3月下旬まで実施され、4月以降に新キャンパスの工事が着手される予定です。



整列した状態で見つかった土坑群

教育・研究の取り組み

グローバルキャリア企画「Creating a Future Beyond Borders」を開催

11月24日(土)、衣笠キャンパスにおいて、グローバル・キャリア支援企画「Creating a Future Beyond Borders」を開催し、約150名が参加しました。大学在学中に海外留学を経験し、卒業後に国際社会で活躍している方々による海外留学の意義や魅力についての講演や、「留学経験とキャリアプランニング」をテーマに意見交換が行われ、積極的な質疑応答も行われました。



文学部 吉田甫・特任教授らの研究グループが認知症高齢者の抑制機能の低下を食い止め・改善する方法について科学的な検証に成功

文学部 吉田甫・特別任用教授らの研究グループは、認知症の患者でも行うことができる計算等の簡単な課題を継続的に遂行することにより、認知機能(記憶する能力、抑制する能力、注意する能力、計画する能力など)の内、行動や感情などを抑制する能力である抑制機能の低下の進行を遅らせ、改善が期待できることを科学的に実証しました。本研究成果は、認知症の患者本人に対してだけでなく、家族、介護施設の負荷を減らし、さらには社会保障関係費の削減という面からも期待されます。



計算課題に取り組む様子

雑誌「AERA」にて研究者紹介シリーズ第5弾がスタート

雑誌「AERA」(朝日新聞出版)にて研究者紹介シリーズ第5弾がスタートしました。今日的なテーマを研究している研究者を中心に、2012年12月3日(月)～2013年3月11日(月)発行のAERAに毎週掲載される予定です。また、掲載された内容は立命館大学HPでご覧いただくことができます。



12月10日発売号に登場した情報理工学部の高田秀志教授

学生の取り組み

年末にかけて岩手県大船渡市と宮古市でボランティアバス企画を実施

立命館災害復興支援室は、12月21日(金)から27日(木)にかけて、東日本大震災の被災地である岩手県大船渡市と宮古市でのボランティアバス企画を実施しました。今回の企画では、被災された方々に心温まる時間を過ごしてもらうことを目的として、学生たちが子どもからお年寄りまで楽しめる様々な企画を準備しました。大船渡市で活動したグループは、岩手県遠野市のNPO法人遠野まごころネットが企画した「サンタが100人やってきた！」プロジェクトに参加し、サンタの衣装を着て町を歩きながら子どもたちにプレゼントを配布しました。宮古市で活動したグループは、宮古市社会福祉協議会の協力を得て、市内の仮設住宅や公民館等のコミュニティスペースでクリスマスカードや京都産の北山杉の板を使った手作り表札づくりのワークショップなどを実施しました。



活動の様子

2012年度後期 卒業式・学位授与式のご案内

びわこ・くさつキャンパス

2013年3月20日[水・祝]

[会場] BKCジム

[父母中継会場] プリズムホール

第1回(10:00～)	理工学部、情報理工学部、生命科学部
第2回(13:00～)	経済学部、経営学部

衣笠キャンパス

2013年3月21日[木]

[会場] 京都衣笠体育館(明学館西側) ※卒業生のみ

[父母中継会場] 以学館1号・2号ホール

第1回(10:00～)	法学部、政策科学部
第2回(12:00～)	産業社会学部、国際関係学部
第3回(14:00～)	文学部、映像学部

- 式典は厳粛に執り行います。時間に余裕を持って入場してください(開式10分前までに必ずご着席ください。)
- びわこ・くさつキャンパスの式典会場の父母席は、数に限りがございます。式典会場にお入りいただけない場合がございますので、予めご了承ください。なお、式典会場の父母席が満席となった場合は、中継会場のプリズムホールにご案内させていただきます。中継会場では映像により、学位授与式の模様をご覧いただくことができます。
- 衣笠キャンパスの学位授与式は、収容定員の関係で京都衣笠体育館は卒業生のみとなりますので、父母の皆さまは中継会場の以学館1号・2号ホールへお越しください。
- 本学には駐車場はございませんので、公共交通機関でご来場ください。
- お問い合わせは、所属学部事務室までお願い致します。

アカデミック講演会のお知らせ

アカデミック講演会は、キャンパスから離れた地域に住む父母の方にも、「立命館」を身近に感じていただける機会として、2011年度から父母教育後援会特別事業として実施しています。2013年度は、北海道と香川県で開催します。

アカデミック講演会 in Hokkaido

2013年10月19日[土]

会場 北海道 札幌市 ACU [アキュ] (アスティ 45内)

受付 13:00～

講演 13:30～15:00

※講演終了後にコーヒーと茶菓子を用意しております。

アカデミック講演会 in Kagawa

2013年10月27日[日]

会場 香川県 高松市 リーガホテルゼスト高松

受付 13:00～

講演 13:30～15:00

※講演終了後にコーヒーと茶菓子を用意しております。

会員の住所変更について

本誌は、学生が学部へ届け出ている保証人住所宛に送付しています。保証人住所を変更される場合は学生本人による手続きが必要です。各学部事務室(BKC所属の方は学びステーション)まで学生証を持参の上、手続きするようお願いいたします。

※最近、立命館や関係団体等の名前を利用した悪質なビジネス等が横行しております。父母教育後援会は、会員の照会を学外には一切行っておりませんので、くれぐれもご注意ください。

父母教育後援会ホームページのご案内

<http://www.ritsumeit.ac.jp/mng/fubo/index.htm>

立命館大学のホームページアドレスからは…

「保護者の皆さまへ」▶「立命館大学父母教育後援会」をクリック

立命館大学父母教育後援会だより 2012年度 冬号